



# **Agile Product Lifecycle Management**

インポートおよびエクスポート・ガイド

v9.3.0.2

部品番号: B61293-01

2011 年 2 月

## オラクル社の著作権について

Copyright © 1995, 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

オラクル社の著作権について .....	ii
リリース 9.3.0.2 の変更点 .....	xii
<b>インポートの基礎.....</b>	<b>1</b>
概要 .....	1
Agileインポート・ウィザードについて .....	1
Product Collaboration.....	1
Product Cost Management .....	2
Product Quality Management.....	2
Product Governance & Compliance .....	2
Product Portfolio Management.....	3
インポート・ウィザードを使用する前に .....	3
インポート・ウィザードの使用に必要な権限 .....	3
データ・インポートの推奨手順 .....	4
プロダクト・コンテンツをインポートする手順.....	4
公表価格をインポートする手順 .....	4
製品サービス依頼をインポートする手順 .....	4
品質変更要求をインポートする手順 .....	5
サプライヤの製造元提示をインポートする手順.....	5
Product Governance & Complianceオブジェクトをインポートする手順.....	5
任意の手順でインポートできるオブジェクト.....	5
大容量インポート・ファイルのインポートに関するガイドライン .....	5
インポート・ウィザードを開始する .....	6
インポート・ウィザードの手順 .....	6
<b>ソース・データを準備および選択する .....</b>	<b>9</b>
サポートされているフォーマット .....	9
フィールドAgile PLMについて .....	9
Agileクラス・レポートを印刷する .....	10
データ・タイプ .....	10
フィールドの最大長の値 .....	11
親フィールドと子フィールド .....	11
データ値に対してサポートされているフォーマット .....	11

推奨日付フォーマットと推奨タイム・ゾーンを設定する .....	11
サポートされている日付フォーマット .....	12
タイム・ゾーンを指定する .....	13
aXMLおよびPDXパッケージの日付フォーマット .....	13
通貨の値をインポートする .....	14
通貨記号と名前 .....	14
インポートされた通貨値の設定 .....	19
質量をインポートする .....	19
地理的な場所をインポートする .....	20
動的リストに値をインポートする .....	20
カスケード・リストをインポートする .....	20
BOM参照指示を使用する .....	21
参照指示の範囲 .....	22
参照指示の範囲で先行ゼロを使用する .....	22
aXMLおよびPDXパッケージから参照指示をインポートする .....	23
Excelファイルおよび区切り文字テキスト・ファイルのガイドライン .....	23
改行およびラインフィード文字を削除する .....	25
BOMコンポーネントを並び替える .....	25
Microsoft Excelファイルからデータをインポートする .....	26
Excelで区切り文字テキスト・ファイルを編集する .....	27
区切り文字テキスト・ファイルをExcelにインポートする .....	27
インポート・ウィザードでExcelデータをパースする方法 .....	28
Excelファイルの設定を指定する .....	28
区切り文字テキスト・ファイルからデータをインポートする .....	28
区切り文字テキスト・ファイル設定を指定する .....	30
PDXパッケージおよびaXMLファイルからデータをインポートする .....	30
PDXパッケージからインポート可能なオブジェクト .....	32
aXMLファイルからインポート可能なオブジェクト .....	32
テンプレートを使用してデータをインポートする .....	35
レベル・テンプレートについて .....	36
関係テーブルにオブジェクトをインポートする .....	40
<b>インポート・プリファレンスを設定する .....</b>	<b>41</b>
プリファレンスについて .....	41
パースと検証オプションを設定する .....	42
存在しないデータを受諾または却下する .....	42
存在しないオブジェクトをインポート中に受諾または却下する .....	42
存在しないオブジェクトを検証後に選択的に受諾または却下する .....	43
ビジネス・ルール・オプションを設定する .....	44
スマート・ルール警告違反動作 .....	45
参照指示の数量不一致動作 .....	45
存在しないオブジェクトに対する動作 .....	45
変更モード .....	46
レッドライン・モード動作 .....	46

BOMおよびAMLの動作 .....	46
複数行更新モード .....	46
選択的削除オプションを設定する .....	47
価格数量割引のデフォルト .....	51
ソーシング・プロジェクト数量ロールアップ .....	51
参照指示範囲文字 .....	52
参照指示の区切り文字 .....	52
ユーザー・セッションでインポート設定を維持する .....	52
ファイル・システムでインポート・プリファレンス設定を維持する .....	53
ユーザーがプリファレンス設定を保存（維持）できるようにする .....	53
役割と権限を割り当てる .....	54
インポート・プリファレンスを設定および保存する .....	55
デフォルト・タイプを設定する .....	56
デフォルトの自動採番ソースを設定する .....	57
<b>インポート前にソース・データを検証する .....</b>	<b>59</b>
概要 .....	59
ソース・データ検証の規模と範囲 .....	59
サポートされるファイル・タイプとオブジェクト .....	59
サポートしているテーブル .....	60
Agile SDKおよびAgile Integration Servicesの検証サポート .....	61
検証結果ログ・ファイル .....	61
検証ログ・ファイル出力の例 .....	61
データ検証の手順と例 .....	63
データ検証の例 .....	63
<b>製品コンテンツをインポートする .....</b>	<b>65</b>
インポートする製品コンテンツのオブジェクトを選択する .....	65
アイテムをインポートする .....	66
存在するBOMコンポーネント、および存在しないBOMコンポーネントをインポートする .....	66
見出し番号をインポートする .....	67
一部のBOMをインポートする .....	67
インポート中のアイテムの説明動作 .....	67
リリース 9.2.2 の動作 .....	67
リリース 9.3 の動作 .....	68
部品構成表（BOM）をインポートする .....	68
製造元と製造元部品をインポートする .....	69
アイテム番号と見出し番号が重複したBOMをインポートする .....	69
承認済製造元リストをインポートする .....	69
子製造元部品の自動作成 .....	70

一部のAMLをインポートする .....	70
見積履歴、公表価格、および公表価格ラインをインポートする .....	70
主な価格フィールド .....	70
主な価格ライン・フィールド .....	71
一部の価格ラインをインポートする .....	72
顧客および製品サービス依頼をインポートする .....	72
顧客をインポートする .....	72
製品サービス依頼をインポートする .....	73
品質変更要求をインポートする .....	75
レッドラインまたは新規作成モードを使用する .....	76
変更指示を選択する .....	77
BOM、AML、および公表価格ラインのロールバック .....	77
拠点別のBOMとAMLをインポートする .....	78
Agile Product Governance & Complianceデータをインポートする .....	80
デklarレーション・タイプ、サポートされているテーブル、およびインポート可能なオブジェクト .....	80
aXMLおよびPDXパッケージから添付ファイルをインポートする .....	82
インポート可能な添付ファイルのフィールド .....	82
添付ファイルの最新バージョンをインポートする .....	83
URL添付ファイル .....	83
添付ファイルと親アイテムのロールバック .....	83
添付ファイルの値を変換する .....	83
複数ファイル（フォルダ）を持つ添付ファイルをインポートする .....	83
添付ファイル・レッドライン .....	84
特別なエクスポートおよびインポート・コマンドを使用してデklarレーションを完成する .....	84
Agileパッケージから添付ファイルをインポートする .....	84
<b>サプライヤおよびシステム・データをインポートする .....</b>	<b>87</b>
サプライヤをインポートする .....	87
サプライヤ製造元および部品分類提示をインポートする .....	88
1回の操作で提示と格付をインポートする .....	89
サプライヤの見積依頼回答をインポートする .....	89
Webサプライヤ以外のサプライヤの回答をインポートする .....	90
サプライヤの回答フィールドを編集する際のガイドライン .....	90
提示された代替部品を回答ファイルに追加する .....	92
回答を価格算出ケースにインポートする .....	93
サプライヤからの回答フィールドの有効な値 .....	93
通貨換算テーブルをインポートする .....	94
<b>ソーシング・プロジェクトヘデータをインポートする .....</b>	<b>97</b>
ソーシング・プロジェクトについて .....	97
ソーシング・プロジェクトからインポート・ウィザードを開始する .....	97
レベル・テンプレートおよび親-子テンプレートをソーシング・プロジェクトにインポートする .....	98

ロールアップ数量を計算する .....	99
プロジェクトにインポートできるデータ・タイプ .....	99
プロジェクトからアイテム・マスターへAMLを公表する .....	99
数量割引と目標コストをマッピングおよびインポートする .....	99
プロジェクトでのリビジョンの処理方法 .....	100
<b>インポート・フィールドをAgileフィールドにマッピングする .....</b>	<b>101</b>
マッピング・ファイルについて .....	101
キー・フィールドと必須フィールド .....	101
BOMのマッピング要件 .....	105
見積履歴および公表価格のマッピング要件 .....	106
マッピング・クラスとサブクラス .....	106
変更指示とマッピング・ファイルを選択する .....	106
新規マッピング・ファイルを作成する .....	107
「ページ2」と「ページ3」フィールドをマッピングする .....	107
「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウでのフィールドの並び替え .....	108
マッピング・ファイルを再利用する .....	109
マッピング・ファイルを編集する .....	110
PDXおよびaXMLパッケージをマッピングする .....	111
<b>変換定義ファイルを作成する .....</b>	<b>113</b>
変換定義ファイルについて .....	113
必要なカラムおよびカラム・ヘッダ .....	114
PREFIX、SUFFIX、またはREPLACEの操作を使用する .....	115
ソース・パターン・フィールドで正規表現を使用する .....	115
空白フィールドをデフォルト値で置き換える .....	116
変換テンプレートを作成する .....	117
異なるタイプのデータを変換する .....	117
アイテム番号を変換する .....	118
マルチリストの値を変換する .....	118
製造元名を変換する .....	119
AMLデータを変換する .....	119
変換定義ファイルを再利用する .....	119
<b>データ・インポート後の推奨タスク .....</b>	<b>121</b>
インポート・セッションのステータスを確認する .....	121
インポート処理をキャンセルする .....	121
インポート・ログを読み取る .....	122
トラブルシューティング .....	122
一般的なエラー・メッセージ .....	122

空白のフィールドをインポートする .....	124
必須フィールドすべてをマッピングする .....	124
親/子フィールドを構成する .....	124
サプライヤ提示をインポートする .....	124
スマートルールを管理する .....	125
保留中またはリリース済のアイテムと価格を更新する .....	126
インポート時の重複レコードの取り扱いについて .....	126
<b>データをエクスポートする .....</b>	<b>127</b>
エクスポート・ウィザード .....	127
エクスポートの権限と役割 .....	127
エクスポート可能なオブジェクト・クラス .....	128
エクスポート・ファイルのフォーマット .....	129
Microsoft Excelファイルおよびテキスト・ファイルへのエクスポートに関するガイドライン .....	130
aXMLおよびPDXパッケージへのエクスポートに関するガイドライン .....	131
エクスポート・ウィザードを開始する .....	132
エクスポート・ウィザードを使用してデータをエクスポートする .....	132
フィルタを指定する .....	134
保存されたフィルタを使用する .....	134
BOMフィルタを使用する .....	134
カスタム・フィルタを作成する .....	135
システム・デフォルト・フィルタを使用する .....	135
添付ファイルのエクスポート時にフィルタを指定する .....	136
PLMオブジェクトをエクスポートする .....	136
PSR、QCR、およびサプライヤ・オブジェクトをエクスポートする .....	136
対象アイテムのレッドラインBOMとAMLをエクスポートする .....	137
オブジェクトの関係テーブルをエクスポートする .....	137
同じアイテムの複数のリビジョンをエクスポートする .....	138
ヘッダーを指定する .....	138
ファイルをダウンロードする .....	138
エクスポートしたファイルを表示する .....	138
<b>FileLoadを使用する .....</b>	<b>139</b>
概要 .....	139
FileLoadクライアントを選択する .....	139
パフォーマンス .....	140
FileLoadによるファイル検出方法 .....	140
ファイルにリファレンスをロードする .....	141
FileLoadのオプション .....	141



作業を開始する前に.....	141
ファイル・サイズとバッチ制限 .....	141
全文検索インデックスの同期を無効にする .....	141
ウィルスソフトを無効にする .....	142
必要とされるAgile PLM権限.....	142
ローカル・ドライブからファイルをアップロードする.....	142
リモートからファイルをアップロードする .....	142
LinuxまたはSolarisサーバー上のPLMにファイルをアップロードする.....	142
カスタム・ファイル格納庫の設定 .....	143
プロセスの概要.....	144
インデックス・ファイルを準備する .....	145
インデックス・ファイルの構造 .....	146
オブジェクト・タイプ・キーワード .....	148
プライマリおよびセカンダリ・キー .....	148
アイテム・リビジョン .....	149
インデックス・ファイルの例 .....	150
ファイルのアップロードに使用されるインデックス・ファイルの例.....	150
ファイルにリファレンスをアップロードする際に使用されるインデックス・ファイルの例 .....	150
URLのアップロードに使用されるインデックス・ファイルの例.....	151
複数のファイルを同じファイル・フォルダにロードする .....	151
ファイル・フォルダ・サブクラスまたはデザイン・サブクラスにファイルをロードする .....	151
ファイル・マネージャによるINPLACEファイル検出方法.....	151
添付ファイルの処理.....	152
結果を評価する.....	154
JavaクライアントでFileLoad結果を評価する .....	154
WebクライアントでFileLoad結果を評価する .....	154
ログ・ファイル出力の例 .....	155
却下された添付ファイルを修正して再ロードする .....	155
エラー・メッセージ.....	156
<b>データ・エクスポート用のAgile aXMLスキーマ .....</b>	<b>159</b>
変更履歴 .....	159
変更履歴 9.3.0.1.....	160
概要 .....	160
オブジェクト参照.....	160
Null値 .....	161
属性名 .....	161
日付 .....	162
マルチリスト・フィールド .....	162

ユーザーによって定義されたユーザー設定フィールド .....	162
日付.....	163
リスト.....	163
通貨.....	163
マルチリスト.....	163
マルチテキスト.....	163
数値.....	164
テキスト.....	164

# はじめに

Agile PLMマニュアル・セットにはAdobe® Acrobat PDFファイルが含まれています。[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) には、Agile PLMの最新版のPDFファイルがあります。このWebサイトのマニュアルは、その場で表示することもダウンロードして使用することもできます。また、使用しているネットワーク上のAgile PLMマニュアル・フォルダにAgile PLMマニュアル (PDF) ファイルが格納されている場合もあります。詳細は、Agile管理者にお問い合わせください。

---

**注意** PDFファイルを表示するには、Adobe Acrobat Readerのバージョン 7.0 以降 (無料) を使用する必要があります。このプログラムは、[Adobe社のWebサイト](http://www.adobe.com) (<http://www.adobe.com>) からダウンロードできます。

---

[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) は、Agile WebクライアントとAgile Javaクライアントのいずれの場合も、「ヘルプ」>「マニュアル」の順に選択してアクセスできます。さらに疑問点がある場合やサポートが必要な場合は、My Oracle Support (<https://support.oracle.com>) にお問い合わせください。

---

**注意** Agile PLM マニュアルに関する問題について Oracle サポートにお問い合わせいただく前に、タイトル・ページにある部品番号をご準備ください。

---

## Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800) 446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

## Readme

Agile PLMの最新情報は、すべて[Oracle Technology Network \(OTN\) Webサイト](http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html) (<http://www.oracle.com/technology/documentation/agile.html>) にあるReadmeファイルに記載されています。

## Agile トレーニング支援

Agileトレーニングの講義内容詳細は、[Oracle University Webページ](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html) ([http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry\\_new.html](http://www.oracle.com/education/chooser/selectcountry_new.html)) にアクセスしてください。

## ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関する評価や言及は行っておりません。

# リリース 9.3.0.2 の変更点

今回のリリースの PLM インポートおよびエクスポート・ソリューションに導入された新機能および拡張機能の概要を次に示します。

## インポートの変更点

インポート・コンポーネントの新機能や拡張機能はありません。

## エクスポートの変更点

エクスポート・コンポーネントの変更点は次のとおりです。

- `export.maxNumberObjectsForExport` という新しいフィールドにより、エクスポート可能な BOM 内のオブジェクト数に制限を設定できるようになりました。ひとつのプロセスによるシステム・リソースの過剰使用を防ぐことが目的です。
- `export.useMinimalSystemFilter` という新しいフィールドにより、システム・フィルタを使用してエクスポート・タブに制限を設定できるようになりました。この値を「True」に設定すると、「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」および「添付ファイル」タブの詳細のみがエクスポートされます。この設定はシステム・フィルタのみに適用されます。デフォルトのフィルタやカスタム・フィルタに影響はありません。

---

**注意** リリース 9.3.0.2 では、この制限はインストールや設定の過程において `agile.properties` ファイル内の `export.maxNumberObjectsForExport` フィールドに設定保存されます。

---

## リリース 9.3.0.1 の変更点

このリリースの Agile インポートおよびエクスポート・ソリューションでは、既存の機能への新機能や拡張機能はありませんでした。

## リリース 9.3 リビジョン 4 の変更点

付録「データ・エクスポート用の Agile aXML スキーマ」で、Agile aXML スキーマの参照先 URL が変更され、OTN 上の新しい場所を参照するようになりました。このガイドの以前のリリース 9.3 版では、次の点が更新されました。

## リリース 9.3 リビジョン 3 の変更点

インポート/エクスポートのリリース 9.3 マニュアルを更新したこのバージョンでは、デザイン・オブジェクトに対する FileLoad のサポートが変更されました。この機能は、ファイル・フォルダ・オブジェクトに対する FileLoad のサポートに類似しています。「FileLoad を使用する」を参照してください。次に、リリース 9.3 の更新および機能の概要を参考までに示します。

## リリース 9.3 の更新

このマニュアルのリリース 9.3 には、新しい内容および更新として、再設計されて大幅に拡張されたリリース 9.3 Web クライアントのユーザー・インタフェースについて記載されています。

### データ・インポートの変更点

**BOM/AML行の選択的削除:** 「選択的削除」という新しいオプションが、インポート・ウィザードの複数行更新動作のプリファレンスに追加されました。このオプションを選択すると、インポートでBOMまたはAML行を選択的に削除できます。46ページの「[複数行更新モード](#)」を参照してください。

**インポート中のアイテムの説明動作:** リリース 9.3 では、リリース済バージョンがアイテムに関連付けられている場合または関連付けられていない場合に、レッドライン・モードまたは新規作成モードにおいて、インポートされたアイテムの追加の説明動作がサポートされるようになりました。67ページの「[インポート中のアイテムの説明動作](#)」を参照してください。

また、インポート手順にリリース 9.3 のUI拡張機能を組み入れた点なども変更されました。これらの変更例はマニュアル全体に記載されています。たとえば、41ページの「[インポート・プリファレンスを設定する](#)」を参照してください。

### データ・エクスポートの変更点

**変更により制御される属性:** 管理者権限を持つユーザーは、Java クライアントでこのオプションを設定することにより、指定されたアイテム属性が変更により制御されるか、されないかを指定できます。いったん設定すると、Web クライアント内のユーザーが、変更によるアイテム属性値 (ECO または MCO) を追跡できるようになります。このオプションによるマニュアルの手順上の変更はありません。変更がレッドライン情報とともに aXML にエクスポートされるときに、エクスポート値が追加される点のみが変更されます。

**Agile aXML スキーマの定義:** このリリースには、データ・エクスポート用の Agile aXML スキーマの主要なコンポーネントが記載されています。この情報は、「データ・エクスポート用の Agile aXML スキーマ」という付録を参照してください。



# インポートの基礎

## この章のトピック

■ 概要.....	1
■ Agileインポート・ウィザードについて.....	1
■ インポート・ウィザードを使用する前に.....	3
■ インポート・ウィザードの使用に必要な権限.....	3
■ データ・インポートの推奨手順.....	4
■ 大容量インポート・ファイルのインポートに関するガイドライン.....	5
■ インポート・ウィザードを開始する.....	6
■ インポート・ウィザードの手順.....	6

## 概要

Agile インポートおよびエクスポート・アプリケーションのインポート・コンポーネントを使用すると、外部ソースからデータを選択し、様々な PLM モジュールにインポートできます。データのインポートは Agile インポート・ウィザードを使用して実行します。マニュアルのこのセクションでは、このツールについて、および様々な PLM モジュールでサポートされるデータのフォーマットについて説明します。

## Agileインポート・ウィザードについて

Agile インポート・ウィザードは、データを Agile PLM システムへインポートする際に使用するツールです。サポートされるフォーマットは次のとおりです。

- Excel ワークブック (XLS)
- 区切り文字テキスト・ファイル (TXT)
- Product Data Exchange Packages (PDX)
- Agile XML (aXML) ファイル

様々なPLMソリューションにインポートできるオブジェクトは次のとおりです。詳細および手順については、9 ページの「[ソース・データを準備および選択する](#)」を参照してください。

## Product Collaboration

PC ソリューションにインポートできるオブジェクトは次のとおりです。

- アイテム
- 製造元
- 製造元部品

- 部品グループ

## Product Cost Management

PCM ソリューションにインポートできるオブジェクトは次のとおりです。

- ソーシング・プロジェクト
- 見積履歴
- 公表価格
- サプライヤ
- サプライヤからの見積依頼回答
- 通貨換算テーブル

## Product Quality Management

PQM ソリューションにインポートできるオブジェクトは次のとおりです。

- 製品サービス依頼
- 品質変更要求
- 顧客

## Product Governance & Compliance

PG&C ソリューションにインポートできるオブジェクトは次のとおりです。

- デklarレーション
- サブスタンス
- 含有基準



## Product Portfolio Management

PPM ソリューションにインポートできるオブジェクトは次のとおりです。

- アクション・アイテム
- ディスカッション
- プロジェクト

## インポート・ウィザードを使用する前に

インポート・ウィザードを使用する前に、必要なソフトウェアと権限があることを確認してください。

- データを Agile PLM システムにインポートするには、適切な Agile PLM 権限が必要です。次のセクションにある「インポート・ウィザードの使用に必要な権限」を参照してください。
- PDX パッケージを作成するには、Agile Content Service (ACS)、Agile Web クライアント、または Agile Integration Services を使用します。

---

**注意** PDX パッケージの作成は、aXML ファイルの作成と類似しています。

---

- PDX パッケージを表示するには、Agile eXpress を使用します。次の Web サイトから Agile eXpress をダウンロードするか、または XML ビューアを使用して表示できる XML ファイルに Agile PDX パッケージを展開します。  
<http://www.oracle.com/technology/software/products/agile/index.html>
- aXML ファイルを作成するには、Web クライアント、Agile Content Service (ACS)、Agile Integration Services (AIS) を使用するか、またはデクラレーションの「アクション」メニューの「aXML をエクスポート」コマンドを使用します。aXML ファイルは、インターネット・エクスプローラなど任意の XML ビューアで表示できます。
- 大容量 PDX パッケージと aXML ファイルをインポートするために、Agile PLM システムに必要なディスク容量があることを確認します。
- テキスト・ファイルからデータをインポートする場合は、ソース・データをチェックし、適切にフォーマットされているかどうかを確認します。この手順は省略しないでください。ここで少し時間を割くことによって、最終的にかなりの時間を節約できます。

## インポート・ウィザードの使用に必要な権限

Agile データをインポートするには、インポートする Agile オブジェクトの各タイプについて、作成、ディスカバリ、読取り、および修正の権限が必要です。また、変更指示の作成と修正、または変更指示の検出と読取りもする必要があります。BOM、AML および公表価格をレッドラインするには変更指示が必要です。さらに、インポート権限も必要です。

権限について質問がある場合は、Agile PLM 管理者に問い合わせるか、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

インポートを開始するには、個人ユーザー・プロファイルの役割、「読取り（ユーザー）」権限、および「インポート」権限が必要です。

## データ・インポートの推奨手順

オブジェクトは指定されたどの順序でもインポートできますが、子データをインポートする前に親オブジェクトをインポートするほうが、より直観的にインポートできます。

## プロダクト・コンテンツをインポートする手順

プロダクト・コンテンツをインポートする場合は、次の推奨される手順に従ってインポートしてください。

1. 製造元
2. 製造元部品
3. アイテム
4. 部品構成表 (BOM)
5. 承認済製造元リスト (AML)
6. 部品グループ

---

**注意** aXML または PDX パッケージからデータをインポートする場合は、これらのオブジェクトを 1 つのセッションでインポートできます。

---

この推奨手順に従ってデータをインポートすると、前のリストの手順 4、手順 5 および手順 6 を実行するときには親アイテムや製造元、製造元部品がすでに存在し、データも挿入されています。推奨手順に従わない場合は、インポート・ウィザードによって、インポート・データに参照用のオブジェクトが作成されます。前の手順（アイテムのインポートなど）に戻るにより、インポート・ウィザードで作成したオブジェクトにデータをインポートできます。

## 公表価格をインポートする手順

価格オブジェクトは、アイテムまたは製造元部品、サプライヤ、および顧客を参照します。したがって、価格オブジェクトをインポートする前にこれらのオブジェクトをインポートする必要があります。

## 製品サービス依頼をインポートする手順

製品サービス依頼は顧客とサプライヤを参照します。したがって、製品サービス依頼をインポートする前に顧客とサプライヤをインポートする必要があります。

1. 顧客
2. サプライヤ
3. 製品サービス依頼

## 品質変更要求をインポートする手順

品質変更要求は顧客とサプライヤを参照します。したがって、品質変更要求をインポートする前に顧客とサプライヤをインポートする必要があります。

1. 顧客
2. サプライヤ
3. 品質変更要求

## サプライヤの製造元提示をインポートする手順

サプライヤの製造元提示で参照される製造元は、提示がインポートされる前に存在する必要があります。したがって、サプライヤの製造元提示をインポートする前に製造元をインポートする必要があります。

## Product Governance & Complianceオブジェクトをインポートする手順

Product Governance & Compliance データをインポートする場合は、次のインポート手順をお勧めします。

1. サブスタンス
2. 含有基準
3. デクラレーション

## 任意の手順でインポートできるオブジェクト

次のデータは、任意の手順でインポートできます。

- 添付ファイル
- プロジェクト
- サプライヤとサプライヤの部品分類提示（前述の 5 ページの「[サプライヤの製造元提示をインポートする手順](#)」を参照）
- サプライヤからの見積依頼回答
- 通貨換算レート

## 大容量インポート・ファイルのインポートに関するガイドライン

Agile インポート・サーバーでサポートされている aXML ファイルおよび PDX パッケージには、無数のオブジェクトが含まれている可能性があります。たとえば、PDX パッケージから数百のアイテムをインポートできますが、それぞれのアイテムに数百の BOM コンポーネントが含まれていることがあります。ソース・ファイルがこのように大容量である可能性があるため、インポート・セッションを実行するタイミングが重要です。

たとえば、大容量のデータを1回のインポート・セッションでインポートする場合は、夜間や週末など、システムの使用率が低い就業時間外に行うことをお勧めします。

大容量と見なされるデータの大きさは、使用している Agile PLM システムやデータベースのサイズによって異なります。それらの状況を元に判断してください。大容量のデータをインポートする場合は就業時間外に行います。

インポート・セッションが完了したら、ログ・ファイルをブラウザで表示したり、それをファイルに保存したりできます。


---

**注意** 結果をより早く取得するには、大容量のファイルをインポートする前にログ変換プリファレンスのチェックを解除しておきます。詳細は、41ページの「[インポート・プリファレンスを設定する](#)」を参照してください。

---

## インポート・ウィザードを開始する

インポート・ウィザードを使用すると、データを Agile PLM システムに簡単にインポートできます。

- インポート・ウィザードを開始するには、次を実行します。
  - Web クライアントでは、「ツールおよび設定」アイコン  > 「インポート」の順に選択します。
  - Java クライアントでは、「ツール」> 「インポート」の順に選択します。インポート・ウィザードが開き、インポート・ファイルが要求されます。
- 見積依頼回答、またはソーシング・プロジェクトに対するアイテム、BOM、および AML をインポートする場合は、見積依頼またはソーシング・プロジェクトからインポート・ウィザードを開始できます。詳細は、「サプライヤおよびシステム・データをインポートする」および「ソーシング・プロジェクトヘデータをインポートする」を参照してください。
- レベル・テンプレートを使用してアイテムをインポートするには、「アイテム」> 「アクション」> 「Microsoft Excel」> 「Excelからインポート」の順に選択します。26ページの「[Microsoft Excelファイルからデータをインポートする](#)」を参照してください。

---

**注意** インポート・ウィザードは、パッケージの「添付ファイル」タブの「インポート」ボタンをクリックして開始することもできます。詳細は、84ページの「[Agileパッケージから添付ファイルをインポートする](#)」を参照してください。

---

## インポート・ウィザードの手順

PLM にデータをインポートするときは、インポート・ウィザードに次の手順が表示され、プロセスが説明されます。

1. **ファイル選択:** インポート・ソースを指定します。
2. **ファイル・コンテンツの指定:** インポートするコンテンツをオプションの中から指定します。
3. **コンテンツ・オプションの選択:** マッピングおよびデータ変換方法を選択します。アイテムまたは価格コンテンツをインポートする場合は、修正のために変更指示が必要であるかどうかを指定します。
  - アイテムまたは価格をレッドライン・モードでインポートする場合は、インポート・セッションに対する変更指示を指定します。また、インポート・データのフィールドを Agile フィールドにどのようにマップするかも指定します。
  - 変換定義ファイルはインポート先の Agile PLM システムに合わせてインポート・データを修正する方

法を指定します。修正方法には、フィールドの置換や接頭辞または接尾辞の追加があります。これはオプションの手順です。

---

**注意**      手順 3 で選択したオプションに応じて、マッピング・ファイルのオプションを選択した場合はマッピングを確認し、属性マッピングを定義するオプションを選択した場合はマッピングを指定します。

---

4. 属性マッピングの指定: 属性マッピング定義を指定し、確認します。
5. インポート定義の**確認**: インポート定義の概要を確認します。定義を確認することで、どのようなインポート問題が存在するかを理解できます。



# ソース・データを準備および選択する

## この章のトピック

- サポートされているフォーマット ..... 9
- フィールドAgile PLMについて ..... 9

## サポートされているフォーマット

インポート・ウィザードを使用すると、次のデータ・フォーマットでデータをインポートできます。

フォーマット	説明
区切り文字テキスト・ファイル	標準的なフラット・テキスト・ファイル。データの各フィールドがカンマやタブなどの特殊文字で区切られます。
Excel ワークブック	Microsoft Excel のワークブック・ファイル。インポート・ウィザードは、Microsoft Excel 2000、2002 および 2003 で作成したファイルをサポートします。
Product Data eXchange (PDX) パッケージ	XML (eXtensible Markup Language) 技術に基づいた、製品データの業界標準フォーマット。
Agile XML (aXML) ファイル	Agile が独自に開発した XML 形式。PDX ではサポートされないデータ（デklarेशन、サブスタンス、価格、サプライヤなど）が含まれます。

## フィールドAgile PLMについて

ソース・ファイルから Agile PLM システムへデータをインポートする前に、データをインポートする各フィールドの要件を理解しておく必要があります。いくつかのフィールドは必須であり、このようなフィールドはインポート・ウィザードでマップする必要があります。フィールドにはデータ・タイプが定義されています。これは、データをどのようにフォーマットするか、および最大長をどのくらいにするかを決定するもので、Agile PLM システムによってインポート時に検証されます。

Agile のそれぞれのオブジェクトには複数の定義フィールドがある可能性があります。これらのフィールドは、オブジェクトのクラスまたはサブクラスに対して定義されている属性のインスタンスです。Agile にはデフォルトのクラスが 36 あり、それぞれにデフォルトのサブクラスが用意されています。Agile 管理者は、会社に応用可能な追加のサブクラスを使用してシステムをカスタマイズできます。

## Agileクラス・レポートを印刷する

データをインポートする前に、Web クライアントから Agile クラス・レポートを印刷します。レポートを読み、Agile データ・モデルに慣れておいてください。ソース・データが、レポートで指定されているデータ要件に準拠していることを確認してください。

### WebクライアントからAgileクラス・レポートを実行するには

1. ナビゲーション・ウィンドウで「レポート」をクリックします。
2. 「レポートと分析」>「標準レポート」>「管理者レポート」>「Agile クラス・レポート」の順に選択します。
3. 「実行」をクリックします。
4. レポートの実行に使用するパラメータを指定します。「完了」をクリックします。数秒後に、「ファイルのダウンロード」ウィンドウでファイルを保存または開くよう要求されます。
5. レポートをコンピュータに保存します。

Agile クラス・レポートはカンマ区切りのテキスト・ファイルです。このレポートには、各クラスの各テーブルで利用できる属性が記載されています。また、インポート・ウィザードに対してフィールドが必須かどうかを示しています。インポート・ウィザードでフィールドが必須の場合は、ソース・データをターゲット・フィールドにマップする必要があります。それ以外の場合は、オブジェクトをインポートできません。

## データ・タイプ

読取り/書込みの各 Agile PLM フィールドには、次のいずれかのデータ・タイプが定義されています。

データ・タイプ	説明
テキスト	文字列の値
マルチテキスト	テキスト（複数行にわたることも可）
日付	日付の値
数値	小数点第 2 位に丸めた数値
通貨	数のデータ・タイプに類似していますが、デフォルトで小数点第 4 位まで表示され、単位は特定の通貨になります。
リスト	有効値のリストから選択された文字列の値
マルチリスト	有効値のリストから選択された 1 つ以上の文字列の値（カンマ区切りのフォーマット）
単位（UOM）	数量の測定。値は標準単位（グラム、オンスなど）で乗じた数で表現されます。



## フィールドの最大長の値

Agile PLMの多くのフィールドには最大長が定義されています。値がフィールドの最大長を超えた場合は、不正な値となりインポートできなくなります。インポート・ウィザードにはプリファレンスが設定されており、これによって、長さの検証で不当とみなされた値を処理できます。これらの値は却下するか、またはインポートできるように切り捨てるかのいずれかを選択できます。詳細は、42ページの「[パースと検証オプションを設定する](#)」(Setting Parsing and Validation Options)を参照してください。

すべてのテキスト・フィールドには、最大長が定義されています。テキスト・フィールドの中には、数文字に限定されているものもあります。また、「部品クラス」>「BOM」>「BOM メモ」などのフィールドはかなり長くできます。

日付フィールドには最大長が定義されていませんが、日付の値は必ず、Agile PLMシステムでサポートされている日付フォーマットとなるようにします。詳細は、12ページの「[サポートされている日付フォーマット](#)」を参照してください。

## 親フィールドと子フィールド

いくつかの読み取り専用フィールドには、他の親フィールドと子の関係にあるものがあります。子フィールドには、親フィールドの値が反映されます。子フィールドの例には、「BOM.Item List02」や「BOM.Item Text01」などのBOM テーブルの属性があります。これらの親フィールドは「ページ2」にあります。

Agile PLM 管理者は、すべての子フィールドの設定が親フィールドと同じになるようにします。異なる場合には、データのインポート時に問題が発生することがあります。

## データ値に対してサポートされているフォーマット


インポート・ウィザードでは、ユーザー・プリファレンスやロケールなどの異なる基準に基づいた、様々な日付フォーマットがサポートされています。

**注意** 日付の上限は今日から150年後の日付です。この値よりも後の日付は無効となり、インポートできません。

## 推奨日付フォーマットと推奨タイム・ゾーンを設定する

Agile のユーザーは推奨日付フォーマットを選択できます。

**Agileアカウントに対して日付フォーマットのプリファレンスを変更するには**

1. いずれかの Agile クライアントを使用して、ユーザー・プリファレンスを設定します。
  - Web クライアントでは、「個人設定」ボタン  > 「プリファレンス」> 「編集」の順に選択します。
  - Java クライアントのツールバーでは、「設定」> 「現在のユーザー」> 「プリファレンス」の順に選択します。
2. 「推奨日付フォーマット」フィールドで希望する日付フォーマットを選択します。
3. 「タイム・ゾーン」フィールドで GMT タイム・ゾーンを選択します。
4. 「保存」をクリックします。

## サポートされている日付フォーマット

インポート・ウィザードでは、**java.text.DateFormat** クラスで使える日付と時刻のフォーマットのすべての組合せと、さらに追加のフォーマットをサポートしています。**DateFormat** には、ロケールに基づいた様々な日付と時刻のフォーマット・スタイルが用意されています。次の表は、U.S.ロケールで使える日付フォーマットを示しています。

日付フォーマット	例
MMM-dd-yyyy HH:mm:ss	Jul-10-2001 14:08:35
MMM-dd-yyyy HH:mm	Jul-10-2001 14:08
MMM-dd-yyyy hh:mm:ss a	Jul-10-2001 02:08:35 PM
MMM-dd-yyyy hh:mm a	Jul-10-2001 02:08 PM
MMM-dd-yyyy	Jul-10-2001
dd-MMM-yyyy HH:mm:ss	10-Jul-2001 14:08:35
dd-MMM-yyyy HH:mm	10-Jul-2001 14:08
dd-MMM-yyyy hh:mm:ss a	10-Jul-2001 02:08:35 PM
dd-MMM-yyyy hh:mm a	10-Jul-2001 02:08 PM
dd-MMM-yyyy	10-Jul-2001
EEEE, MMMM d, yyyy	Thursday, June 25, 1998
EEEE, MMMM d, yyyy h:mm a	Thursday, June 25, 1998 1:32 PM
EEEE, MMMM d, yyyy h:mm:ss a	Thursday, June 25, 1998 1:32:19 PM
EEEE, MMMM d, yyyy h:mm:ss a z	Thursday, June 25, 1998 1:32:19 PM GMT-05:00
MMMM d, yyyy	June 25, 1998
MMMM d, yyyy h:mm a	June 25, 1998 1:32 PM
MMMM d, yyyy h:mm:ss a	June 25, 1998 1:32:19 PM
MMMM d, yyyy h:mm:ss a z	June 25, 1998 1:32:19 PM GMT-05:00
MMM d, yyyy	Jun 25, 1998
MMM d, yyyy h:mm a	Jun 25, 1998 1:32 PM
MMM d, yyyy h:mm:ss a	Jun 25, 1998 1:32:19 PM
MMM d, yyyy h:mm:ss a z	Jun 25, 1998 1:32:19 PM GMT-05:00
M/d/yy	6/25/98
M/d/yy h:mm a	6/25/98 1:32 PM
M/d/yy h:mm:ss a	6/25/98 1:32:19 PM
M/d/yy h:mm:ss a z	6/25/98 1:32:19 PM GMT-05:00

各日付フォーマットは、次の時刻パターンを使用して指定されています。

**y** = 年  
**M** = 月  
**d** = 日  
**H** = military time 形式の時間 (24 時間表記)  
**h** = AM/PM 形式の時間 (1~12)  
**m** = 分  
**s** = 秒  
**E** = 曜日  
**a** = AM/PM マーカ  
**z** = タイム・ゾーン  
**'** = テキストのエスケープ  
**"** = 引用符

時刻パターンの「M」などの各文字の数により、形式が決定されます。たとえば、「M」の文字が3つある場合、月は数字ではなくテキストで表されます。「M」の数が1つまたは2つの場合には、月は数字で表されます。

Java 日付フォーマットと時刻パターン構文の詳細は、次の URL の Sun 社のマニュアルで **SimpleDateFormat** および **DateFormat** クラスを参照してください。

<http://www.javasoft.com/j2se/1.3/docs/api/index.html>

## タイム・ゾーンを指定する

日付の値はグリニッジ標準時 (GMT) に準拠して指定できます。日付の値でタイム・ゾーンを省略すると、ユーザーのタイム・ゾーン・プリファレンスが使用されます。タイム・ゾーンは次の形式で入力する必要があります。

GMT Sign hh:mm

ここで、

- **GMT** = グリニッジ標準時
- **Sign** = + または -
- **h** = AM/PM 形式の時間 (1~12)
- **m** = 分

たとえば「GMT-05:00」および「GMT+02:00」は有効なタイム・ゾーンです。

3 文字のコード (PST や PDT など) を使用してタイム・ゾーンを指定しないでください。3 文字のタイム・ゾーン・コードは複数のタイム・ゾーンに対して使用されるものもあるため、信頼性に欠けます。そのために、Agile PLM サーバーが 3 文字のタイム・ゾーン・コードを誤ったタイム・ゾーンに解釈するおそれがあります。

## aXMLおよびPDXパッケージの日付フォーマット

aXML および PDX パッケージに対しては、インポート・ウィザードで次のような ISO スtring の日付フォーマットの簡易バージョンがサポートされます。

yyyy/MM/ddTHH:mm:ssZ

**注意** T と Z の文字は必須です。

## 通貨の値をインポートする

公表価格ラインおよびサプライヤのオブジェクトでは、通貨フィールドに値をインポートできます。通貨の値をインポートできるのは、3文字の ISO 4217 通貨コードとして入力されているか、通貨名が完全な名前の場合です。たとえば、「USD」と「米ドル」はいずれもインポート可能な有効通貨です。「米ドル (USD)」はインポートできません。

Agile では様々な通貨をサポートしています。使用できる通貨のリストは、Agile PLM システムのインストール時に設定します。ISO 4217 通貨コードの詳細は次の Web サイトを参照してください。

<http://www.iso.org/iso/en/prods-services/popstds/currencycodeslist.html>

### 通貨記号と名前

- ADP - アンドラ・ペセタ
- AED - UAE ディルハム
- ALL - アルバニア・レク
- AMD - アルメニア・ドラム
- ANG - オランダ・アンティル・ギルダー
- AON - ニュークワンザ
- AOR - クワンザリアハスタド
- ARP - アルゼンチン・ペソ
- ATS - オーストリア・シリング
- AUD - オーストラリア・ドル
- AWF - アルバ・フローリン
- AWG - アルバ・ギルダー
- AZM - アゼルバイジャン・マナト
- BAK - ボスニア・ヘルツェゴビナ兌換マルク
- BBD - バルバドス・ドル
- BDT - バングラディッシュ・タカ
- BEF - ベルギー・フラン
- BGL - ブルガリア・レフ
- CRC - コスタリカ・コロン
- CUP - キューバ・ペソ
- CVE - カーボベルデ・エスクード
- CYP - キプロス・ポンド

- CZK - チェコ・コルナ
- DEM - ドイツ・マルク
- DJF - ジブチ・フラン
- DKK - デンマーク・クローネ
- DOP - ドミニカ・ペソ
- DZD - アルジェリア・ディナール
- ECS - エクアドル・スクレ
- EEK - エストニア・クローン
- EGP - エジプト・ポンド
- ERN - エリトリア・ナクファ
- ESP - スペイン・ペセータ
- ETB - エチオピア・ブル
- EUR - ユーロ
- FIM - フィンランド・マルカ
- FJD - フィジー・ドル
- FKP - フォークランド諸島・ポンド
- FRF - フランス・フラン
- GBP - イギリス・ポンド
- GEL - グルジア・ラリ
- GHC - ガーナ・セディ
- GIP - ジブラルタル・ポンド
- GMD - ガンビア・ダラシ
- GNF - ギニア・フラン
- GRD - ギリシャ・ドラクマ
- GTQ - グアテマラ・ケツアル
- GYD - ガイアナ・ドル
- HKD - 香港ドル
- HNL - ホンジュラス・レンピラ
- HRK - クロアチア・クーナ
- GTG - ハイチ・グールド
- HUF - ハンガリー・フォリント
- IDR - インドネシア・ルピア

- IEP - アイルランド・ポンド
- ISL - イスラエル・シェケル
- INR - インド・ルピー
- IQD - イラク・ディナール
- IRR - イラン・リアル
- ISK - アイスランド・クローナ
- ITL - イタリア・リラ
- JMD - ジャマイカ・ドル
- JOD - ヨルダン・ディナール
- JPY - 日本円
- KES - ケニア・シリング
- KGS - キルギスタン・ソム
- KHR - カンボジア・リエル
- KMF - コモロ・フラン
- KPW - 北朝鮮ウオン
- KRW - 韓国ウォン
- KWD - クウェート・ディナール
- KYD - ケイマン諸島ドル
- KZT - カザフスタン・テンゲ
- LAK - ラオス・キップ
- LPB - レバノン・ポンド
- LKR - スリランカ・ルピー
- LRD - リベリア・ドル
- LSL - レソト・ロティ
- LTL - リトアニア・リタス
- LUF - ルクセンブルク・フラン
- LVL - ラトビア・ラト
- LYD - リビア・ディナール
- MAD - モロッコ・ディルハム
- MDL - モルドバ・レイ
- MGF - マダガスカル・フラン
- MKD - マケドニア・ディナール
- MMK - ミャンマー・チャット

- MNT - モンゴル・トゥグルグ
- MOP - マカオ・パタカ
- MRO - モーリタニア・ウギア
- MTL - マルタ・リラ
- MUR - モーリシャス・ルピー
- MVR - モルジブ・ルフィヤ
- MWK - マラウィ・クワチャ
- MXP - メキシコ・ヌエボペソ
- MYR - マレーシア・リンギット
- MZM - モザンビーク・メティカル
- NAD - ナミビア・ドル
- NGN - ナイジェリア・ナイラ
- NIO - ニカラグア・コルドバ・オロ
- NLG - オランダ・ギルダー
- NOK - ノルウェー・クローネ
- NPR - ネパール・ルピー
- NZD - ニュージーランド・ドル
- OMR - オマーン・リヤール
- PAB - パナマ・バルボア
- PEN - ペルー・ヌエボソル
- PGK - パプアニューギニア・キナ
- PHP - フィリピン・ペソ
- PKR - パキスタン・ルピー
- PLZ - ポーランド・ズロチ
- PTE - ポルトガル・エスクード
- PYG - パラグアイ・グアラニー
- QAR - カタールリアル
- ROL - ルーマニア・レイ
- RUR - ロシア・ルーブル
- RWF - ルワンダ・フラン
- SAR - サウジリアル

- SBD - ソロモン諸島ドル
- SCR - セイシェル・ルピー
- SDD - スーダン・ディナール
- SEK - スウェーデン・クローネ
- SGD - シンガポール・ドル
- SHP - セントヘレナ・ポンド
- SIT - スロベニア・トラール
- SKK - スロバキア・コルナ
- SLL - シエラレオーネ・レオン
- SOS - ソマリア・シリング
- SRG - スリナム・ギルダー
- STD - サントメ・プリンシペ・ドブラ
- SVC - エルサルバドル・コロン
- SYP - シリア・ポンド
- SZL - スワジランド・リランゲニ
- BHT - タイ・バーツ
- TJR - タジキスタン・ルーブル
- TMM - トルクメニスタン・マナト
- TND - チュニジア・ディナール
- TOP - トンガ・パアング
- TLR - トルコ・リラ
- TTD - トリニダード・トバゴ・ドル
- TWD - 新台湾ドル
- TZS - タンザニア・シリング
- UGX - ウガンダ・シリング
- USD - 米ドル
- UYU - ウルグアイ・ペソ
- UZS - ウズベキスタン・ソム
- VEB - ベネズエラ・ボリバル
- VND - ベトナム・ドン
- VUV - バヌアツ・バツ
- WST - サモア・タラ



- XAF - 中央アフリカ共和国 CFA フラン BEAC
- XCD - 東カリブ諸国・ドル
- XPF - CFP フラン (フランス領)
- YER - イエメン・リアル
- YUN - 新ユーゴスラビア・ディナール
- ZAR - 南アフリカ・ランド
- ZMK - ザンビア・クワチャ
- ZWD - ジンバブエ・ドル

## インポートされた通貨値の設定

通貨のデータ・タイプは複合データ・タイプとして、数値の値と通貨コード（米ドルを表す「USD」など）が含まれています。インポートでは、通貨値と通貨の両方をサポートしています。ソース・ファイルに通貨が指定されていない場合は、ユーザーの推奨通貨が選択されます。ソース・ファイルが区切り文字テキスト・ファイルまたは Excel ファイルの場合は、通貨値と通貨コードを USD:100 の形式で組み合わせたり、2つのフィールドに分割できます。インポート・ウィザードでは数値以外の通貨値が却下されます。他のソース・ファイルの処理は、次のとおりです。

- aXML ファイルの場合、インポート・ウィザードは、通貨コードをソース・ファイルからロードします。
- PDX パッケージの場合、インポート・ウィザードは、ユーザー指定の推奨通貨をロードします。これは、ソースの PDX ファイルには通貨コードがないためです。

### 通貨設定を変更または表示するには

- Web クライアントでは、「個人設定」ボタン  > 「プリファレンス」 > 「編集」の順に選択します。
- Java クライアントでは、「設定」 > 「現在のユーザー」 > 「プリファレンス」の順に選択します。

適用可能な場合は、変更内容を保存してください。

## 質量をインポートする

一部の Product Governance & Compliance オブジェクト（アイテムを含む）には、「質量」フィールドがあります。「質量」フィールドには数値と単位（グラム、キログラム、オンス、ポンドなど）があります。インポート・ウィザードでは、質量の数値と単位の両方をインポートできます。「質量」の値をインポートする場合、「質量」と「質量計測」フィールドの両方をマップしてください。

「質量」フィールドのデフォルト標準単位はグラムですが、Agile PLM 管理者は別の標準単位も選択できます。

## 地理的な場所をインポートする

顧客、サプライヤ、および製造元のすべてのオブジェクトには、国と地域のフィールドが定義されています。ソース・データに、正しい国名と地域名を指定する必要があります。正しい値を指定しないと、指定した値がインポートされません。

**有効な国名と地域名をJavaクライアントで表示するには**

1. 「管理」タブをクリックします。
2. 「システム設定」>「Product Cost Management」>「出荷先の場所」の順に選択します。
3. 「新規作成」ボタンをクリックします。
4. 「大陸」リストをクリックし、大陸を選択します。
5. 「国」リストをクリックし、国を選択します。
6. 「都道府県」リストをクリックし、地域を選択します。

## 動的リストに値をインポートする

インポート・ウィザードは動的リストを使用するリスト・フィールドに対して、値のインポートをサポートします。動的リストには、システムにすでに追加されているデータに基づき、ランタイムに更新された値が含まれています。

アイテム、変更、ユーザー、サプライヤのリストは、動的リストの例です。動的リストには数千の値のオブジェクトが含まれるため、それらの値に対して値を列挙できません。

インポート・ウィザードは、サーバーにデータを送信する前に、動的リストが大文字または小文字のどちらの値を要求するかを確認できません。結果として、間違った大文字/小文字のリスト値は却下されます。

**注意** Webクライアントは `supplierName(supplierNumber)` の形式で「サプライヤ」フィールドを表示しますが、サプライヤ・リストは動的なリストであるため、サプライヤ番号または `supplierName(supplierNumber)` の混合形式のどちらを使用してもこのフィールドにデータをインポートできます。

## カスケード・リストをインポートする

Agile PLM リスト・フィールドは、カスケード・リストとして、およびカスケード・リストとして動作するように設定できます。カスケード・リストには複数の階層レベルで値を表示されるため、階層をドリル・ダウンして特定の値を検索できます。

カスケード・リストのフィールドに値をインポートするには、正しい区切り文字で各レベルを区切る必要があります。「カスケード区切り文字」のプリファレンスは、カスケード・リスト値を区切るために使われる文字を指定します。「カスケード区切り文字」プリファレンスの設定については、「[パースと検証オプションを設定する](#)」を参照してください。「カスケード区切り文字」プリファレンスのデフォルト値は垂直バー (|) です。

次の例のソース・データでは、「ページ2」フィールド（この場合は「地域の連絡先」という名前）のカスケード・リストの値が含まれており、3つのレベルで構成されています。

部品番号	地域の連絡先
P10011	Central Chicago Jeff Whaley
P10012	Western Los Angeles Jason Wong
P10013	Southern Atlanta Hsing-Hua Zhang
P10014	Northern Boston Leslie Ickes

## BOM参照指示を使用する

参照指示は、コンポーネントを指すラベル・システムとしてコンピュータ産業で広く使用されています。会社で参照指示を使用している場合は、「**BOM**」>「**参照指示**」フィールドを使用して、参照指示の割当ておよび編集を行うことができます。

参照指示は次のいずれかの方法で指定します。

- カンマ (,)、セミコロン (;)、または垂直バー (|) を使用して区切る。インポート・ウィザードのデフォルトでは、参照指示の区切り文字としてカンマを使用します。区切り文字を変更するには、「ビジネス・ルール・オプションを設定する」を参照してください。
- 個別に指定 (**R1,R2,R3**) するか、範囲指定文字を使用して圧縮 (**R1-3** または **R1-R3**) して指定する。インポート・ウィザードのデフォルトでは、参照指示の範囲指定文字としてハイフンを使用します。範囲文字を変更するには、「ビジネス・ルール・オプションを設定する」を参照してください。
- 大文字、小文字、または混合 (Agile PLM 管理者が指定するフォーマットに変換されます)。
- 参照指示が多すぎて 1 つのセルに収まらない場合は、連続する行を使用します。その行にある他のセルはすべて空白のままとします。

参照指示の数が少ない場合は 1 つずつ入力する (たとえば **R1,R2,R3**) ことができます。

異なる文字で始まる参照指示のグループを追加するには、パース文字 (通常はカンマ) で各グループを区切ります。たとえば、A1、A2、A3、B4、B5、B6、B7、C8、C9、C10 という 10 個の指示を入力する場合は、「**A1-3,B4-7,C8-10**」と入力します。

Agile データベースの設定によっては、Web クライアントで自動的に参照指示が圧縮される場合があります。「**1,2,3,4,5**」と入力して Tab キーを押すと、「参照指示」フィールドには「1-5」と表示されます。

参照指示を展開できるよう Agile データベースが設定されている場合、ハイフン (またはその他の範囲指定文字) で結合された参照指示は、Agile データベースへのインポート時に展開されます。たとえば、「**R1-5**」は「**R1,R2,R3,R4,R5**」になります。

文字で終わる参照指示 (たとえば **R1a,R2a,R3a**) は個別に入力する必要があります。Agile Import による参照指示の処理の詳細は、「参照指示の範囲」を参照してください。

## 参照指示の範囲

次の規則により、インポート・ウィザードで参照指示の範囲をどのように処理するかが決定されます。参照指示が展開されない場合、インポート・ウィザードでは範囲を1つの参照指示として処理します。

- 範囲を指定された2つの参照指示を展開するには、数字で終わる必要があります。参照指示の文字列にある最後の値がテキスト文字の場合は展開されません。

例:

A202-A210 は展開可能

A202-A210a は展開不可能

A202a-A210a は展開不可能

- 範囲を指定された2つの参照指示に接頭辞がある場合、展開するには2つの参照指示が同じ接頭辞を持つ必要があります。接頭辞は必ず `<CHAR>` という形式にします。

例:

RB202-RB210 は展開可能

RB202-RC210 は展開不可能

- 範囲を指定された参照指示の最初の方のみに接頭辞がある場合は展開できます。

例:

RB202-210 は展開可能

- 範囲を指定された参照指示のいずれにも接頭辞がない場合は展開できます。

例:

202-210 は展開可能

## 参照指示の範囲で先行ゼロを使用する

参照指示の数字部分の先行ゼロを削除するように Agile データベースが設定されている場合は、インポート・ファイルの参照指示の範囲で先行ゼロを使用しないでください。たとえば、インポート・ウィザードでは、先行ゼロが削除されて、「R0203-R0225」が「R203-R225」とパースされることがあります。

Java クライアントで「管理」タブをクリックし、「サーバー設定」>「プリファレンス」>「参照指示範囲の展開縮小を許可する」の順に選択すると、Agile PLM システムで参照指示の展開および縮小が可能かどうかを確認できます。このプリファレンスが「いいえ」に設定されている場合は、参照指示の動作範囲がすべてオフになります。この場合、参照指示から先行ゼロが削除されることはありませんが、(R0203-R0225 などの) 参照指示の各範囲が1つの参照指示として認識されます。そのため、先行ゼロの参照指示を入力するには、範囲ではなく個別に入力する必要があります。

---

**注意** Javaクライアントで「参照指示範囲の展開縮小を許可する」プリファレンスの設定を変更する方法の詳細は、[Agileテクニカル・サポート](http://www.oracle.com/agile/support.html) (<http://www.oracle.com/agile/support.html>) にお問い合わせください。

---

## aXMLおよびPDXパッケージから参照指示をインポートする

aXML および PDX パッケージの参照指示フィールドがインポートされるときに、これらのフィールドが正しくパースされるようにするには、次のガイドラインに従ってください。

- 複数の参照指示を区切るには、「R1,R2,R3」のようにカンマを使用する。
- 参照指示の範囲を指定するには、「R1-R3」のようにハイフンを使用する。

## Excelファイルおよび区切り文字テキスト・ファイルのガイドライン

Agile PLM では、すべての区切り文字テキスト・ファイル (CSV) がエクスポートされます。ただし、テーブル・ファイルをインポートするには、ヘッダ行と最後の行を指定する必要があります。これらのテーブル・ファイルには、ユーザー・オブジェクトのユーザー・グループ・テーブル、ユーザー・グループ・オブジェクトのユーザー・テーブル、価格オブジェクト・ファイルの公表価格ライン・テーブルなど、特殊なテーブルがエクスポートされたファイルがあります。ヘッダ行と最後の行を指定しない場合、これらのファイルはエクスポートされません。

Microsoft Excel ファイルと区切り文字テキスト・ファイルをインポートする前に、これらのファイルが構造に関する次のガイドラインに従っていることを確認してください。

- Microsoft Excel ワークブックには複数のシートが含まれていることがありますが、一度にインポートできるのは1つのシートのデータのみです。そのため、Excel シートは適切に設定する必要があります。
- Microsoft Excel ファイルの数値は、インポート前に整数または小数に変換されます。整数を小数として扱いたい場合は、先頭に一重引用符を指定し、値をテキストとして入力します。たとえば1ではなく1.0をインポートするには、Microsoft Excel のセルに「1.0」と入力します。
- Microsoft Excel ファイルの数式は数値にします。それ以外の場合、インポート・ウィザードでは数式の文字列がインポートされます。数値以外の値を計算する数式が Microsoft Excel ファイルに含まれている場合は、そのファイルをCSV ファイルとして保存し、数式の値が正しくインポートされるようにします。
- カラム・ヘッダは空白にすることはできません。たとえばカンマ区切りファイルでは、次のヘッダ行は「番号」と「説明」の間に空白のヘッダがあるため無効です。

**番号, ,説明,製品ライン,カテゴリ**

- インポート・データの最初の行 (Excel ファイルでは最初の行であるとはかぎりません) は「ヘッダ」行で、フィールド名が含まれています。ソース・ファイルを選択するときに、「**設定**」をクリックしてヘッダ行の位置を設定できます。
- ヘッダ行のフィールド名は一意に指定します。重複するフィールド名は使用できません。ソース・ファイルに複数のデータ・セクションが含まれている場合は、インポートするデータを指定するためにヘッダ行と最後の行を設定する必要があります。これは、テーブル形式のエクスポートに該当します。テーブル形式のエクスポートを選択すると、エクスポートされる Excel または CSV ファイルの1行に「ページ1」、「ページ2」、「ページ3」のデータがエクスポートされます。
- また、ヘッダ行のフィールドには、改行またはラインフィード文字は使用できません。これらの文字が含まれていると、インポート・ウィザードでファイルを正しくパースできません。詳細は、24ページの[改行およびラインフィード文字を削除する](#)を参照してください。
- ヘッダ行の終端文字にカンマなどの区切り文字は使用できません。
- ヘッダに続く行にはデータを定義する必要があります。データの行の間を空白の行にすることはできません。

- Agile データベースにインポートしないデータの行は、すべて削除する必要があります。
- インポートする特定のオブジェクト・タイプに必要なフィールドすべてについて、データを定義しておく必要があります。
- フィールドでは必ず同じ区切り文字を使用します。たとえば、カンマ区切り値形式のファイルでは各フィールドをカンマで区切る必要があります。
- インポート・データは、Agile 管理者が Agile PLM の各フィールドに指定した最大長を超えることはできません。この長さを超えると、インポート・ウィザードの**最大長検証**プリファレンスによって値が却下されるか、または切り捨てられます。
- マルチリスト・フィールド（「タイトル・ブロック」タブの「製品ライン」フィールドなど）のエントリは、個別の値を区切って列挙する必要があります。マルチリストのデフォルトの区切り文字はカンマで、他に垂直バー (|) やセミコロン (;) も使用できます。詳細は、「パースと検証オプションを設定する」を参照してください。

次に、マルチリスト・フィールドのカンマ区切りのリスト値の例を示します。

**Scorpio,Taurus,Capricorn**

**注意** ユーザー名をマルチリスト・フィールドにインポートする場合は、次の形式を使用する必要があります。Lastname,spaceFirstname;spaceLastname,spaceFirstname;spaceLastname など。

- 通貨フィールドには数値を定義する必要があります。通貨コードは指定しません。インポートでは通貨コードがサポートされているため、通貨コードを指定しない場合は、ユーザーの推奨通貨が選択されます。
- BOM の場合は、親アイテム行を連続でグループ化する必要があります。つまり、親アイテムの BOM コンポーネントはすべて 1 グループの行にまとめて表示されます。
- BOM では、個々の参照指示の最大長は 19 文字です。
- BOM では、参照指示を後続行に続けることができます。それぞれの参照指示の連続行では、データを持つ 1 つのフィールドのみが参照指示フィールドとなります。他のフィールドは空白にします。
- BOM では、「数量」フィールドの値は、参照指示の数と必ず同じにします。この数が一致しない場合は、データのインポート時に、インポート・ウィザードから警告のメッセージが表示されることがあります。
- 区切り文字テキスト・ファイルでは、テキストの値を（引用符などの）テキスト修飾文字で囲むようにしてください。テキスト・フィールドを修飾すると、カンマなどのフィールドの区切り文字をフィールドのテキスト内で使用できます。次の例では、**21" Monitor, Tilt Pedestal** はアイテムの説明であり、テキスト内にカンマ（フィールド区切り文字）と引用符の両方が使用されています。

**番号,説明,リビジョン,BOM コンポーネント番号,使用回数**

**170-50,"21" Monitor, Tilt Pedestal",A,172-92,1**

## 改行およびラインフィード文字を削除する

Excel ファイルまたは区切り文字テキスト・ファイルをインポートするときにファイルの解析エラーが発生しないよう、ヘッダ・フィールドには改行またはラインフィード文字を含めないようにします。これらの文字は区切り文字テキスト・ファイル内で検出するのは難しいですが、Excel では簡単に検出して削除できます。

Excelのヘッダ・フィールドから改行とラインフィード文字を検出して削除する手順は次のとおりです。

1. 「すべて選択」ボタンを選択します。このボタンは、ワークシートの左上、つまり行ヘッダーと列ヘッダーが交わる箇所のグレーの長方形です。
2. 「書式」>「行」>「自動調整」の順に選択します。

改行またはラインフィード文字が含まれているヘッダ・フィールドはすべて、テキスト行が複数行にわたります。次の図では、フィールド A1 と C1 の両方に改行が含まれています。

	A	B	C	D
1	Item Number	Revision	Part Description	Part Type

3. ヘッダ内の余分な改行またはラインフィード文字を削除します。
4. ファイルを保存します。

## BOMコンポーネントを並び替える

Excel ファイルまたは区切り文字テキスト・ファイルから BOM をインポートする前に、親アイテムの BOM コンポーネントがすべて連続した行にグループ化されていることを確認してください。親アイテムの BOM コンポーネントが連続していない行に記載されている場合、インポート・ウィザードでは、その親アイテムの BOM コンポーネントの最後のグループのみがインポートされます。

たとえば、次の BOM データは行 4 と行 5 の順序が違いため正しくありません。

	A	B	C
1	Parent Item Number	BOM Item Number	Part Description
2	P001	P010	CON,HDR,2X4,M,,1,R,P,L,NS,TH
3	P001	P011	CLP,GND,PLN,R/S
4	P002	P012	RES,10K,1/10W,,1%,THNFLM,0805
5	P002	P013	CAP,470UF,20%,25V,AL,10X12.5
6	P001	P014	DIODE,SKY,30V,80A,MBRS330,SM
7	P001	P015	RES,2.7K,1/16W,5%,THKFLM,0603

次に、正しく並び替えられた BOM データを示します。ここでは、P001 の BOM コンポーネントがグループ化されています。

	A	B	C
1	Parent Item Number	BOM Item Number	Part Description
2	P001	P010	CON,HDR,2X4,M,.1,R,P,L,NS,TH
3	P001	P011	CLP,GND,PLN,R/S
4	P001	P014	DIODE,SKY,30V,80A,MBRS330,SM
5	P001	P015	RES,2.7K,1/16W,5%,THKFLM,0603
6	P002	P012	RES,10K,1/10W,.1%,THNFLM,0805
7	P002	P013	CAP,470UF,20%,25V,AL,10X12.5

BOM を並び替えるには、Microsoft Excel でソース・ファイルを開き親アイテム番号の列の昇順で行を並び替えます。

**注意** aXML および PDX パッケージの BOM は自動的に適切な順序で並び替えられます。ただし、XML ファイルはファイル内でエンコードを宣言しています。したがって、aXML または PDX パッケージからデータをインポートする場合には、ファイルのエンコードを指定する必要はありません。

## Microsoft Excel ファイルからデータをインポートする

Microsoft Excel は一般的なスプレッドシート・プログラムです。これを使用して行と列のマトリックス形式でデータをフォーマットできます。インポート・ウィザードは、Microsoft Excel 2000、2002 および 2003 のバージョンをサポートしています。

Excel のワークブック・ファイルはファイル名の拡張子が XLS で、1 つのファイルに複数のシートを持つことが可能です。インポートするシート、およびシートのヘッダ行の位置を必ず指定します。

### Excel ファイルからデータをインポートするには

1. Web クライアントで、「ツールおよび設定」>「インポート」の順に選択します。

**注意** ファイルは、Excel 2000、2002 または 2003 の有効なファイルである必要があります。

2. インポート・ソースを指定します。「ファイル」を選択します。ファイル名を入力するか、「参照」をクリックしてファイルを選択します。

Excel 設定オプションが表示されます。デフォルトの設定を使用して次に進むか、テンプレート・タイプ、ワークシートおよびヘッダー行または最後の行の位置を指定できます。



3. 完了したら、「次」をクリックして次のウィザードの手順に進みます。  
「ファイル・コンテンツの指定」ダイアログが開きます。
4. インポートするオブジェクト・タイプを選択し、「次」をクリックして次のウィザードの手順に進みます。  
**注意** ソース・ファイルが Excel（レベル・テンプレート）、aXML または PDX の場合は、インポート・プロセス中にマッピング・ファイルを選択するか、マッピング・ファイルを作成するか、またはデフォルトのマッピングを使用することができます。
5. 変更指示とマッピング・ファイルを選択します。  
**注意** レッドライン・モードを使用してインポートする場合は、変更指示が必要になります。レッドラインの詳細は、76ページの「[レッドラインまたは新規作成モードを使用する](#)」を参照してください。
6. 変換定義ファイル（オプション）を選択するか、または作成します。「次へ」をクリックします。
7. インポート設定を確認し、「インポート」をクリックしてインポートを開始します。

## Excelで区切り文字テキスト・ファイルを編集する

Excel で区切り文字テキスト・ファイルを開くと、デフォルトではすべてのセルが一般番号形式を使用しています。このため、アイテム番号や製造元部品番号などの多数を科学的記数法（8.1E+22 など）に変換します。この問題は、セルがテキスト形式を使用するよう設定することで解決できます。

**Excelの番号をテキストとしてフォーマットする手順は次のとおりです。**

1. フォーマットするセルを選択します。
2. 「フォーマット」>「セル」の順に選択します。「セルのフォーマット」のダイアログ・ボックスが表示されます。
3. 「番号」タブをクリックします。
4. 「カテゴリ」リストで「テキスト」を選択し、「OK」をクリックしてください。
5. まだ科学的記数法により表示されているセルがある場合は、各セルをクリックし、「F2」を押してから「Enter」を押して、番号をテキストで再入力します。

セルをテキスト形式にフォーマットした後、ファイルを Excel（XLS）ファイルとして保存し、形式を維持します。ファイルを CSV ファイルとして保存すると、次に Excel でこのシートを開いたときには、再度一般番号形式が使われていることになります。

## 区切り文字テキスト・ファイルをExcelにインポートする

区切り文字テキスト・ファイルに、テキストとして再フォーマットの必要なアイテム番号や製造元部品番号が多く含まれる場合、ファイルを新しい Excel ワークブックにインポートする方が合理的な場合があります。Excel の「テキスト・ファイル・ウィザード」では、列を適切にフォーマットできます。

**区切り文字テキスト・ファイルをExcelワークブックにインポートする手順は次のとおりです。**

1. 新規ワークブックを開きます。
2. 「データ」>「外部データの取込み」>「テキスト・ファイルのインポート」を選択します。
3. ファイルを選択し、「インポート」を選択します。「テキスト・ファイル・ウィザード」が表示されます。
4. 「区切られたデータ」を選択します。「次へ」をクリックします。
5. 「区切り文字」のボックスで、「カンマ」がチェックされていることを確認してください。「次へ」をクリックします。

6. 「データのプレビュー」ボックスで、データ形式を変更する列を選択します。たとえば、アイテム番号または製造元部品番号の列を選択し、「カラム・データ・フォーマット」ボックスで「文字列」をクリックします。
7. 「完了」をクリックします。
8. 「既存のワークシート」を選択し、「OK」をクリックします。

## インポート・ウィザードでExcelデータをパースする方法

Excel ファイルをインポートするよう選択した場合、インポート・ウィザードがインポートの前にデータを区切りテキスト形式へパースします。このため、区切り文字テキスト・ファイルをインポートするための多くのガイドラインが Excel ファイルにも適用されます。パーサーは特に次のタイプの Excel 値を扱います。

- **数値フォーマット** - Excel ファイルの数値はインポート前に整数または小数に変換されます。
- **日付フォーマット** - パーサーは、ネイティブの Excel 日付フォーマットの他に、3 つの識別子 (**d m yy**) がすべて含まれているカスタム日付フォーマットもサポートしています。たとえば **yyy/mm/dd** および **dd-MM-YYY hh:mm** の日付フォーマットはサポートされていますが、**mm/yy** はサポートされていません。
- **通貨フォーマット** - パーサーは、通貨値が含まれているすべてのセルを数値として処理します。したがって、\$9.99 という値が定義されているセルは 9.99 として処理されます。

## Excelファイルの設定を指定する

インポート・ファイルとして Excel ファイルを選択する場合、ファイルの設定方法を指定できます。ここでは、使用するテンプレート、インポートするワークシート、およびデータが開始するヘッダー行をインポート・ウィザードで特定できます。

### Excelファイルの設定を指定するには

1. ファイルのパスを入力するか、「参照」をクリックしてファイルを選択します。  
「Excel ワークブック設定」オプションが表示されます。
2. テンプレートのタイプ（レベル・テンプレート、親-子テンプレート、または標準）を指定します。
3. インポートするシートを指定します。デフォルトでは、ワークブックの最初のワークシートがインポートされます。
4. ヘッダ行と最後の行の場所を入力します。デフォルトは 1 です。
5. 必要に応じて、最後の行の場所を入力します。デフォルト値は「N/A」です。

---

**注意** インポート・ウィザードでは、現在のインポート・セッションに対してのみ Excel ファイルの設定が保持されます。

---

## 区切り文字テキスト・ファイルからデータをインポートする

区切り文字テキスト・ファイルはフラット・テキスト・ファイルで、データの各フィールドはカンマ、タブまたは垂直バーなどの特殊文字で区切られます。区切り文字テキスト・ファイルはテキスト・エディタで作成できます。また、区切り文字テキスト・ファイルは、Microsoft Excel やその他のスプレッドシート・プログラムなど、多くのアプリケーションを使用してエクスポートすることもできます。

**注意** 区切り文字テキスト・ファイルのファイル拡張子は、CSVまたはTXTです。これ以外の拡張子が指定されている場合、ファイルは無効になりインポートできません。

通常、テキスト・ファイルでは一度に1つのタイプの Agile オブジェクトしかインポートできません。ただし、テキスト・ファイルから BOM、AML、または公表価格ラインをインポートする場合には、親アイテムや価格も同時にインポートできます。

テキスト・ファイルには必ずヘッダ行があります。テキスト・ファイルをインポートする場合は、必ずヘッダ行の場所を指定します。

### テキスト・ファイルからデータをインポートするには

1. Web クライアントで、「ツールおよび設定」>「インポート」の順に選択します。

**注意** ファイル名には csv または txt のいずれかの拡張子が付いている必要があります。

2. 「参照」をクリックしてインポート・ファイルを検索し、選択してください。

インポート・ウィザードに、区切り文字テキスト・ファイルのデフォルトの設定オプションが表示されます。デフォルトの設定を使用して次に進むか、必要であれば、テンプレート・タイプおよびその他の設定を指定できます。手順については、30ページの「[区切り文字テキスト・ファイル設定を指定する](#)」を参照してください。

3. 「次」をクリックして次のウィザードの手順に進みます。
4. インポートするオブジェクト・タイプを選択し、「次へ」をクリックします。
5. 変更指示とマッピング・ファイルを選択します。

**注意** レッドライン・モードを使用してインポートする場合は、変更指示が必要になります。レッドラインの詳細は、76ページの「[レッドラインまたは新規作成モードを使用する](#)」を参照してください。

6. 変換定義ファイル（オプション）を選択するか、または作成します。「次へ」をクリックします。
7. インポート設定を確認し、「インポート」をクリックしてインポートを開始します。

### エクスポート・ウィザードにより保存された区切り文字テキスト・ファイルについて

Agile のインポート・ウィザードは、エクスポート・ウィザードにより保存された区切り文字テキスト・ファイルをサポートしていません。これは、エクスポート・ウィザードがファイルにヘッダー・セクションを追加し、複数のテーブルをフラット形式で含めるためです。これを正常にインポートするため、データを再フォーマットできます。

## 区切り文字テキスト・ファイル設定を指定する

区切り文字テキスト・ファイルを選択する場合には、ファイルの設定方法を指定できます。この設定では、使用するテンプレート、ヘッダー行、フィールドの区切り文字、およびファイルで使用するテキスト修飾子をインポート・ウィザードで特定できます。

テキスト・ファイルの設定を指定する手順は次のとおりです。

1. テンプレートのタイプ（レベル・テンプレート、親-子テンプレート、または標準）を指定します。
2. フィールド区切り文字を選択します。デフォルトはカンマ（,）です。
3. テキスト修飾子を選択します。デフォルトは二重引用符（"）です。
4. ヘッダ行の場所を入力します。デフォルトは1です。
5. 必要に応じて、最後の行の場所を入力します。デフォルト値は「N/A」です。
6. ファイルのエンコード・タイプを選択します。デフォルトはロケールによって異なります。U.S.（英語）ロケールでは、デフォルトは西ヨーロッパ言語（ISO）です。これには米国と西ヨーロッパの言語が含まれています。日本と中国のデフォルトのエンコードは、それぞれ SJIS と Big5 です。

---

**注意** インポート・ウィザードでは、現在のインポート・セッションに対してのみ区切り文字テキスト・ファイルの設定が保持されます。

---

## PDXパッケージおよびaXMLファイルからデータをインポートする

インポート・ウィザードでは、次の2つのXMLフォーマットからのデータのインポートをサポートしています。

- **Product Data eXchange (PDX)** - 構造化された製品コンテンツを表すための、標準化されたXMLフォーマット。e サプライ・チェーンのパートナー（OEM、EMS プロバイダ、コンポーネント・サプライヤなど）が製品コンテンツおよび変更（BOM、AML、ECR、ECO）を交換するための手段として使用されます。PDXパッケージから、アイテム、BOM、製造元、製造元部品、AML、および添付ファイルをインポートできます。PDXパッケージの作成は、Web クライアントで行います。さらに Agile では、PDX パッケージを作成、表示できる Web ベースのアプリケーション、Agile eXpress を無料で提供しています。

DTDへのリンクなど、PDXの詳細は次のWebページを参照してください。

<http://webstds.ipc.org/2571/2571.htm>

- **Agile XML (aXML)** - Agileのビジネス・スキーマをXMLで表したAgile XML形式。Agileによって管理されているすべての製品コンテンツ（アイテム、変更の詳細、製造元情報、コスト、図面、および他のファイル）が含まれています。aXMLはAgileのすべての製品におけるスキーマ要素の表現であるため、Agileのビジネス・スキーマとともに長期にわたって展開される予定です。AgileデータをaXML形式へエクスポートするには、Agile Content Service（ACS）またはAgile Integration Services（AIS）を使用します。Agileでは、aXMLパッケージを表示するための独立したツールは提供していません。ただし、aXMLパッケージに含まれているXMLファイルは任意のXMLビューアで開くことができます。たとえば、Internet Explorerを使用してXMLファイルを表示できます。最新のaXMLスキーマについては、次のWebサイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/technology/products/applications/xml/plm/2009/06/aXML.xsd>

---

**注意** インポート・ウィザードでは、変更やパッケージのインポートはサポートしていません。ただし、これらをPDXパッケージやaXMLファイルに含めることは可能です。

---

インポート予定の PDX パッケージは、次のガイドラインに従うものとします。

- PDX パッケージ内の組込み XML ファイルは正しくフォーマットされ、PDX DTD リビジョン 1.0 で規定されている構造に関する要求条件に準拠している。(PDX 0.7 ファイルを使用する場合は、ファイルを Agile eXpress 8 で開き、PDX 1.0 ファイル形式で保存してください。)
- PDX パッケージには、Agile のキー・フィールドと対応する属性の値が含まれている。
- PDX パッケージには、同じアイテムの複数のリビジョンを含めることができない。PDX パッケージから、複数のリビジョンを持つアイテムをインポートしようとする、インポート・ウィザードでファイルが却下されます。
- インポート・ウィザードでは、Agile のマルチサイト PDX 1.0 の実装を使用する PDX パッケージをサポート。他のベンダーのマルチサイト PDX の実装はサポートしていません。

#### PDXパッケージまたはaXMLファイルからデータをインポートするには

1. Web クライアントで、「ツールおよび設定」>「インポート」の順にクリックします。
2. ファイル名を入力するか、「参照」をクリックしてファイルにアクセスします。

---

**注意** PDX パッケージの拡張子は `pdx` で、aXML ファイルの拡張子は `axml` です。

---

3. 「次へ」をクリックします。  
「ファイル・コンテンツの指定」ダイアログが開き、ファイル・タイプ (aXML または PDX) に応じて一連のオプション (インポートするコンテンツ) が表示されます。
4. インポートするオブジェクト・タイプを 1 つ以上選択し、「次へ」をクリックします。

---

**注意** 「プリファレンス」の設定はオプションです。プリファレンスの設定および残りの手順の実行に関する説明や手順については、41 ページの「[インポート・プリファレンスを設定する](#)」を参照してください。

---

5. 変更指示とマッピング・ファイルを選択します。デフォルトの PDX マッピングを使用します。デフォルトの PDX または aXML マッピングを使用します。デフォルトのマッピングを編集して、フィールド・マッピングを追加または削除できます。また、変換定義ファイルを選択または作成することもできます (オプション)。「次へ」をクリックします。

---

**注意** レッドライン・モードを使用してインポートする場合は、変更指示が必要になります。レッドラインの詳細は、76 ページの「[レッドラインまたは新規作成モードを使用する](#)」を参照してください。

---

6. インポート設定を確認します。「インポート」をクリックしてインポートを開始します。

## PDXパッケージからインポート可能なオブジェクト

プロダクト・データ交換パッケージ・ファイルからは次のオブジェクトをインポートできます。

- 製造元
  - 製造元のみ
  - 製造元添付ファイル
- 製造元部品
  - 製造元部品のみ
  - 製造元部品の添付ファイル
- アイテム
  - アイテムのみ
  - 部品構成表（BOM）
  - 承認済製造元リスト（AML）
  - 拠点
  - アイテムの添付ファイル

## aXMLファイルからインポート可能なオブジェクト

aXML ファイルからは次のオブジェクトをインポートできます。

- 製造元
  - 製造元のみ
  - 関係
  - 製造元添付ファイル
- 製造元部品
  - 製造元部品のみ
  - 組成
    - BOS（サブスタンス構成表）
  - 含有基準
  - 関係
  - 承認済サプライヤ・リスト
  - 製造元部品の添付ファイル
- アイテム
  - アイテムのみ
  - 組成
    - BOS（サブスタンス構成表）
  - 含有基準
  - 承認済サプライヤ・リスト
  - 部品構成表（BOM）

- 承認済製造元
- 拠点
- アイテムの添付ファイル
- 関係
- サブスタンス
  - 組成
  - サブスタンスの添付ファイル
- デクラレーション
  - アイテム
  - 製造元部品
  - 部品グループ
  - アイテム BOS (サブスタンス構成表)
  - 製造元部品 BOS (サブスタンス構成表)
  - 部品グループ BOS (サブスタンス構成表)
  - 含有基準
  - デクラレーション添付
- アイテム
  - 部品構成表 (BOM)
  - 組成およびサブスタンス構成表 (BOS)
  - 承認済製造元リスト (AML)
  - 拠点
  - 承認済サプライヤ・リスト
  - 含有基準
  - 関係
  - アイテムの添付ファイル
- 公表価格
  - 公表価格のみ
  - 公表価格ライン
  - 価格の添付ファイル
- 見積履歴
  - 見積履歴のみ
  - 見積履歴ライン
- 部品グループ
  - 部品グループのみ
  - 承認済サプライヤ・リスト
  - 関係
  - 部品

- 含有基準
- 部品グループの添付ファイル
- ユーザー・グループ
  - ユーザー・グループのみ
  - ユーザー
- ユーザー
  - ユーザーのみ
  - ユーザー・グループ
- 製品サービス依頼 (PSR)
  - PSR のみ
  - 関連 PSR
  - 添付ファイル
  - 対象アイテム
  - 関係
- 品質変更要求 (QCR)
  - 品質変更要求のみ
  - 関係
  - 対象アイテム
  - 添付ファイル
- デklarレーション
  - デklarレーションのみ
  - 製造元部品
  - アイテム BOS (サブスタンス構成表)
  - 部品グループ BOS (サブスタンス構成表)
  - デklarレーション添付
  - アイテム
  - 部品グループ
  - 製造元部品 BOS (サブスタンス構成表)
  - 含有基準
- サブスタンス
  - サブスタンスのみ
  - サブスタンスの添付ファイル
  - 組成
- 含有基準
  - サブスタンスのみ
  - サブスタンス
  - 含有基準添付



## テンプレートを使用してデータをインポートする

インポート・テンプレートは事前に定義されているフォーマットで、区切り文字テキスト・ファイルまたは Microsoft Excel ファイルからアイテム、BOM、および AML をインポートするときに使用できます。提供されているいずれかのテンプレートに従ってデータをフォーマットすると、インポート・プロセスは簡単になります。ソース・ファイルを指定してデフォルトのフィールド・マッピングを選択したのち、「インポート」をクリックしてインポートを開始します。

インポート・ウィザードには、次のテンプレートが用意されています。

- レベル・テンプレート
  - **BOM のみのレベル・テンプレート** - 数値のレベル・カラムを指定して、BOM の階層レベルを表します。親アイテムとそのコンポーネントの間の関係は、数値レベルで設定されます。このテンプレートには、承認済製造元が含まれません。
  - **BOM および AML のレベル・テンプレート** - 数値のレベル・カラムを指定して、BOM の階層レベルを表します。親アイテムとそのコンポーネントの間の関係は、数値レベルで設定されます。このテンプレートには、各部品の承認済製造元が含まれます。
- **親-子テンプレート** - 親番号および子番号のカラムによって、BOM およびそのコンポーネントの間の関係を表します。

AML をインポートするために BOM および AML のレベル・テンプレートまたは親-子テンプレートを使用する場合は、AML に記載されている製造元が PLM システムに存在している必要があります。存在していない場合、AML は却下されます。

### インポート・テンプレートを使用してデータをインポートするには

1. いずれかのテンプレートを使用して、データを適切にフォーマットします。

---

**注意**      ソース・ファイルにはヘッダ行と少なくとも 1 行のデータが含まれていることを確認してください。

---

2. インポート・ウィザードを開始します。
3. 「インポート・ソース」ページで、ファイルのパスを入力するか、「参照」をクリックします。
4. 「テンプレート・タイプ」で、リストから「レベル・テンプレート」または「親-子テンプレート」を選択します。
5. 必要に応じて、他の設定オプションを選択します。
6. 変更指示とマッピング・ファイルを選択します。デフォルトのマッピングを使用します。「次へ」をクリックします。

---

**注意**      レッドライン・モードを使用してインポートする場合は、変更指示が必要になります。レッドラインの詳細は、76ページの「[レッドラインまたは新規作成モードを使用する](#)」を参照してください。

---

7. 「インポート」をクリックしてインポート処理を開始します。

## レベル・テンプレートについて

レベル・テンプレートには、次の2つがあります。

- **BOM のみのレベル・テンプレート**
- **BOM および AML のレベル・テンプレート**

2つのレベル・テンプレートは、同じ「テンプレート・タイプ」オプションを共有します。ソースに AML データが含まれていない場合、インポートでは **BOM のみのレベル・テンプレート・タイプ**が選択されます。それ以外の場合は、**BOM および AML のレベル・テンプレート**が選択されます。

また、アイテムでは、**BOM および AML テーブル**がレベル・テンプレートとしてサポートされています。形式は、以前のレベル・テンプレートと似ています。管理設定のフィールド名は動的であり、以前のように固定属性名ではありません。ただし、固定属性名の以前の形式もサポートされています。

レベル・テンプレートのソース・ファイルには、次の表に示すフィールドを含めることができます。

**重要** ソース・ファイルのカラム・ヘッダーは、指定したフィールド名と正確に一致している必要があります。次の表に英語で表記されているとおりにしてください。これらのフィールド名はローカライズできません。

カテゴリ	フィールド名	必須
アイテム	Level	はい
	Item Number	はい
	Description	
	Type	
	Sites	
	Revision	
	Product Line	
	Lifecycle Phase	
	Size	
	Category	
	Effectivity Date	
	Commodity	
BOM	Quantity	はい
	Find Number	
	Reference Designator	
	BoM Notes	
	BoM Site	
AML	MFR Name	はい

カテゴリ	フィールド名	必須
	MFR Part Number	はい
	MFR Part Site	
	Preferred Status	
	Reference Note	

**注意:**

- 最初のレコードのレベルは0または数値以外の値としてください。子アイテムは、ゼロ以外のレベル（1、2、3など）を持っています。最初のレコードの後には、インポート・ウィザードでは、レベル列の非数値文字は無視されます。
- BOMのみのレベル・テンプレートを使用している場合は、ソース・ファイルにAMLフィールドを含めないうでください。製造元名と製造元部品番号フィールドは、BOMのみのレベル・テンプレートで必要ありません。

次の図は、アイテムおよびBOMのレベル・テンプレート・データの例を示しています。

	A	B	C	D	E	F
1	Level	Item Number	Description	Revision	Sites	Quantity
2	0	B0233897C	NT6XD1AD XPM FRAME	A	San Jose	1
3	1	910-134-B	CBL BAYST TR REDUND	C	San Jose	1
4	1	960-460-C	TESTED TOKEN RING C	C	Austin	1
5	2	920-481-E	BAYSTACK TOKEN RING	A	Taipei	1
6	3	111-063	IC,74HCT00,NAND,4,2-IN	B	Taipei	1
7	3	111-042	IC,74HCT123,RETRIG M	A	Hong Kong	2
8	3	111-170	IC,74ABT245,8,XVCR,SO	B	San Jose	2

レベル・テンプレート・データにAMLの情報が含まれている場合、それぞれのアイテムに複数のAML行を定義できます。アイテム情報は、それぞれのAML行に対して繰り返す必要はありません。次の図は、アイテム、BOM、およびAMLのレベル・テンプレート・データの例を示しています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	Level	Item Number	Description	Revision	Sites	Quantity	MFR Name	MFR Part Number	Preferred Status
2	0	B0233897C	NT6XD1AD XPM FRAME	A	San Jose	1	ADVANCED CABLE TECHNOLOGY	910-073-B	Preferred
3	1	910-134-B	CBL BAYST TR REDUND	C	San Jose	1	JPM COMPANY	910-134-B	Preferred
4	1	960-460-C	TESTED TOKEN RING C	C	Austin	1	SOLETRON TECHNOLOGY INC	960-460-C	Preferred
5	2	920-481-E	BAYSTACK TOKEN RING	A	Taipei	1			
6	3	111-063	IC,74HCT00,NAND,4,2-IN	B	Taipei	1	TEXAS INSTRUMENTS WALTHAM	SN74HCT00D	Preferred
7							PHILLIPS ELECTRONICS	74HCT00D	Preferred
8							MOTOROLA INC	MC74HCT00AD	Alternate
9							HARRIS SEMICONDUCTOR	CD74HCT00M	Alternate
10							FAIRCHILD SEMICONDUCTOR	MM74HCT00M	Alternate
11	3	111-042	IC,74HCT123,RETRIG M	A	Hong Kong	2	PHILLIPS ELECTRONICS	74HCT123D	Preferred
12							HARRIS SEMICONDUCTOR	CD74HCT123M	Alternate
13	3	111-170	IC,74ABT245,8,XVCR,SO	B	San Jose	2	TEXAS INSTRUMENTS WALTHAM	SN74ABT245BDW	Preferred

## 親-子テンプレートを使用する

親-子テンプレートを使用する場合、ソース・ファイルには次のフィールドを含めることができます。ソース・ファイルのカラム・ヘッダーは、指定した親-子テンプレートのフィールド名と一致している必要があります。次の表を参照してください。

**重要** ソース・ファイルのカラム・ヘッダーは、指定したフィールド名と正確に一致している必要があります。次の表に英語で表記されているとおりにしてください。これらのフィールド名はローカライズできません。

カテゴリ	フィールド名	必須
アイテム	Parent Number	はい
	Parent Revision	
	Parent Type	
	Child Number	はい
	Child Revision	
	Child Type	
	Description	
	Sites	
	Product Line	
	Lifecycle Phase	
BOM	Size	
	Category	
	Commodity	
	Quantity	はい
	Find Number	
	Reference Designator	
	BoM Notes	
	BoM Site	
	MFR Namen <sup>2</sup>	はい
	MFR Part Number <sub>n2</sub>	はい
AML	MFR Part Site <sup>n2</sup>	
	Preferred Status <sup>n2</sup>	
	Reference Note <sup>n2</sup>	

### 注意:

- 親のリビジョンおよび子のリビジョンのフィールドは、これらの両方のフィールドがソース・ファイルに含まれている場合のみ、インポートされます。

- 1つのアイテムに対して複数の製造元部品を含めるには、行を横方向へ拡張します。つまり、それぞれの製造元部品に対して別のコラムを追加します。製造元部品フィールドの名前に、1 から  $m$  までの番号を追加します。 $m$  はアイテムにある製造元部品の合計数です。

次の図は、アイテムおよびBOMの親-子テンプレート・データの例を示しています。

	A	B	C	D
1	Parent Number	Child Number	Quantity	Description
2	70965G01	70964-01	1	PP PWB-FAB-REG SDB 1PNL FL 6LYR PTH
3	70965G01	70963-00	0	SCHEMATIC: BRANCH NODE SERIAL DATA BOARD
4	70965G01	70998-00	0	OUTLINE DWG PEG SDB
5	70965G01	71495-00	0	SDB,MECH ASSY DWG
6	70965G01	60454-51	2	RA IC-SMD 74F85 4BIT * COMPAR SO16
7	70965G01	60312-51	3	RR IC-SMD 74HC161 SYNC * CNTR SO16
8	70965G01	53013-54	1	RR IC-SMD 74HC4060 ASYNC * CNTR SO16
9	70965G01	71137G07	1	IC HW PROGRAMMED

次の例は、アイテム、BOM、およびAMLの親-子テンプレート・データを示しています。各コンポーネントに対して複数の製造元部品が指定されており、オプションの親および子リビジョン・コラムにリビジョン情報が含まれています。

	Parent Number	Child Number	Description	Quantity
	AX100	AXA100	NT0X9501 CABLE BRAI	1
	AX100	AX200	NT0X9504 BUSS BAR A	1
	AX100	AXA200	NT6X0162 PWR CABLE	1
	AX100	AXA300	NT0X9538 CABLE BRAI	11
	AX200	AXA400	STANDOFF INSULATOR	3
	AX200	AX300	MOUNTING BRACKET K	3
	AX300	AX400	SCREW .250-20X.375X	6
	AX400	AXA500	WS FL .2581D,.5620D	3

	MFR Name1	MFR Part Number1	MFR Name2	MFR PartNumber2	MFR Name3	MFR PartNumber3	Parent Revision	Child Revision
	JPM COMPANY	910-134-B					A	A
	SOLECTRON TECHNOLOG	960-460-C	TEXAS INSTRUME	SN74HCT00D	PEMSTAR	0323-001	A	D
	HARRIS SEMICONDUCTO	CD74HCT123M					A	A
	TEXAS INSTRUMENTS W	SN74ABT245BDW					A	A
	FAIRCHILD SEMICONDU	MM74HCT00M	PHILLIPS ELECTR	74HCT123D	PEMSTAR	0323-002	D	C
	PHILLIPS ELECTRONICS	74HCT00D					D	D
	MOTOROLA INC	MC74HCT00AD					D	A
	HARRIS SEMICONDUCTO	CD74HCT00M					A	C

### 親アイテムをグループ化する、並び替える

親-子データをインポートする前に、すべての親アイテムが連続行でグループ化されていることを確認します。同じ親アイテムが連続していない行に記載されている場合、インポート・ウィザードでは、その親アイテムのコンポーネント部品の最後のグループのみがインポートされます。親-子データを事前に並び替えるためのこの要件は、Excelファイルおよびテキスト・ファイルのBOMデータを並び替えておく必要があるのと似ています。詳細は、25ページの「[BOMコンポーネントを並び替える](#)」を参照してください。

## 関係テーブルにオブジェクトをインポートする

サポートされているすべての Agile オブジェクトは、アイテム、製造元、製造元部品、および部品グループのオブジェクトの関係テーブルにインポートできます。また、インポートを使用してすべてのユーザー設定フィールドと関係ルールを挿入できます。関係テーブルの詳細は、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。

---

**注意**      インポート・ウィザードでは、関係テーブルにインポートする場合に「**すべて置換**」モードが常に選択されます。「**すべて置換**」モードでは、既存の関係テーブル・データが、インポートされたソース・ファイルの関係テーブル・データで常に置換されます。

---

# インポート・プリファレンスを設定する

## この章のトピック

■ プリファレンスについて .....	41
■ パースと検証オプションを設定する .....	42
■ 存在しないデータを受諾または却下する .....	42
■ ビジネス・ルール・オプションを設定する .....	44
■ ユーザー・セッションでインポート設定を維持する .....	52
■ ファイル・システムでインポート・プリファレンス設定を維持する .....	53
■ デフォルト・タイプを設定する .....	56
■ デフォルトの自動採番ソースを設定する .....	57

## プリファレンスについて

インポート・ウィザードには、いくつかのプリファレンスの設定オプションが含まれています。これらの設定は、ウィザードの任意の手順で設定できます。これらのプリファレンスによって、データ・インポート時のインポート・ウィザードの動作が設定されます。インポート・ウィザードのプリファレンスは、ユーザーがアクティブな Agile PLM クライアント・セッションを継続しているかぎり維持されます。ただし、セッション終了後にユーザー・プロファイルで永続的に保存されるわけではありません。

### インポート・プリファレンスを設定するには

1. Web クライアントまたは Java クライアントでインポート・ウィザードを開き、インポート・ウィザードの左下端にある **Preferences** ボタンを選択します。

**注意** これらのインポート・プリファレンスは、インポート・ファイルを選択する前でも後でも設定できます。設定したプリファレンスを今後のセッションでも維持する場合は、「**他のユーザーと共有するプリファレンス設定を維持**」チェックボックスを選択する必要があります。53ページの「[ユーザーがプリファレンス設定を保存（維持）できるようにする](#)」を参照してください。

「インポート・プリファレンス」ダイアログが表示されます。

2. パースと検証オプション、ビジネス・ルール・オプション、「デフォルト・タイプ」または「自動採番ソース」のいずれかのプリファレンス・グループをリストから選択します。

パースと検証オプション、ビジネス・ルール・オプション、「デフォルト・タイプ」または「自動採番ソース」で使用可能なオプションを選択してプリファレンスを設定し、「**保存**」を選択します。この章では、これらのオプションを設定する際に使用可能なオプションおよび手順について、必要な情報を記載します。

## パースと検証オプションを設定する

「パースと検証オプション」プリファレンス・グループを選択すると、次のオプションが表示されます。

ログ変換	「ログ変換」チェックボックスでは、インポート・ログ・ファイルにすべての値の変換を記録するかどうかを設定します。大規模なファイルをインポートする場合に迅速に結果を得るには、「ログ変換」をオフにします。
マルチリスト区切り文字	「マルチリスト区切り文字」リストでは、マルチリスト・フィールドの値を区切るためにインポート・ファイルで使用する文字を指定します。セミコロン（デフォルト）、カンマ、または垂直バーのいずれかを選択できます。
カスケード区切り文字	「カスケード区切り文字」リストでは、カスケード・リスト・フィールドの値を区切るためにインポート・ファイルで使用する文字を指定します。垂直バー（デフォルト）、カンマ、またはセミコロンのいずれかを選択できます。
空白確認アクション	空白確認アクション・プリファレンスでは、インポート・ウィザードで使用が禁止されているフィールド内の空白文字（空白、ラインフィード、新規行、タブ）をどのように処理するかを設定します。値を却下するには「却下」（デフォルト）を、空白文字を削除する場合は「消去」を選択します。
大文字小文字の確認アクション	Agile フィールドには、大文字/小文字の値を区別するように設定できるものがあります。大文字小文字確認アクション・プリファレンスでは、フィールドに不正な大文字/小文字が含まれている値を、インポート・ウィザードでどのように処理するかを設定します。値を正しい文字に変換する場合は「変換」（デフォルト）を、値を却下する場合は「却下」を選択します。
長さ確認アクション	長さ確認アクション・プリファレンスでは、フィールドで最大長を超える値をインポート・ウィザードでどのように処理するかを設定します。値を却下する場合は「却下」（デフォルト）を、最大長を超えた分の値を削除するには、「省略」を選択します。

## 存在しないデータを受諾または却下する

このオプションについては、「ビジネス・ルール・オプションを設定する」にも記載があり、簡単に説明されています。選択肢は次のとおりです。

- 存在しないすべてのオブジェクトをインポート中に受諾または却下する
- 存在しないオブジェクトをインポート検証後に選択的に受諾または却下する

### 存在しないオブジェクトをインポート中に受諾または却下する

次のいずれかを選択します。

- 「受諾」を選択すると、システムに存在しないすべての PLM オブジェクトがインポート検証前にインポートされます。インポート・ソリューションでは、存在しないオブジェクトに対して作成された新しいオブジェクトが、インポート・ステータス・メッセージに表示されます。存在しないすべてのオブジェクト (BOM、AML など) に対するインポート・ステータス・メッセージは、インポートの要約ページで印刷できます。

**注意** インポート検証中に「受諾」チェックボックスを選択する必要があります。

- 「却下」を選択すると、システムに存在しないすべての PLM オブジェクトがインポート検証前に却下されます。インポート・ソリューションでは、却下された存在しないオブジェクトがインポート・ステータス・メッセージに表示されます。存在しないすべてのオブジェクト (BOM、AML など) に対するインポート警告メッセージは、検証の要約ページで印刷できます。



---

**注意** インポート検証中に、存在しないすべてのオブジェクトに対して「受諾」チェックボックスの選択を解除する必要があります。

---

#### 存在しないオブジェクトのAgile PLMへのインポートを受諾または却下するには

1. PLM Web クライアントで、「ツールおよび設定」>「インポート」の順に選択します。「インポート」ページにインポート・ウィザードが開きます。
2. インポート・ウィザードで「プリファレンス」を選択します。「インポート・プリファレンス」ダイアログが開きます。
3. 「インポート・プリファレンス」で「ビジネス・ルール」を選択します。「ビジネス・ルール」オプション・リストが表示されます。
4. 「ビジネス・ルール」で「存在しないオブジェクトに対する動作」を選択してから、「受諾」または「却下」のいずれかを選択します。
5. 「保存」をクリックして、残りのインポート・タスクに進みます。検証する場合は、「[インポート前にソース・データを検証する](#)」を参照してください。

---

**注意** インポート検証機能は PC および PQM オブジェクトに対してサポートされています。

---

### 存在しないオブジェクトを検証後に選択的に受諾または却下する

システムに存在しない PLM オブジェクトを検証後に選択的にインポートまたは却下する場合、「インポート」では、存在しないオブジェクトが検証の要約ページに表示されます。ここで、PLM データベースに存在しないオブジェクトをインポートするか、却下するかを選択します。

---

**注意** インポート検証機能は PC および PQM オブジェクトに対してサポートされています。

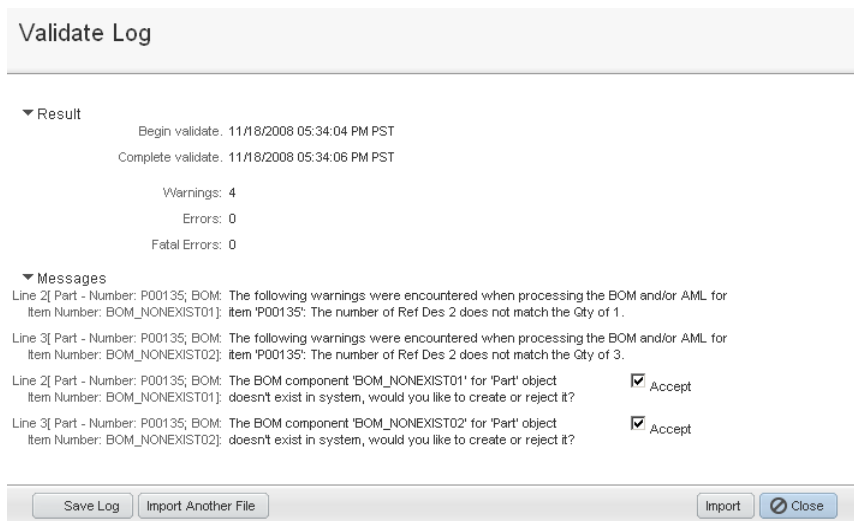
---

#### 存在しないオブジェクトのインポートを検証後に選択的に受諾または却下するには

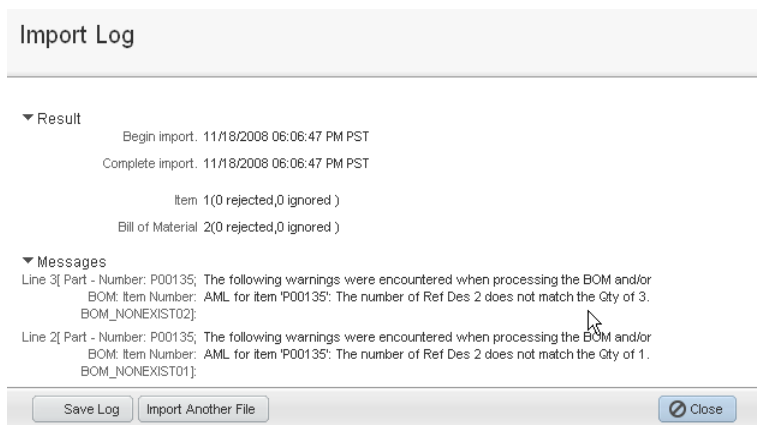
1. インポート・ファイルがテキスト・ファイルで、次のデータを含んでいると仮定します。
 

```
item,bom,qty,refdes
P00135,BOM_NONEXIST01,1,A1-A2
P00135,BOM_NONEXIST02,3,B1-B2
```
2. PLM Web クライアントで、「ツールおよび設定」>「インポート」の順に選択します。「インポート」ページにインポート・ウィザードが開き、インポート・ファイルが要求されます。
3. インポート・ウィザードで「参照」をクリックし、前述のテキスト・ファイルを選択して「プリファレンス」をクリックします。「インポート・プリファレンス」ダイアログが開きます。
4. 「インポート・プリファレンス」で、「ビジネス・ルール」>「存在しないオブジェクトに対する動作」の順に選択します。
5. この例では「受諾」を選択します。
6. 「保存」をクリックします。
7. インポート・ウィザードで「次」をクリックします。「ファイル・コンテンツの指定」が表示されます。
8. 「部品構成表(BOM)」>「次」の順に選択します。「コンテンツ・オプションの選択」ステップが開きます。
9. 入力データや要件に応じて選択を行い、「次」をクリックします。「属性マッピングの指定」ページが開きます。
10. 「属性マッピングの指定」ダイアログで、フィールドをマップします（この例では次に示すようにマップします）。
11. 「次へ」をクリックします。「インポート定義の確認」ステップが表示されます。

12. 「検証」を選択します。「検証ログ」ファイルが開きます。



13. 「インポート」を選択します。「インポート・ログ」が開き、結果が表示されます。



## ビジネス・ルール・オプションを設定する

「ビジネス・ルール・オプション」プリファレンス・グループを選択すると、次のオプションが表示されます。

- スマート・ルール警告違反動作
- 参照指示の数量不一致動作
- 存在しないオブジェクトに対する動作
- 変更モード
- レッドライン・モード動作
- BOM および AML のインポート動作
- 複数行更新モード

- 価格数量割引のデフォルト
- ソーシング・プロジェクト数量ロールアップ
- 参照指示範囲文字
- 参照指示の区切り文字

次の各セクションでは、これらのオプションについて説明します。

## スマート・ルール警告違反動作

Java クライアントで「警告」に設定されているスマート・ルールです。「可」や「不可」などの他の値に設定されたスマート・ルールには適用されません。

- 見出し番号の重複
- 重複アイテム番号
- 重複参照指示
- 製造元部品に複数アイテム
- 公表価格ライン有効期間の重複
- ワークフロー照合基準属性の変更

次のいずれかを選択します。

- 「**オブジェクトを却下する**」(デフォルト)を選択すると、スマート・ルール警告をトリガーするオブジェクトは却下されます。
- 「**オブジェクトを受諾する**」を選択すると、スマート・ルール警告は記録されますが、オブジェクトはインポートされます。

## 参照指示の数量不一致動作

「**参照指示の数量不一致動作**」ドロップダウン・リストには、インポートを受諾または却下する次のようなオプションがあります。

- 「**受諾**」を選択すると、参照指示の数量不一致警告は無視され、データがインポートされます。
- 「**却下**」を選択すると、参照指示の数量不一致警告がある場合はインポートに失敗し、警告がインポート・ログ・ファイルに記録されます。

## 存在しないオブジェクトに対する動作

存在しない PLM オブジェクトをインポートする場合、次のオプションがあります。

- システムに存在しないすべての PLM オブジェクトのインポートを、インポート検証の実行前に受諾します。
- システムに存在しないすべての PLM オブジェクトのインポートを、インポート検証の実行前に却下します。
- システムのデータベースに存在しない PLM オブジェクトのインポートを、インポート検証の実行後に選択的に受諾または却下します。このオプションをサポートするために、存在しないオブジェクトのリストが「インポート」の検証要約ページに表示されます。

詳細は、42ページの「[存在しないデータを受諾または却下する](#)」を参照してください。

## 変更モード

インポート・ウィザードでは、アイテム、BOM、AML、価格、および公表価格ラインをレッドライン・モードまたは新規作成モードでインポートできます。

デフォルト設定のレッドライン・モードでは、インポート・ウィザードはレッドライン・プロセスを使用して、BOM、AML、および公表価格ライン行を更新します。変更されたフィールドは赤でハイライトされます。リビジョンのステータスに関係なく変更指示が必要です。保留中の変更やリリース済のリビジョンとともにデータを任意のアイテムや価格にインポートする場合は、レッドライン・モードである必要があります。

新規作成モードでは、インポート・ウィザードはBOM、AML、および公表価格ライン行の更新にレッドライン・プロセスを使用しません。したがって、変更指示は必要ありません。データをプレリナリ・アイテムにインポートしても、リビジョンを進めたくない場合は、新規作成モードを使用すると便利です。

## レッドライン・モード動作

「レッドライン・モード動作」のプリファレンスでは、アイテムをレッドライン・モードでインポートした際に、どのアイテムが変更の「対象アイテム」タブに追加されるかを決定できます。すべてのアイテムを変更に追加、新規アイテムのみを追加、またはレッドラインが必要な新規アイテムと既存アイテムを追加できます。

次のいずれかのオプションを選択します。

- 「**新規/既存アイテムを変更へ**」（デフォルト） - レッドラインされた新規アイテムおよび既存アイテムを変更の「対象アイテム」タブへ追加します。インポート・データに含まれる既存アイテムのうち、レッドラインされていないものは、変更へ追加されません。
- 「**すべてのアイテムを変更へ**」 - アイテムが新しいかどうか、またアイテムがレッドラインされたかどうかにかかわらず、インポート・データのすべてのアイテムを変更の「対象アイテム」へ追加します。
- 「**新規アイテムのみを変更へ**」 - 新規アイテムのみを変更の「対象アイテム」タブへ追加します。レッドラインされたかどうかにかかわらず、既存アイテムは変更へ追加されません。

---

**注意** BOM と AML のフィールドは再定義できます。また、変更管理下の「タイトル・ブロック」フィールド（「タイトル・ブロック」>「説明」、「タイトル・ブロック」>「ライフサイクル・フェーズ」、および「タイトル・ブロック」>「リビジョン」など）も再定義できます。

---

## BOMおよびAMLの動作

「BOM および AML のインポート動作」のプリファレンスは、BOM および AML をインポートする際に使用する動作を指定します。すべてのアイテム（BOM コンポーネントを含む）または BOM または AML を持つアイテムのみをインポートできます。次のいずれかのオプションを選択します。

- 「**アセンブリ、AML、コンポーネントをインポート**」（デフォルト） - BOM コンポーネントを含むすべてのアイテムをインポートします。
- 「**アセンブリおよび AML のみをインポート**」 - BOM または AML を持つアイテムのみをインポートします。BOM コンポーネントはインポートされません。

## 複数行更新モード

「複数行更新モード」プリファレンスは、ソース・データをどのように使用して、BOM、AML、公表価格ラインなどのターゲット・テーブルを更新するかを定義します。次のフィールドから選択できます。

- 「すべて置換」 (デフォルト) - 「すべて置換」を選択した場合は、ターゲット・データがソース・データですべて置換されます。ソース・データに示されていないターゲット・データの行はすべて削除されます。

**注意** このオプションは、BOM、AML、価格ラインおよび関係テーブルで使用できます。

- 「追加/更新のみ」 - 「追加/更新のみ」を選択した場合は、ソース・データの新規行が追加され既存の行が変更されます。削除される行はありません。BOM、AML、および公表価格ライン・データの一部をインポートする場合は、「追加/更新のみ」設定が役立ちます。

**注意** このオプションは、BOM、AML および公表価格ラインのデータ・インポートで使用できます。その他のテーブル・タイプでは、常に「追加/更新」モードになります。

- 「選択的削除」 - 「選択的削除」を選択した場合は、行を指定して次の操作を行うことができます。
  - 削除
  - インポート/追加
  - 更新

**注意** このオプションは、BOMおよびAMLのデータ・インポートのみに使用できます。その他のインポート・タイプでは常に「追加/更新」モードになります。BOMおよびAMLのデータ・インポートでこのオプションを実行するプロセスの詳細は、47ページの「[選択的削除オプションを設定する](#)」の例を参照してください。このオプションは、レベル・テンプレートを使用し、PDXまたはaXMLデータ形式でBOMおよびAMLデータをインポートする場合にサポートされます。

## 選択的削除オプションを設定する

この例では、インポート・ウィザードの「ビジネス・ルール」オプションの「複数行更新モード」にある「選択的削除」を使用して、BOMの追加、削除および更新をします。現在のBOM、インポート・データ、更新条件、手順および結果が次のように表示されます。

### 現在のBOM

The screenshot shows the Oracle P00130 Part BOM view. The left sidebar contains navigation options like FOLDERS, Searches, My Bookmarks, and Recently Visited. The main area displays the BOM structure with a table showing 3 rows selected. The table has columns for Item Number, Item Description, Item Rev, Qty, and Find II Ref Des. The selected rows are P00131, P00133, and P00134.

Item Number	Item Description	Item Rev	Qty	Find II Ref Des
P00131		1	0	
P00133		1	0	
P00134		1	0	

## 区切り文字インポート・テキスト・ファイル

```
Parent, bom, qty, isDelete
P00130, P00133, 1, Yes
P00130, P00131, 10, NO
P00130, P00135, 1, NO
```

## 問題ステートメント

BOM を変更します（P00131 を更新、P00135 を追加、その過程で P00133 を削除）。

## ソリューション

1. PLM Web クライアントで、「ツールおよび設定」>「インポート」の順に選択します。インポート・ウィザードが開き、インポート・ファイルが要求されます。

2. インポート・ウィザードで「参照」をクリックします。前述のファイルを選択し、「プリファレンス」をクリックして、「インポート・プリファレンス」ダイアログを開きます。
3. 「インポート・プリファレンス」で、「ビジネス・ルール」>「複数行更新モード」>「選択的削除」>「保存」の順に選択します。

4. インポート・ウィザードで「次」をクリックします。「ファイル・コンテンツの指定」ステップが表示されます。

Import

Specify File Content 1 2 3 4 5

Specify the content to import from the options below. [Help Link](#)

▶ Manufacturer

▶ Manufacturer Part

▼ Item

☐ Item only ☒ Bill of Material

☐ Approved Manufacturer List ☐ Specification

☐ Sites ☐ Approved Supplier List

☐ Relationships

Preferences < Back Next > Import Validate Cancel

5. 「部品構成表(BOM)」>「次」の順に選択します。「コンテンツ・オプションの選択」ステップが開きます。

Import

Select Content Options 1 2 3 4 5

Select a mapping and data transformation method. If you are importing Item or Price content specify whether or not a Change Order is required for modifications. [Help Link](#)

▼ Data Mapping

☒ Define attribute mapping in next step

☐ Use a saved mapping file

Browse...

▼ Data Transformation

☒ No transformations are necessary

☐ Use a saved transformation file

Browse...

[Download transformation template](#)

▼ Redline Options


☐ Updates do not require redlining

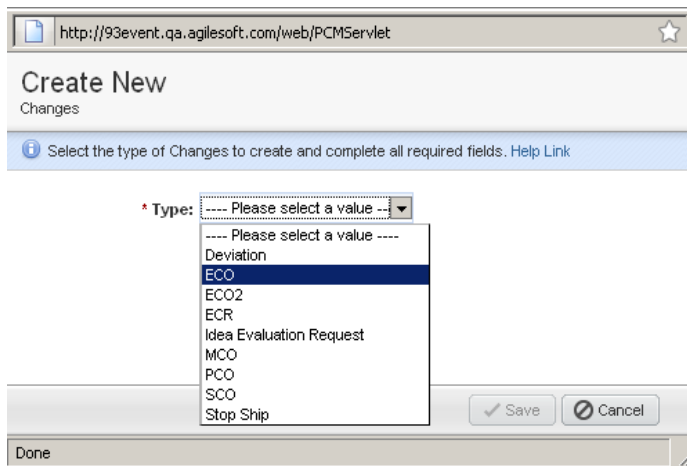
☒ Use the following Change for redlining

C00229

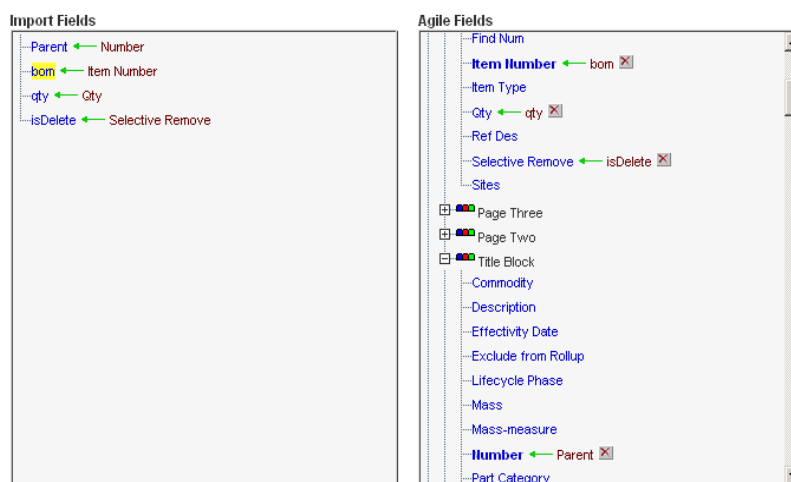
Preferences < Back Next > Import Validate Cancel

6. 「データ・マッピング」、「データ変換」および「レッドライン・オプション」を設定します。

7. 「レッドライン・オプション」で  ボタンをクリックします。



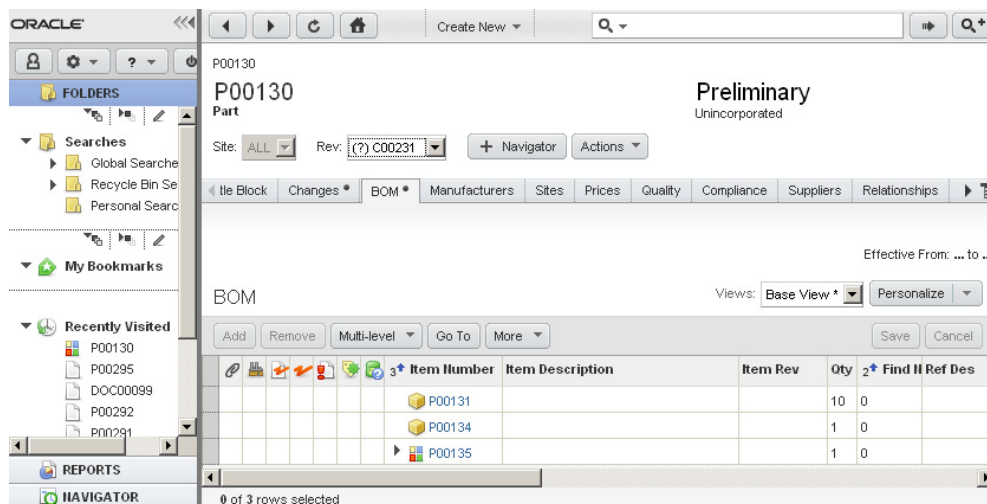
8. 「新規作成」の「変更」で「ECO」を選択し、ECO が作成されたら「保存」をクリックします。
9. ウィザードのステップ 3 で「次」をクリックし、ウィザードの「属性マッピングの指定」ステップに進みます。



10. 属性をマップします。「次」をクリックしてステップ 5「インポート定義の確認」に進んでから「インポート」を選択するか、ここで「インポート」を選択します。「インポート」を選択すると、「インポート・ログ」ダイアログが開きます。



11. Web クライアントで、P00130BOM の変更を表示します。P00131 が更新され、P00135 が追加され、P00133 が削除されています。



## 価格数量割引のデフォルト

価格オブジェクトには、数量割引可という名前の「一般情報」フィールドがあります。ここでは、異なる数量によって価格が割引されるかどうかを定義します。インポート・ウィザードで公表価格ライン・データのインポートの際に、新規の価格オブジェクトを自動的に作成した場合は、**価格数量割引のデフォルト・プリファレンス**に基づいて、「数量割引可」フィールドの値が設定されます。

インポート・ウィザードで作成された新規の価格オブジェクトで、数量割引を可能にする場合は、「はい」を選択します。それ以外の場合は、「いいえ」（デフォルト）を選択します。

**注意** 既存の価格オブジェクトに対して「数量割引可」の設定は変更できません。この値は、新規の価格に対してのみ設定できます。

## ソーシング・プロジェクト数量ロールアップ

このルールは PCM のみに適用されます。数量値は PCM のテーブル・メニューで設定されます。たとえば、数量ロールアップ値を設定できる対象は次のとおりです。

- ソーシング・プロジェクト・アイテムのインポート
- サプライヤ回答でのインポート
- Web サプライヤ以外への見積依頼回答ステータス

**注意** インポートまたはエクスポートでは、このルールを**有効**または**無効**に設定できます。

## 参照指示範囲文字

ハイフン (-) (デフォルト)、バックスラッシュ (\)、スラッシュ (/)、または垂直バー (|) を選択します。範囲文字は、連続した値に展開される参照指示値を区切るために使用されます。たとえば、**R4-R6** は **R4,R5,R6** に展開されます。

PDXパッケージまたはaXMLファイルからBOMをインポートする場合は、参照指示の範囲文字にハイフンを指定してください。参照指示の詳細は、21ページの「[BOM参照指示を使用する](#)」を参照してください。

## 参照指示の区切り文字

カンマ (,) (デフォルト)、セミコロン (;)、または垂直バー (|) を選択します。区切り文字は、展開する必要のない参照指示の値 (たとえば **R1,R2,R3**) を区切ります。

PDX パッケージまたは Agile XML (aXML) ファイルから BOM をインポートする場合、参照指示の区切り文字にカンマを指定してください。

## ユーザー・セッションでインポート設定を維持する

Web クライアントでインポート・ウィザードを使用する場合、セッションを継続するかぎり、現在の設定が維持されます。維持されるインポート・ウィザード設定には、以下が含まれます。

- インポート・プリファレンス
- ソース・ファイル設定 (ファイル名やパスは含みません。これらは保存されません)
- インポートするために選択されたコンテンツ
- 選択されたマッピング・ファイル
- 選択された変換ファイル

ソース・ファイルの異なるタイプを選択する場合、インポート・ウィザードは選択したコンテンツ、マッピング・ファイル、および変換ファイルをリセットします。Web クライアントをログアウトしてから再びログインする場合、インポート・ウィザードはデフォルト設定にリセットされます。

## ファイル・システムでインポート・プリファレンス設定を維持する

ユーザー・セッションとは異なり、権限のある管理者は、ユーザーがグローバル・ベースでインポート・プリファレンスを設定および保存できるように設定できます。このプロセスでは、管理者はJavaクライアントでユーザーを定義または選択してから、選択したユーザーに対して「インポート・プリファレンス設定の保存」オプションを有効にします。これにより、選択されたユーザーは、Webクライアントからインポート・プリファレンスを設定および保存できるようになります。さらに、これらの設定は、ユーザー・セッション内の設定とは異なり、ユーザーがログアウトしてから再びログインした場合にも失われません。必要な手順について次に説明します。

### ユーザーがプリファレンス設定を保存（維持）できるようにする

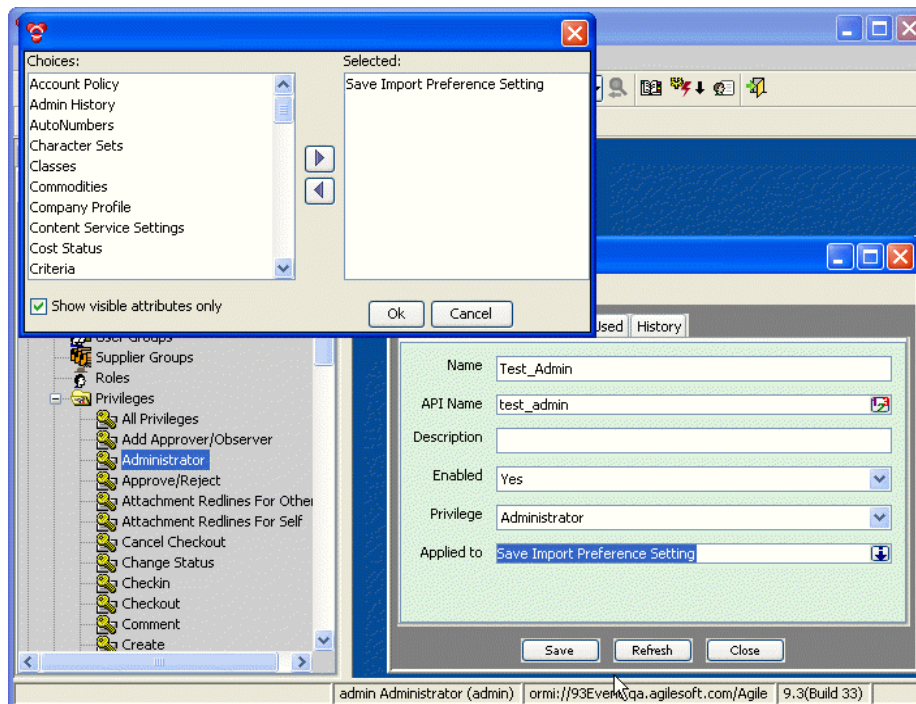
次の例では、管理者が `Test_Admin` という名前のユーザーを定義し、このユーザーに対して「インポート・プリファレンス設定の保存」オプションを有効にします。これにより、このユーザーはプリファレンス設定を PLM Webクライアントに保存できるようになります。

**注意** この操作ではインポート・プリファレンスをファイル・システムに保存するため、ユーザーには、「ファイル取出し」、「作成(ファイル・フォルダ)」、「ディスカバリ(ファイル・フォルダ)」、「読取り(ファイル・フォルダ)」、「変更(ファイル・フォルダ)」、「ファイルのチェックイン」および「ファイルのチェックアウト」の各権限が必要です。これらのプリファレンスを表示および読み取るユーザーには、「ディスカバリ(ファイル・フォルダ)」、「読取り(ファイル・フォルダ)」および「ファイル取出し」の各権限が必要です。

#### ユーザーを定義して「インポート・プリファレンス設定の保存」オプションを有効にするには

1. Javaクライアントで管理者としてログインし、「管理」>「ユーザー」の順に選択します。「ユーザー」パネルが開きます。
2. 「ユーザー」パネルで、`Test_Admin` という名前のユーザーを定義します。手順については、『Agile PLM スタート・ガイド』を参照してください。
3. 「管理」>「権限」>「管理者」で、管理者権限を（`Test_Admin` 用に）作成します。
4. 「`Test_Admin`」をダブルクリックします。権限: `Test_Admin` パネルが開きます。

5. 権限: **Test\_Admin** で、「適用先」>「インポート・プリファレンス設定の保存」の順に選択します。




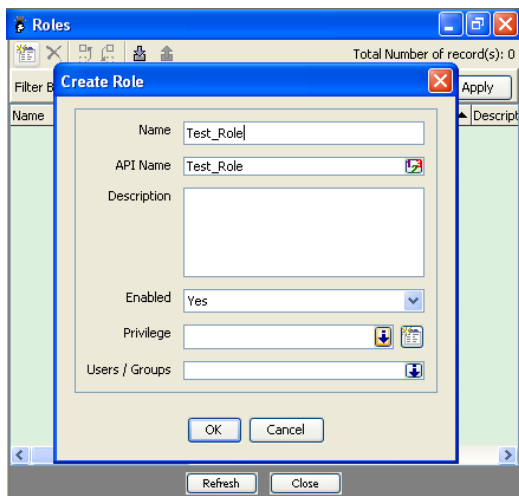
## 役割と権限を割り当てる

### 役割と権限を割り当てるには

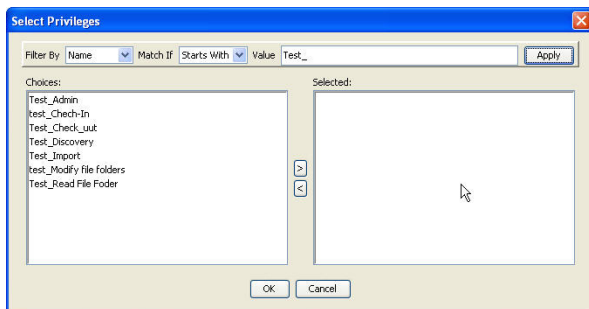
1. Java クライアントで、「管理」>「権限」の順に選択します。
2. 「権限」で、次の権限マスク（アクション）を選択、定義および適用します。各ステップの後に必ず設定を保存してください。手順については、『Agile Product Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

権限	権限マスク名	適用条件
チェックイン	Test_Check_in	すべてのファイル・フォルダ
チェックアウト	Test_Check_out	すべてのファイル・フォルダ
削除	Test_Delete	すべてのファイル・フォルダ
ディスカバリ	Test_Discovery	すべてのファイル・フォルダ
インポート	Test_Import	
変更	Test_Modify	すべてのファイル・フォルダ
読取り	Test_Read	すべてのファイル・フォルダ

3. 「管理」で、「ユーザー設定」>「役割」>「作成」ボタンの順に選択します。「役割の作成」ダイアログが開きます。



4. 「役割の作成」ダイアログで、**Test\_Role**という役割を定義し、「権限」フィールドの下矢印をクリックします。「権限の選択」ダイアログが開きます。
5. 「権限の選択」ダイアログで、先ほど定義した権限を探します（名前にはすべて **Test\_**が付けられています）。
6. 選択して「**OK**」をクリックします。



## インポート・プリファレンスを設定および保存する

54ページの「[役割と権限を割り当てる](#)」で作成したユーザーである **Test\_Admin** は、次のようにインポート・プリファレンスを設定および保存できます。

1. **Test\_Admin** として Web クライアントにログインします。
2. 「ツール」ドロップダウン・メニューで「インポート」を選択します。
3. 左下隅の「プリファレンス」をクリックします。「インポート・プリファレンス」ダイアログが開きます。

- 「インポート・プリファレンス」で、「他のユーザーと共有するプリファレンス設定を維持」ボックスを選択します。

**Import Preference**

**Parsing and Validation** Business Rule Default Types Autonumber Sources

Log Transformations: ☒

Multilist Delimiter Character: semicolon (;)

Cascade Delimiter Character: Vertical bar (|)

Whitespace Validation Action: Reject

Case Validation Action: Convert

Length Validation Action: Reject

☒ Persist preference settings to be shared by other users.

これらの設定が維持されることを確認するには、ログオフしてから再び **Test\_Admin** としてログオンしてください。

## デフォルト・タイプを設定する

PLM システムで新規のオブジェクトを作成するには、オブジェクトのサブクラスを指定する必要があります。Agile PLM システムごとに、異なるサブクラスを持つように設定できます。新規オブジェクトのインポートを簡潔にするために、インポート可能なそれぞれのオブジェクトに対してデフォルトのサブクラスを使用するように指定できます。マップされているフィールド（「部品クラス」>「タイトル・ブロック」>「部品タイプ」など）によってサブクラスが指定されていない場合は、インポート・ウィザードは、デフォルト・タイプを使用して新規オブジェクトを作成します。

インポート・ウィザードが BOM、AML、および公表価格ラインに対する親アイテムを自動的に作成する場合も、デフォルト・タイプが使用されます。

### インポート・ウィザードに対するデフォルト・タイプを設定するには

- インポート・ウィザードの左下端の「プリファレンス」ボタンをクリックします。「インポート・プリファレンス」ページが開きます。

2. 「インポート・プリファレンス」>「デフォルト・タイプ」の順に選択します。

**Import Preference**

Parsing and Validation	Business Rule	Default Types	Autonumber Sources
Default price type:	Published Price		
Default Quote History type:	Quote History		
Default customer type:	Customer		
Default psr type:	Customer	Customer2	
Default PR type:	Problem Report		
Default NCR type:	NCR		
Default QCR type:	Audits		
Default Audit type:	Audit		
Default CAR type:	CAPA		
Default supplier type:	Component Manufacturer		

☒ Persist preference settings to be shared by other users.

Save Close

3. 各オブジェクト・タイプに対してデフォルトのサブクラスを指定し、「保存」をクリックします。

## デフォルトの自動採番ソースを設定する

自動採番ソースは、あらかじめ定義されている連続番号で、多数の Agile クラスのオブジェクトについて自動的に採番する場合に使用します。「番号」フィールドが必須でないか、ソース・データに指定されていない場合、インポート・ウィザードでは自動採番ソースを使用して、作成された新しいオブジェクトに番号を割り当てます。インポート・ウィザードでは、公表価格、見積履歴、製品サービス依頼、品質変更要求、顧客、およびサプライヤを自動的に作成する場合に、選択されている自動採番ソースを使用してオブジェクトに番号を割り当てます。たとえば、顧客名のみが含まれているソース・データで新規の顧客をインポートする場合は、インポート・ウィザードで顧客クラスに対してデフォルトの自動採番ソースを使用して、それぞれの顧客に番号を割り当てます。

**注意** Agile PLM 管理者は Java クライアントを使用して新しい自動採番ソースを定義できます。

### インポート・ウィザードに対するデフォルトの自動採番ソースを設定するには

1. インポート・ウィザードの左下端の「プリファレンス」ボタンをクリックします。「プリファレンスの設定を指定」ウィンドウが表示されます。
2. 「自動採番ソース」を選択します。
3. 各タイプに対してデフォルトの自動採番ソースを指定し、「OK」をクリックします。





# インポート前にソース・データを検証する

## この章のトピック

■ 概要.....	59
■ ソース・データ検証の規模と範囲.....	59
■ データ検証の手順と例 .....	63

## 概要

インポートの検証を使用すると、ソース・データを PLM データベースにインポートする前に、Agile PLM サーバー・ルールへの準拠を確認できます。この機能を起動すると、検証プロセス時に発生したエラーを表示するレポートが生成されます。このレポートを使用して、必要な修正を加えた後、データを PLM データベースにインポートできます。検証の起動では、データのインポートは実施されません。データがサーバー・ルールに準拠しているかどうか確認されるのみです。

## ソース・データ検証の規模と範囲

ソース・データ検証サポートには、次に記載する PLM ファイル・タイプ、オブジェクト、テーブルおよび機能が含まれます。

## サポートされるファイル・タイプとオブジェクト

ソース・インポート検証は、aXML、PDX、CSV（区切り文字テキスト・ファイル）、および Excel ソース・ファイルに適用可能です。CSV と Excel 形式については、インポートと同様にマッピング定義を提供する必要があります。aXML と PDX については、デフォルトのマッピング設定が用意されているため、マッピング定義は必要ありません。

検証は、次のグループ内のオブジェクトに属するデータ・フィールドに対して実行されます。

- パースと検証オプション
- ビジネス・ルール・オプション
- デフォルト・タイプ
- 自動採番ソース

**注意** データ検証を行うユーザーには、オブジェクトの削除権限が必要です。データ検証では、データを検証する前に存在しないオブジェクトが作成され、データ検証が完了すると、生成されたオブジェクトがすべて削除されるため、削除権限が必要になります。このプロセスの間、Agile PLM では、ユーザーにオブジェクトの削除権限がないという警告が 1 回表示されます。

## サポートしているテーブル

検証は、次のクラスおよびテーブル内のデータに対して実行されます。

- アイテム
  - タイトル・ブロック
  - ページ 2
  - ページ 3
  - 部品構成表 (BOM)
  - 承認済製造元部品
  - 関係
  - 添付ファイル
- 製造元
  - カバー・ページ
  - ページ 2
  - ページ 3
  - 関係
  - 添付ファイル
- 製造元部品
  - カバー・ページ
  - ページ 2
  - ページ 3
  - 関係
  - 添付ファイル
- 部品グループ
  - カバー・ページ
  - ページ 2
  - ページ 3
  - 関係
  - 添付ファイル
- 製品サービス依頼 (PSR)
  - 対象アイテム
  - カバー・ページ
  - ページ 2
  - ページ 3
  - 関連 PSR
  - 関係
  - 添付ファイル

- 品質変更要求 (QCR)
  - 対象アイテム
  - カバー・ページ
  - ページ2
  - ページ3
  - 関係
  - 添付ファイル

## Agile SDKおよびAgile Integration Servicesの検証サポート

Agile Integration Services (AIS) および Agile Software Developer Kit (SDK) も、ソース・データ検証をサポートしています。

- **AIS** - ソース・インポート・データを検証するために、`importer.ValidateData` という新規操作を提供します。
- **SDK** - インポートと検証を実行するために、`IImportManager.ImportData()` および `IImportManager.ValidateData()` という2つのインタフェースを提供します。

## 検証結果ログ・ファイル

次の検証後情報を提供するために、XML Document Type Definition (DTD) ファイルが `import.log` に組み込まれます。

- 重大度に基づいて分類およびソートされます。
  1. コメント
  2. 警告
  3. エラー
  4. 致命的
- 検証プロセス時に発生した警告、エラー、および致命的エラーの数を示す要約検証結果。

## 検証ログ・ファイル出力の例

```
<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
<!DOCTYPE import-log [
<!ELEMENT import-log
(begin-import,(note|warning|error|fatal)*,validate-summary?,record-summa
ry*,end-import)>
<!ELEMENT begin-import (#PCDATA)>
<!ATTLIST begin-import timestamp CDATA #REQUIRED>
<!ELEMENT note (#PCDATA)>
<!ATTLIST note
  context CDATA      #IMPLIED
  line CDATA         #IMPLIED
  type CDATA         #IMPLIED
```

```

>
<!ELEMENT warning (#PCDATA)>
<!ATTLIST warning
    context CDATA      #IMPLIED
    line CDATA         #IMPLIED
    type CDATA         #IMPLIED
>
<!ELEMENT error (#PCDATA)>
<!ATTLIST error
    context CDATA      #IMPLIED
    line CDATA         #IMPLIED
    type CDATA         #IMPLIED
>
<!ELEMENT fatal (#PCDATA)>
<!ATTLIST fatal
    context CDATA      #IMPLIED
    line CDATA         #IMPLIED
    type CDATA         #IMPLIED
>
<!ELEMENT validate-summary EMPTY>
<!ATTLIST validate-summary
    warning NMTOKEN #REQUIRED
    error NMTOKEN #REQUIRED
    fatal CDATA #REQUIRED
>
<!ELEMENT record-summary EMPTY>
<!ATTLIST record-summary
    accepted NMTOKEN #REQUIRED
    ignored NMTOKEN #REQUIRED
    import-type CDATA #REQUIRED
    rejected NMTOKEN #REQUIRED
>
<!ELEMENT end-import (#PCDATA)>
<!ATTLIST end-import
    fatal NMTOKEN #REQUIRED
    timestamp CDATA #REQUIRED
>]>
<import-log>
<begin-import timestamp="27/04/2007 07:45:49 AM BST">検証を開始します。
</begin-import>
<note line="6">\プロパティ &apos;タイトル・ブロック.番号&apos; の値\は大文字小文字
検証の間に変更されました; 値 &apos;a2&apos; は &apos;A2&apos; になりました。
</note>
<note line="6">\プロパティ &apos;BOM.アイテム番号&apos; の値\は大文字小文字検証の
間に変更されました; 値 &apos;a2&apos; は &apos;A2&apos; になりました。</note>
<error type="com.agile.imp.pc.adapter.ImportProductContentAPIException"
line="7" context="Part - Number: A2; BOM: Item Number: A21">アイテム
&apos;A2&apos; のBOMまたはAML、あるいはその両方を処理できませんでした。BOM、AML、
添付ファイルは却下されます:

```

```

参照指示/数量の不一致: 参照指示の数は10で数量は5です。</error>
<error type="com.agile.imp.pc.adapter.ImportProductContentAPIException"
line="5" context="Part - Number: A12; BOM: Item Number: A123">アイテム
&apos;A12&apos; のBOMまたはAML、あるいはその両方を処理できませんでした。BOM、AML、
添付ファイルは却下されます:
参照指示/数量の不一致: 参照指示の数は8で数量は5です。</error>
<error type="com.agile.imp.pc.adapter.ImportProductContentAPIException"
line="4" context="Part - Number: A1; BOM: Item Number: A12">アイテム
&apos;A1&apos; のBOMまたはAML、あるいはその両方を処理できませんでした。BOM、AML、
添付ファイルは却下されます:
参照指示/数量の不一致: 参照指示の数は7で数量は3です。</error>
<error type="com.agile.imp.pc.adapter.ImportProductContentAPIException"
line="3" context="Part - Number: A0; BOM: Item Number: A1">アイテム
&apos;A0&apos; のBOMまたはAML、あるいはその両方を処理できませんでした。BOM、AML、
添付ファイルは却下されます:
参照指示/数量の不一致: 参照指示の数は6で数量は2です。</error>
<validate-summary warning="0" error="4" fatal="0"/>
<end-import timestamp="27/04/2007 07:45:50 AM BST" fatal="false">検証が完了
しました。</end-import>
</import-log>

```

## データ検証の手順と例

インポート・ウィザードを起動すると、「インポート・ソース」ページにインポート・ウィザードが開きます。ソース・データを検証するには、「プリファレンス」ダイアログを使用してオプション・グループを選択する必要があります。次の手順と例で、「プリファレンス」ダイアログ、およびソース aXML ファイルの検証方法について説明します。

### 各グループのパラメータおよび設定を表示するには

1. Agile PLM で、「ツール」>「インポート」の順に選択します。「インポート・ソース」ページにインポート・ウィザードが開きます。
2. 「プリファレンス」をクリックします。「パースと検証オプション」グループに「プリファレンスの設定を指定」ダイアログが開き、このグループに設定できるデータ要素が表示されます。
3. ドロップダウン・リストを使用して、「ビジネス・ルール・オプション」、「デフォルト・タイプ」および「自動採番ソース」に対するデータ要素を表示し、設定できます。

### データ検証の例

次の手順は、ソース aXML ファイルが BOM および AML の要件に準拠しているかどうかを検証する例です。この手順は、47 ページの「[選択的削除オプションを設定する](#)」および 43 ページの「[存在しないオブジェクトを検証後に選択的に受諾または却下する](#)」に記載されている手順と類似しています。

### ソースaXMLデータ・ファイルを検証するには

1. Agile PLM で、「ツールおよび設定」>「インポート」の順に選択します。「インポート・ソース」ページにインポート・ウィザードが開きます。
2. 「参照」を使用してインポート・ソースを選択し、「ファイル・タイプ」に「Agile XML (aXML) パッケージ」を選択します。
3. 「プリファレンス」をクリックし、「ビジネス・ルール・オプション」を選択します。選択可能な他のオプションは、「パースと検証オプション」、「デフォルト・タイプ」、および「自動採番ソース」です。
4. 「ビジネス・ルール・オプション」ページで、「変更モード」を「新規作成」に設定します（レッドライン・モードにも適用可能です）。
5. 「次へ」をクリックします。「インポートするコンテンツを選択」ページが開きます。
6. 「アイテム」>「部品構成表 (BOM)」>「承認済製造元リスト (AML)」の順に選択します。
7. 「次へ」をクリックします。「変更指示とマッピングの選択」ページが開きます。
8. 「検証」をクリックします。検証結果が画面に表示されます。

# 製品コンテンツをインポートする

## この章のトピック

- インポートする製品コンテンツのオブジェクトを選択する ..... 65
- アイテムをインポートする ..... 66
- 部品構成表（BOM）をインポートする ..... 68
- 製造元と製造元部品をインポートする ..... 69
- アイテム番号と見出し番号が重複したBOMをインポートする ..... 69
- 承認済製造元リストをインポートする ..... 69

## インポートする製品コンテンツのオブジェクトを選択する

Excel ファイルおよび区切り文字テキスト・ファイルの場合、インポートする際に選択できるオブジェクト・タイプは1つのみです。ソース形式が aXML または PDX パッケージの場合は、インポートの対象として複数のオブジェクト・タイプを選択できます。

次の表に、インポートできるオブジェクトのタイプを示します。

オブジェクト	説明
製造元	組織と提携する製造元。
製造元部品	組織で使用する製造元部品。製造元部品は、社内の部品番号ではなく、製造元部品番号で識別されます。
アイテム	固有の部品、マテリアル、サブアセンブリ、または製品。Agile では、デフォルトで2つのアイテム・クラス（部品とドキュメント）があります。
部品構成表（BOM）	親アセンブリを構成するすべてのサブアセンブリ、部品、および原材料のリスト。この表には、アセンブリを製造するために必要な各部品の数量が示されます。
承認済製造元リスト（AML）	特定のアイテムの供給についてその供給を承認された製造元のリスト。このリストで、そのアイテムの製造元部品を特定できます。
見積履歴および見積履歴ライン	以前のプロジェクトまたはレガシーデータからの価格見積。
公表価格と価格ライン	現在のアイテムおよび製造元部品に関する公表価格または契約価格。
製品サービス依頼（PSR）	製品の問題レポートおよび不具合レポートの発行で使用するルーティング可能なオブジェクト。
品質変更要求（QCR）	製品品質を向上させるための変更および適合要求事項を解決するレポートの生成で使用するルーティング可能なオブジェクト。
顧客	組織の製品についてフィードバックを提供する顧客。品質の問題または検出した問題を警告します。
添付ファイル	オブジェクトに添付されているファイル。

オブジェクト	説明
サブスタンス	アイテム、製造元部品、部品グループの組成において使用される要素または複合物。
デクラレーション	デクラレーションは、部品（アイテム、製造元部品、部品グループ）の環境への適合性に関する情報を提示するためのルーティング可能なオブジェクト。
含有基準	禁止されているサブスタンス（または関連のサブスタンス）およびそのしきい値のリスト。
部品グループ	類似アイテムまたは製造元部品のグループ。PG&Cについては、同じ化学成分を持つアイテムと製造元部品は類似しているため、適合要求も同様となります。PCMについては、同じ部品分類クラスに属するアイテムと製造元部品は類似しています。
アイテム、製造元、製造元部品、部品グループの関係	関係データをソースから既存の関係データに置換します。
ルート・プロジェクト	ルート・プロジェクトの P1、P2、P3、アクション・アイテム、およびディスカッションを更新します。
ユーザー	バイヤー/サプライヤ・ユーザーを作成し、ユーザー・プリファレンスおよびユーザー・グループ情報を更新します。
ユーザー・グループ	ユーザー・グループを作成し、ユーザー・グループおよびユーザー情報を更新します。

サプライヤのデータ、通貨換算テーブル、ルート・プロジェクト、ユーザー、およびユーザー・グループのインポートの詳細は、87ページの「[サプライヤおよびシステム・データをインポートする](#)」を参照してください。プロジェクトのアイテム、プロジェクトBOM、およびプロジェクトAMLは、ソーシング・プロジェクト内からインポートすることもできます。詳細は、97ページの「[ソーシング・プロジェクトへデータをインポートする](#)」を参照してください。

## アイテムをインポートする

アイテムとは、固有の製造部品または購入部品、マテリアル、サブアセンブリ、または製品を指します。アイテムにはBOMおよびAMLを含めることができます。BOMはその他のアイテムまたはサブアセンブリとの関係を定義し、AMLはアイテムに対する承認済の製造元と各製造元の製造部品を定義します。組成、サブスタンス構成表、および部品ファミリは、Agile PLMのProduct Governance & Complianceソリューションに属しています。これらのアイテムの詳細は、『Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。

アイテム・マスター内のアイテムは、自社向けの承認済の製品コンテンツを示しています。アイテムは製品のライフサイクル中に何回も変更されることがあるため、複数のリビジョンを持つことができます。アイテム・マスターには、アイテムのリビジョン履歴が保存されます。プロジェクト内に含まれているアイテムには、複数のリビジョンはありません。これらは一時データとして、見積依頼を生成するために使用されます。

アイテムをインポートするには、「タイトル・ブロック」>「番号」フィールドにマップします。特定のリビジョンを指定するには、「タイトル・ブロック」>「リビジョン」フィールドもマップします。アイテムは、アイテム・マスターまたはソーシング・プロジェクトにインポートできます。

## 存在するBOMコンポーネント、および存在しないBOMコンポーネントをインポートする

BOMをインポートすると、インポート・ウィザードによって、Agile PLMシステムに存在しないアイテムが自動的に作成されます。BOMコンポーネントのクラス・タイプは、Agileのbom.itemタイプフィールドを使用して指定することもできます。bom.itemタイプを使用してBOMコンポーネントのクラス・タイプを指定しない場合、インポート・ウィザードでは、デフォルトのアイテム・タイプが割り当てられ、次の警告メッセージがBOMコンポーネントの自動作成時に生成されます。



アイテム/製造元部品 "\*\*\*\*" は、必須フィールドの指定なしで BOM/AML テーブルのインポート中に自動作成されました。

BOM アイテムが Agile PLM システムに存在している場合、そのアイテムは、インポート・ウィザードによって最新のリリースに関連付けられます。

次の 2 つの状況では、インポート・ウィザードで BOM の子アイテムを自動的に作成する処理が失敗します。

- 親アイテムの必須フィールド（「カバー・ページ」>「番号」など）の内容が無効な場合
- BOM をプロジェクトにインポートした後に BOM がロールバックされた場合

## 見出し番号をインポートする

「BOM」>「見出し番号」フィールドがマップされていない場合、そのフィールドのデフォルト値は 0 です。

## 一部のBOMをインポートする

既存の BOM コンポーネントを削除しないで BOM を更新するには、「**複数行更新モード**」プリファレンスを「追加/更新のみ」に設定します。インポート・ウィザードで新しい BOM コンポーネントがインポートされ、既存のコンポーネントが更新されます。詳細は、44 ページの「[ビジネス・ルール・オプションを設定する](#)」を参照してください。

## インポート中のアイテムの説明動作

インポート中、インポートされたアイテムの説明は、レッドライン・モードと新規作成モードによって異なります。また、この動作は Agile PLM リリース 9.2.2 と Agile PLM リリース 9.3 でも異なります。

### リリース 9.2.2 の動作

レッドライン・モードまたは新規作成モードにおいて、インポートされたアイテムの説明動作は、リリース済バージョンが当該アイテムに関連付けられているかどうかに応じて異なります。

#### レッドライン・モード

このモードの Agile PLM では、リリース済バージョンがインポートされたアイテムに関連付けられているかどうかにかかわらず、保留中バージョンの説明の更新のみが行われます。

#### 新規作成モード

このモードでは、リリース済バージョンがインポートされたアイテムに関連付けられているかどうかに応じて動作が異なります。

- Agile PLM では、リリース済バージョンが当該アイテムに関連付けられていない場合、**初版**バージョンおよびすべての保留中バージョンの説明が常に更新されます。この動作は、当該アイテムがインポート前から存在していたかどうかにかかわらず行われます。
- Agile PLM では、リリース済バージョンが当該アイテムに関連付けられている場合、インポートされたアイテムの最新のリリース済バージョンおよびすべての保留中バージョンの説明が常に更新されます。ただし、リリース済バージョンを除き、初版バージョンや後続バージョンなど、その他すべてのバージョンは、読取り専用のコピーです。

## リリース 9.3 の動作

リリース 9.3 では、前述したリリース 9.2.2 の動作に加えて、レッドライン・モードまたは新規作成モードで新規作成されたアイテムをインポートする場合、Agile PLM ではインポートされたアイテムの説明が初版リビジョンに設定されます。

---

**注意** アイテムの説明を更新する場合は、すべてのユーザー権限が検証されていることを確認してください。

---

## 部品構成表（BOM）をインポートする

BOM には、親アセンブリを構成するすべてのサブアセンブリ、部品、および原材料が示されています。この表には、アセンブリを製造するために必要な各部品の数量が示されます。

BOMは、アイテム・マスターまたはソーシング・プロジェクトにインポートできます。テキスト・ファイルまたはMicrosoft ExcelファイルからBOMをインポートする場合は、親アイテムのすべてのBOMコンポーネントが連続行にグループ化されていることを確認してください。詳細は、25ページの「[BOMコンポーネントを並び替える](#)」を参照してください。

---

**注意** BOM をインポートする場合、ソース・データに定義されており Agile PLM システムに存在しないアイテムは、インポート・ウィザードで自動的に作成されます。

---

### テキスト・ファイルまたはExcelスプレッドシートからBOMをインポートするには

- インポート・ウィザードを開始します。
  - 「ツール」>「インポート」の順にクリックします。
- インポートのプリファレンスを設定します。
  - インポート・ウィザードの左下端の「プリファレンス」ボタンをクリックします。「プリファレンスの設定を指定」ウィンドウが表示されます。
  - 「プリファレンス」リストから、「ビジネス・ルール・オプション」を選択します。これらのオプションの詳細は、44ページの「[ビジネス・ルール・オプションを設定する](#)」を参照してください。
  - 「変更モード」については、レッドライン（デフォルト）または新規作成を選択してください。「レッドライン」を選択した場合、インポート・ウィザードはインポート・セッションの結果変更されたBOMフィールドをレッドラインします。レッドラインの詳細は、76ページの「[レッドラインまたは新規作成モードを使用する](#)」を参照してください。
  - 「レッドライン・モード動作」では、すべてのアイテム、新規アイテム、またはレッドラインされた新規アイテムおよび既存のアイテムのうち、どのアイテムを指定された変更指示に追加するか選択します。
  - 「複数行更新モード」については「すべて置換」または「追加/更新のみ」を選択します。一部の BOM を含み、全体の BOM 構造を含まないデータをインポートする場合は、「追加/更新のみ」または「選択的削除」を選択します。
  - 「OK」をクリックしてインポート・プリファレンスをこのセッションに保存します。
- インポート・ソース・ファイルを選択します。
  - インポート・ソース・ファイルを指定するか、「参照」をクリックしてファイルを選択します。
  - 「次」をクリックして次のウィザードの手順に進みます。
- BOM タイプを選択します。
  - 「アイテム」を選択し、次に「部品構成表」を選択します。
  - 「次へ」をクリックします。

5. マッピング・ファイルを選択します。
  - a. 「保存されたマッピング・ファイルを使用」または「次のステップで属性マッピングを定義」を選択します。
    - 「保存されたマッピング・ファイルを使用」を選択した場合は、「参照」をクリックしてファイルを選択します。
    - 「次のステップで属性マッピングを定義」を選択した場合は、次のステップで新規マッピングを定義できます。
  - b. 変換定義ファイル（オプション）を指定し、「次」をクリックします。
6. インポート設定を確認し、「インポート」をクリックしてインポートを開始します。

## 製造元と製造元部品をインポートする

Agile PLM システムではそれぞれの製造元名は固有のものです。これは、アイテム番号がアイテムに対して固有である必要があるのと同じです。

複数の製造元で同じ製造元部品番号は使用できますが、製造元と製造元部品番号の組み合わせは 1 つの製造元部品に対して一意にする必要があります。

製造元と製造元部品をアイテム・マスターにはインポートできますが、プロジェクトにはインポートできません。

**注意** 推奨される手順に従い、まず製造元をインポートし、次に製造元部品をインポートします。Agile PLM では、存在しない製造元に対して製造元部品はインポートできません。

## アイテム番号と見出し番号が重複したBOMをインポートする

アイテム番号と見出し番号が重複した行がインポートで検出された場合は、アイテム番号と見出し番号が同じ場合でも別の BOM コンポーネントとして処理されます。インポートでは、アイテム番号と見出し番号の重複による BOM コンポーネントの重複を許可するか却下するかを指定するスマート・ルールの設定に基づいて、コンテンツを受け入れるか却下します。システム内に同じアイテム番号と見出し番号がすでに存在している場合は、ソース・ファイルから最後の BOM コンポーネント（アイテム番号と見出し番号は同じ）が選択されて、更新されます。

## 承認済製造元リストをインポートする

承認済製造元リスト（AML）は、特定のアイテムの供給について承認された製造元のリストです。このリストで、そのアイテムの製造元部品を特定できます。

承認済製造元リストは、アイテム・マスターまたはプロジェクトにインポートできます。AML をインポートしても、インポート・ウィザードでは製造元は自動的に作成されません。ただし、AML に記載される製造元部品は自動的に作成されます。AML コンポーネントのクラス・タイプは、**aml.manufacturer** タイプ フィールドを使用して指定することもできます。このフィールドを使用して AML コンポーネントのクラス・タイプを指定しない場合、インポートでは、デフォルトの製造元タイプが割り当てられます。AML コンポーネントが自動的に作成されると、次の警告メッセージが生成されます。

アイテム/製造元部品 "\*\*\*\*\*" は、必須フィールドの指定なしで BOM/AML テーブルのインポート中に自動作成されました。

**注意** AMLをアイテム・マスターにインポートする場合、AMLに定義されている製造元はすでに Agile PLM システムに存在している必要があります。存在していない場合、AML は却下されます。

## 子製造元部品の自動作成

AML をインポートする場合には、AML に定義されている製造元部品が Agile PLM システムに存在しているかどうかインポート・ウィザードでチェックされます。存在していない場合は、インポート・ウィザードによって自動的に作成されます。次のいずれかの状況の場合は、インポート・ウィザードで製造元部品を自動的に作成する処理が失敗します。

- 親アイテムの必須フィールド（「カバー・ページ」>「番号」など）に無効なデータが含まれている場合
- AML をプロジェクトにインポートした後に AML がロールバックされた場合

## 一部のAMLをインポートする

既存のAML行を削除しないでAMLを更新するには、「複数行更新モード」プリファレンスを「追加/更新のみ」に設定します。インポート・ウィザードで新しいAML行がインポートされ、既存の行が更新されます。詳細は、44ページの「[ビジネス・ルール・オプションを設定する](#)」を参照してください。

## 見積履歴、公表価格、および公表価格ラインをインポートする

価格オブジェクトを使用して、サプライヤ、顧客、およびプロジェクトに関する部品の価格条件を管理します。それぞれの価格オブジェクトには1つの公表価格ライン・テーブルがあり、ここでは出荷場所、有効期間、数量に関連付けられた条件、および価格が保存されます。

インポート可能な価格オブジェクトには、「見積履歴」と「公表価格」の2つのクラスがあります。価格オブジェクトのいずれのタイプをインポートする場合でも、手順上の違いはありません。ただし、区切り文字テキスト・ファイルまたは Microsoft Excel ファイルからデータをインポートする場合は、見積履歴と公表価格を別のインポート操作でインポートする必要があります。また、それぞれのオブジェクトは別のマッピング・ファイルで管理する必要があります。

**注意** 公表価格ライン・データをインポートする場合には、ソース・データは親の価格フィールドと同じ一貫性のあるセットを各行に対して用意する必要があります。たとえば、データで「一般情報」>「番号」フィールドを使用して親の価格オブジェクトを特定する場合は、ソース・データのすべての行に、そのフィールドの値を含む必要があります。このようにしないと、インポート・セッションは正常に行われません。

## 主な価格フィールド

価格オブジェクトは、オブジェクトに定義されている必須フィールドおよびオプション・フィールド数によって、様々な方法で定義できます。価格は、アイテムまたは製造元部品のいずれかに関連付けられます。ソース・データには、少なくとも次のキー・フィールドのいずれかのセットが含まれるようにします。

セット 1	セット 2	セット 3
一般情報 > 製造元部品番号 一般情報 > 製造元名	一般情報 > アイテム番号 一般情報 > アイテム リビジョン 1	一般情報 > アイテム番号 一般情報 > サプライヤ

セット 1	セット 2	セット 3
一般情報 > サプライヤ	一般情報 > サプライヤ	

**注意** 前述のセット 2 の「アイテム・リビジョン」フィールドが必要になるのは、リリース済または保留中リビジョンのアイテムの場合のみです。

「一般情報」>「サプライヤ」フィールドは、2 種類のソース値 — サプライヤ番号または「supplierName」 - 「supplierNumber」をサポートしています。いずれの場合でも、値は大文字と小文字を区別します。サプライヤ値に「supplierName」 - 「supplierNumber」の形式を使用する場合は、スペースとハイフンが必要です。

データには、「製造拠点」、「プログラム」、「顧客」など、その他のオプションのフィールドを含めることも可能です。「顧客」フィールドの値は、顧客番号ではなく顧客名を定義します。顧客名は大文字と小文字を区別します。誤った文字を含む顧客名を受けると、インポート・ウィザードは価格記録を却下します。ソース・データに「プログラム」および「顧客」が含まれていない場合、インポート・ウィザードでは、これらのフィールドの値を「すべて」とみなします。

「一般情報」>「数量割引可」フィールドは、いくつかの数量をまとめることによって価格の割引が可能になるかどうかを決定します。「数量割引可」フィールドがマップされていない場合、インポート・ウィザードでは、「価格数量割引のデフォルト」プリファレンスを使用して、どの値を使用するかが判断されます。詳細は、41 ページの「[インポート・プリファレンスを設定する](#)」を参照してください。価格オブジェクトを作成した後は、そのオブジェクトの「数量割引可」フィールドの値を変更できません。

オプションで、ソース・データに「一般情報」>「番号」フィールドを含めることも可能です。既存の価格オブジェクトにデータをインポートする場合は、「一般情報」>「番号」フィールドおよび他の必須フィールドすべてを、ターゲット・システムと正確に一致させておく必要があります。これらのものが一致していない場合は、インポート・ウィザードでオブジェクトが却下されます。価格番号を指定しない場合、インポート・ウィザードでは、他のキー・フィールドを使用して価格オブジェクトが検索されます。指定したキー・フィールドを持つ価格オブジェクトがシステム内に存在していない場合、インポート・ウィザードでは、オブジェクトが作成され、価格クラスの自動採番シーケンスに基づいて、そのオブジェクトに番号が割り当てられます。

**注意** 親の価格オブジェクトに保留中の変更指示が含まれている場合は、レッドライン・モードの公表価格ラインはインポートできません。

## 主な価格ライン・フィールド

「価格ライン」のソース・データには、少なくとも「一般情報」>「価格番号」が含まれているか、価格オブジェクトを特定する最低限のフィールド（前述の「主な価格フィールド」を参照）と次の主要な価格ライン・フィールドが含まれている必要があります。

- 「価格ライン」>「価格有効開始日」
- 「価格ライン」>「出荷先」

また、価格オブジェクトに対して「数量割引可」フィールドを「はい」に設定してから、必須フィールドの「価格ライン」>「数量」をマップします。

価格ライン・テーブルのすべてのリスト・フィールド（「出荷元」、「出荷先」、「通貨」、「原産国」、「輸送条件」など）には、正しい値を設定する必要があります。「出荷先」については、ユーザー・プロファイルの「認定出荷先」リストに定義されている値のみがサポートされます。「輸送条件」では、FOB などの 3 文字

の略語を入力するか、または「FOB - 本船渡し」のように完全な説明を入力します。「輸送条件」で使用できる値は次のとおりです。

値	完全な説明
CFR	CFR - コスト、運送料
CIF	CIF - コスト、保険料、運送料
CIP	CIP - 運送料、保険料支払先
CPT	CPT - 運送料支払先
DAF	DAF - 国境渡し条件
DDP	DDP - 引渡関税支払済
DDU	DDU - 引渡関税未払
DEQ	DEQ - 埠頭持込渡し（関税支払済）
DES	DES - 本船持込渡し
EXW	EXW - 工場渡し
FAS	FAS - 船側渡し
FCA	FCA - 運送人渡し
FOB	FOB - 本船渡し

## 一部の価格ラインをインポートする

既存の行を削除しないで公表価格ライン・テーブルを更新するには、「**複数行更新モード**」プリファレンスを「**追加/更新のみ**」に設定します。インポート・ウィザードは新しいデータをインポートして既存の行を更新します。詳細は、44ページの「[ビジネス・ルール・オプションを設定する](#)」を参照してください。

**注意** 「すべて置換」を選択した場合、インポート・ウィザードにより、既存の価格データが、インポートされたソース・ファイルのデータで置換されます。

## 顧客および製品サービス依頼をインポートする

Agile PLM システムに Product Quality Management ライセンスが含まれている場合は、システムを使用して顧客で発生する品質問題を管理できます。顧客は、問題レポートまたは不具合レポートを提出し、品質の問題について警告できます。問題レポートおよび不具合レポートは、製品サービス依頼の2つのタイプです。

### 顧客をインポートする

顧客データは、CRM (Customer Relationship Management) システムで作成できます。CRM システムが Agile PLM システムに統合されていない場合は、インポート・ウィザードを使用して顧客および製品サービス依頼をインポートします。

顧客のデフォルトのサブクラスとして、顧客クラスのみ使用できます。他の顧客サブクラスを定義することも可能です。

顧客をインポートするには、「顧客」>「一般情報」>「顧客名」フィールドは必須です。他のフィールドはすべてオプションです。

「顧客」>「一般情報」>「顧客番号」フィールドはキー・フィールドですが、このフィールドはマップする必要はありません。「顧客番号」フィールドがマップされていない場合は、インポート・ウィザードは自動採番プリファレンスを使用して、新しい顧客に番号を割り当てます。詳細は、57ページの[「デフォルトの自動採番ソースを設定する」](#)を参照してください。

## 製品サービス依頼をインポートする

顧客と同様に、製品サービス依頼（PSR）は PLM システムと統合されている CRM システムで作成できます。これらの 2 つのシステムが統合されていない場合は、PSR のデータを PLM システムにインポートできます。

### PSRオブジェクトをインポートする

インポート・ソリューションでは、PSR オブジェクトのインポートと検証がサポートされています。サポートされているファイル形式は、aXML、Excel、および区切り文字テキスト・ファイルです。また、サポートされているテーブルとコンポーネントには、「カバー・ページ (P. 1)」、「ページ 2」、「ページ 3」、「関連 PSR」、「対象アイテム」、「関係」、および「添付ファイル」が含まれます。

#### PSRオブジェクトをインポートするには

1. 「ツール」>「インポート」の順にクリックします。  
インポート・ウィザードのダイアログが表示されます。
2. インポート・ウィザードのダイアログで、PSR データ（aXML、区切り文字テキスト・ファイル、Excel）を持つソース・ファイルを選択します。
3. 「次へ」をクリックします。「ファイル・コンテンツの指定」ダイアログが表示されます。
4. 「ファイル・コンテンツの指定」で「製品サービス依頼(PSR)」を展開し、適用可能なオプション（「製品サービス依頼(PSR)」のみ、「対象アイテム」、「関連 PSR」、または「関係」）を選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「コンテンツ・オプションの選択」ダイアログが表示されます。
6. 「データ・マッピング」で該当するオプションを選択します（必要に応じて、「データ変換」オプションを選択することもできます）。
7. 「次へ」をクリックします。「属性マッピングの指定」ダイアログ（ステップ 4）が表示されます。
8. 属性をマップします。  
インポートするオブジェクトは、ここで検証するか、またはウィザードの残りのステップで検証できます。「検証」を選択した場合は、検証結果の要約が表示されます。ここで、ログ・ファイルを保存し、「インポート」をクリックしてコンテンツをインポートして、残りのステップを飛ばすことができます。また、「別のファイルのインポート」ボタンをクリックして、プロセスを繰り返すこともできます。
9. 「インポート」をクリックしてプロセスを完了します。

## PSRのみをインポートする

PSR のみをインポートする場合は、次のフィールドが必須になります。

- 「問題レポート」>「カバー・ページ」>「番号」
- 「不具合レポート」>「カバー・ページ」>「番号」

一度に PSR の 1 つのクラスのみをインポートする場合は、問題レポートおよび不具合レポートの両方に対してフィールドをマップする必要はありません。ソース・データに問題レポートと不具合レポートの両方が含まれている場合は、これらの 2 つのクラスに対してフィールドをマップする必要があります。

他のマッピング可能な「カバー・ページ」PSR フィールドには、「PSR タイプ」、「説明」、「顧客」、「サプライヤ」、「重大度」、「対応策」、「解決予定日」があります。「顧客」フィールドの値は、顧客番号ではなく顧客名を定義します。顧客名は大文字と小文字を区別します。

---

**注意** インポート可能なすべての PSR フィールドは、SDK および AIS でサポートされています。

---

## PSRの対象アイテムをインポートする

PSR の対象アイテム・テーブルにアイテムをインポートできます。PSR の対象アイテムをインポートする場合は次のフィールドが必須になります。

- 「問題レポート」>「対象アイテム」>「アイテム番号」
- 「問題レポート」>「対象アイテム」>「見つかったリビジョン」
- 「不具合レポート」>「対象アイテム」>「アイテム番号」
- 「不具合レポート」>「対象アイテム」>「見つかったリビジョン」

---

**注意** システムでは、重複した対象アイテムの PSR へのインポートがサポートされます。

---

PSR の対象アイテムは、初版も含めて任意のリビジョン・ステータスにすることが可能です。対象アイテムをインポートしようとして、そのアイテムが存在していない場合、インポート・ウィザードでは、該当する行が却下されます。

## 関連PSRをインポートする

PSR を PSR の関連 PSR テーブルにインポートできます。関連 PSR をインポートする場合は、次のフィールドが必須になります。

- 「問題レポート」>「関連 PSR」>「PSR 番号」
- 「不具合レポート」>「関連 PSR」>「PSR 番号」

存在していない PSR をインポートしようすると、インポート・ウィザードでは、該当する行が却下されます。

## PSR関係テーブルをインポートする

オブジェクトを PSR の関係テーブルにインポートできます。PSR 関係をインポートする場合は、次のフィールドが必須になります。

- 「問題レポート」>「関係」>「番号」
- 「問題レポート」>「関係」>「タイプ」



- 「不具合レポート」>「関係」>「番号」
- 「不具合レポート」>「関係」>「タイプ」

存在していないオブジェクトをインポートしようとする、インポート・ウィザードでは、該当する行が却下されます。

### PSR添付ファイルをインポートする

PSR 添付ファイルをインポートできます。PSR 添付ファイルをインポートする場合は、次のフィールドが必須になります。

- 「問題レポート」>「添付ファイル」>「ファイル ID」
- 「問題レポート」>「添付ファイル」>「ファイル名」
- 「不具合レポート」>「添付ファイル」>「ファイル ID」
- 「不具合レポート」>「添付ファイル」>「ファイル名」

### 品質変更要求をインポートする

PSR と同様に、品質変更要求（QCR）は PLM システムと統合されている CRM システムで作成できます。これらの 2 つのシステムが統合されていない場合は、QCR のデータを PLM システムにインポートできます。

### QCRオブジェクトをインポートする

インポート・ソリューションでは、QCR オブジェクトのインポートと検証がサポートされています。サポートされているファイル形式は、aXML、Excel、および区切り文字テキスト・ファイルです。また、サポートされているテーブルとコンポーネントには、「カバー・ページ (P. 1)」、「ページ 2」、「ページ 3」、「対象アイテム」、「関係」、および「添付ファイル」が含まれます。

### QCRオブジェクトをインポートするには

1. 「ツール」>「インポート」の順にクリックします。  
インポート・ウィザードのダイアログが表示されます。
2. インポート・ウィザードのダイアログで、QCR データ（aXML、区切り文字テキスト・ファイル、Excel）を持つソース・ファイルを選択します。
3. 「次へ」をクリックします。「ファイル・コンテンツの指定」ダイアログが表示されます。
4. 「ファイル・コンテンツの指定」で「品質変更要求」を展開し、適用可能なオプション（「品質変更要求のみ」、「対象アイテム」または「関係」）を選択します。
5. 「次へ」をクリックします。「コンテンツ・オプションの選択」ダイアログが表示されます。
6. 「データ・マッピング」に適用可能なオプションを選択します（必要に応じて、「データ変換」オプションを選択することもできます）。
7. 「次へ」をクリックします。「属性マッピングの指定」ダイアログが表示されます。
8. 属性をマップします。  
インポートするオブジェクトは、ここで検証するか、またはウィザードの残りのステップで検証できます。「検証」を選択した場合は、検証結果の要約が表示されます。ここで、ログ・ファイルを保存し、「インポート」をクリックしてコンテンツをインポートして、残りのステップを飛ばすことができます。また、「別のファイルのインポート」ボタンをクリックして、プロセスを繰り返すこともできます。
9. 「インポート」をクリックしてプロセスを完了します。

## QCRの対象アイテムをインポートする

QCR の対象アイテム・テーブルにアイテムをインポートできます。QCR の対象アイテムをインポートする場合は、次のフィールドが必須になります。

- 「検証」 > 「対象アイテム」 > 「アイテム番号」
- 「是正予防処置」 > 「対象アイテム」 > 「アイテム番号」

**注意** システムでは、重複した対象アイテムの QCR へのインポートがサポートされません。

QCR の対象アイテムは、初版も含めて任意のリビジョン・ステータスにすることが可能です。対象アイテムをインポートしようとして、そのアイテムが存在していない場合、インポート・ウィザードでは、該当する行が却下されます。

## QCR添付ファイルをインポートする

QCR 添付ファイルをインポートできます。QCR 添付ファイルをインポートする場合は、次のフィールドが必須になります。

- 「検証」 > 「添付ファイル」 > 「ファイル ID」
- 「検証」 > 「添付ファイル」 > 「ファイル名」
- 「是正予防処置」 > 「添付ファイル」 > 「ファイル ID」
- 「是正予防処置」 > 「添付ファイル」 > 「ファイル名」

## QCR関係テーブルをインポートする

QCR の対象アイテム・テーブルにオブジェクトをインポートできます。QCR 関係テーブルをインポートする場合は、次のフィールドが必須になります。

- 「検証」 > 「関係」 > 「番号」
- 「検証」 > 「関係」 > 「タイプ」
- 「是正予防処置」 > 「関係」 > 「番号」
- 「是正予防処置」 > 「関係」 > 「タイプ」

存在していないオブジェクトをインポートしようとすると、インポート・ウィザードでは、該当する行が却下されます。

## レッドラインまたは新規作成モードを使用する

レッドライン・モード（デフォルト設定）でインポート・ウィザードを使用する場合は、アイテム、BOM、AML、および価格をインポートするための変更指示を指定します。レッドライン・モードでは、名前のおとり、変更されたすべてのフィールドが赤色でハイライトされます。レッドライン・モードでインポートされたすべてのアイテムと価格は、指定された変更指示の「対象アイテム」タブと「対象価格」タブに定義されます。

リリース済のアイテムおよび価格に対して、インポート・ウィザードは、最新のリリースされたリビジョンで行われた変更に基づいて、データをレッドラインします。価格オブジェクトに保留中のリビジョンが含まれている場合は、インポート・ウィザードで、価格について公表価格ライン・テーブルはレッドラインできません。

レッドライン・モードでアイテムをインポートする場合、すべてのアイテムは無条件で選択された変更指示の「対象アイテム」タブに追加されます。インポート・ウィザードでは、「対象アイテム」タブに追加するアイテムを自由には選択できません。

レッドライン・モードの BOM、製造元、または公表価格ライン・テーブルに対して変更する場合は、全体の行および一部の行をレッドラインにできます。ある行を追加または削除すると、行全体がレッドラインの追加または削除として処理されます。行内の特定のフィールドのみを修正し、キー・フィールドを更新しない場合は、インポート・ウィザードで、変更されたフィールドのみがレッドラインされます。たとえば、いくつかの BOM フィールドを修正し、「BOM」>「アイテム番号」フィールドを修正しない場合は、行が部分的にレッドラインされます。

親アイテムまたは価格がまだリリースされておらず、保留中の変更がない場合は、インポート・ウィザードを新規作成モードで使用すると、既存の BOM、AML、または公表価格ラインを更新できます。新規作成モードは、プレリナリ・アイテムまたは価格の BOM、AML、公表価格ラインのデータをインポートする場合に使用できます。アイテムまたは価格に保留中の変更が含まれている場合は、新規作成モードを使用して BOM、AML、または公表価格ライン・データを更新できません。

変更モードのプリファレンスをレッドライン・モードまたは新規作成モードに設定する方法の詳細は、44ページの「[ビジネス・ルール・オプションを設定する](#)」を参照してください。

## 変更指示を選択する

インポート・ウィザードの「変更指示とマッピング・ファイルを選択してください。」のステップで、変更指示をインポート・セッションに使用するよう指定できます。レッドライン・モードで、アイテム、BOM、AML、価格、および公表価格ライン・データをインポートするには変更指示が必要です。新規作成モードでは変更指示はオプションです。

「詳細」をクリックして変更指示を選択します。「インポート操作を行う変更を選択」ウィンドウが表示されます。この新しいウィンドウはウィザードの別のステップです。ここでは、現在のインポート・セッションに対して使用する変更指示を指定します。既存の変更指示を検索することも、新しい ECO、MCO、SCO、または PCO、あるいはユーザー定義の同様のサブクラスの変更指示も作成できます。

**注意** 既存の変更指示を検索する場合は、その変更指示がリリースされていない状態であることを確認してください。価格をレッドライン・モードでインポートする場合、価格オブジェクトに対して保留中の PCO があるかどうかを PLM システムで検索してください。価格に関連付けられている保留中の PCO があると、別の PCO に対して同じ価格オブジェクトは追加できません。

## BOM、AML、および公表価格ラインのロールバック

PLM システムにインポートされた BOM、AML、および公表価格ラインの整合性を保持するために、インポート・ウィザードでは、インポート・データの一部のみを新しいリビジョンにインポートすることを禁止しています。BOM、AML、または公表価格ラインの行が無効であるためにインポートできない場合は、リビジョンが却下され、インポート・ウィザードは、テーブル全体をインポート・セッション前の元の状態にロールバックします。

BOM、AML、および公表価格ラインのロールバック中は、指定された変更指示の「対象アイテム」または「対象価格」タブから親アイテムと価格が削除されません。また、「タイトル・ブロック」、「ページ 2」、または「ページ 3」のフィールドに対して行われた変更はロールバックの影響を受けません。

アイテムを新しいリビジョンにインポートしている間に、（データベース・エラーなどの）致命的なエラーが発生した場合は、インポート・ウィザードによってリビジョンがロールバックされます。ロールバックが行われても、インポート・プロセス中に自動的に作成された子アイテムは削除されずに、PLM システムに保持されます。

BOM、AML、または公表価格ライン・テーブルを最新リビジョンにインポートして、検証エラーが発生した場合は、置換側のテーブルは却下されます。

BOM、AML、または公表価格ラインを最新リビジョンにインポートしている間に致命的なエラーが発生した場合は、エラーが発生する前に受諾された置換側のテーブルはロールバックできません。この状況が生じた場合は、最新リビジョンに再度インポートしてください。

保留中の変更指示に既存のレッドラインがある場合、インポート・ウィザードはインポート・ファイルから新規レッドライン・データをインポートする前に、これらを消去します。レッドラインの消去と新規データのインポートは別々の操作です。レッドラインが消去された後、トランザクションが実行され、インポート・プロセスを開始します。このため、インポート操作がなんらかの理由で失敗した場合（たとえばアイテム番号の重複など）、テーブルはレッドライン状態前にロールバックされます。

次の表では、リリース済の BOM、AML、および公表価格ライン・テーブルに対してインポート・エラーがどのような影響を与えるかを示します。

リビジョン	エラー・タイプ	結果
新しいリビジョン - 新しいリビジョンを親アイテムまたは価格にインポートする	検証エラー	新しいリビジョンおよび関連する BOM、AML、または公表価格ライン・テーブルは却下される
	致命的なエラー	新しいリビジョンおよび関連する BOM、AML、または公表価格ライン・テーブルがロールバックされる
現在のリビジョン - 親アイテムまたは価格の現在のリビジョンに変更をインポートする	検証エラー	置換側の BOM、AML、または公表価格ライン・テーブルが却下される
	致命的なエラー	致命的なエラーが発生する前にインポートされた置換側のすべての BOM、AML、または公表価格ライン・テーブルはロールバックできない

**注意** インポート・ウィザードは、データにエラーがある場合のみ、BOM、AML、または公表価格ライン・データをロールバックします。警告またはエラーが関連オブジェクト（アイテム、製造元、製造元部品、価格などのフィールド）のみに関係している場合は、BOM、AML、または公表価格ラインはロールバックされません。

## 拠点別のBOMとAMLをインポートする

拠点別の BOM と AML は、サポートされているすべてのインポート・ファイル・フォーマットからインポートできます。ただし、拠点別のデータは適切にフォーマットし、フィールドを正しくマップする必要があります。特に、次のフィールドを含める必要があります。

- 親アイテムの「タイトル・ブロック」>「拠点」フィールド
- アイテム対応テーブルの「適合性」>「組成」>「BOS（サブスタンス構成表）」フィールド
- BOM の「BOM」>「拠点」フィールド
- AML の「製造元」>「拠点」フィールド

「タイトル・ブロック」>「拠点」フィールドは、アイテムの「拠点」タブの拠点のリストを表す仮想的なフィールドです。BOM または AML インポートするために「タイトル・ブロック」>「拠点」フィールドをマップする必要はありません。フィールドをマップしないと、インポート・ウィザードでは、「タイトル・ブロック」>「拠点」の値が、ソース・ファイルの「BOM」>「BOM 拠点」または「製造元」>「拠点」に対して指定された拠点名のリストであるとみなします。

**注意** インポート・ウィザードは、既存の親アイテムから拠点の関連付けを削除しません。つまり、「**タイトル・ブロック**」>「**拠点**」フィールドに拠点は追加できますが、インポート・ウィザードを使用して、アイテムの「**拠点**」タブから拠点は削除できません。

拠点別の BOM と AML をインポートすると、インポート・ウィザードでは、ソース・ファイルに指定されている拠点のデータのみがインポートされます。既存のアイテムに対して指定されている特定の拠点がソース・ファイルに含まれていない場合、インポート・ウィザードでは、拠点別の BOM または AML のセクションが更新されません。

**注意** サブスタンスは、aXML ファイルからのみ、デklarেশョン、製造元部品、およびアイテム用の BOS（サブスタンス構成表）テーブルにインポートできます。

次の図は、拠点別の情報を持つ BOM のインポート・ソース・ファイルを示しています。ここでは、アイテム拠点および BOM 拠点という 2 つのカラムに拠点の情報が定義されています。

	A	B	C	D	E
1	<b>Parent Item</b>	<b>Item Sites</b>	<b>BOM Item</b>	<b>Qty</b>	<b>BOM Site</b>
2	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	B0001	1	
3	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	B0002	1	
4	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	B0003	1	
5	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	B0004_Site	1	San Jose
6	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	B0005_Site	1	Bangalore

アイテム拠点の列は、マッピング・ウィンドウの「**タイトル・ブロック**」>「**拠点**」フィールドにマップされます。この中には、拠点のリストがカンマ区切りの形式で含まれており、親部品が関連付けられています。

BOM アイテム、数量、および BOM 拠点のカラムは、BOM コンポーネントに関連しています。BOM 拠点のカラムは、マッピング・ウィンドウの「**BOM**」>「**拠点**」フィールドにマップされます。これは、コンポーネントが適用される拠点を示します。このカラムの各行には 1 つの拠点のみが含まれています。「BOM 拠点」フィールドが空白の場合は、すべての拠点に対してコンポーネントが使用されます。

前述の図の B0001、B0002、および B0003 には、指定された BOM 拠点がありません。したがって、これらの BOM コンポーネントはすべての拠点で共通になります。B0004\_Site には、BOM 拠点として San Jose が定義されています。これは B0004\_Site が San Jose の拠点に固有の BOM の一部にのみ適用されることを意味しています。

次の図は、拠点別の情報を持つ AML のインポート・ソース・ファイルを示しています。ここでは、アイテム拠点と製造元拠点という 2 つのカラムに拠点の情報が定義されています。

	A	B	C	D	E
1	<b>Parent Item</b>	<b>Item Sites</b>	<b>Mfr Name</b>	<b>Mfr Part</b>	<b>Mfr Site</b>
2	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	MARTEX	MPD914T	
3	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	MOTOROLA	MPD914LT1	
4	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	PHILIPS/SIG	MPD914T/R	
5	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	ZETEX	MPD914TA	San Jose
6	P0001	San Jose, Bangalore, Taipei	PS DIODES	MP007W	Bangalore

前述の BOM インポート・ソース・ファイルと同様に、この場合のアイテム拠点の列もマッピング・ウィンドウの「**タイトル・ブロック**」>「**拠点**」フィールドにマップされます。

製造元名、製造元部品、製造元拠点のカラムは、承認済の製造元に関連付けられています。製造元拠点の列は、マッピング・ウィンドウの「**製造元**」>「**拠点**」フィールドにマップされます。これは、承認済の製造元が適用される拠点を示します。このカラムの各行には 1 つの拠点のみが含まれています。「製造元拠点」フィールドが空白の場合は、この承認済製造元がすべての拠点に対して使用されます。

この図では、ZETEX の製造元拠点として San Jose が定義されています。これは、この承認済製造元が、San Jose の拠点に固有の AML の一部にのみ適用されることを意味しています。

**注意** SCO を使用して拠点別の BOM と AML をレッドライン・モードでインポートする場合は、BOM/AML に対して 1 つの拠点のみ指定できます。複数の拠点を持つ BOM と AML は却下されます。

## Agile Product Governance & Compliance データをインポートする

Agile PG&C にはいくつかのデklarレーション・クラスがあります。インポート可能なテーブルには、デklarレーション・クラスとソース・ファイルのタイプに基づいたいくつかの制限があります。

### デklarレーション・タイプ、サポートされているテーブル、およびインポート可能なオブジェクト

下表は、インポート可能な PG&C に関するオブジェクトを示しています。これらのオブジェクトおよび適用される手順の詳細は、『Agile Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』のデータのインポートとエクスポートに関する項を参照してください。

デklarレーション・タイプ	サポートしているテーブル	
	aXML ファイル・タイプ	区切り文字テキストまたは Excel ファイル・タイプ
デklarレーション 1	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「アイテム BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「製造元部品 BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「部品グループ BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「含有基準」、「添付ファイル」	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「含有基準」
適合のサプライヤ・デklarレーション	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「含有基準」、「添付ファイル」	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「含有基準」
部品のデklarレーション	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム」、「製造元部品」、「部品グループ」、「含有基準」、「添付ファイル」	
均質材のデklarレーション	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム」、「製造元部品」、「部品グループ」、「アイテム BOS (サブスタンス構成表)」、「製造元部品 BOS (サブスタンス構成表)」、「部品グループ BOS (サブスタンス構成表)」、「含有基準」、「添付ファイル」	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム」、「製造元部品」、「部品グループ」、「含有基準」
IPC 1752-1 デklarレーション	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「アイテム BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「製造元部品 BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「部品グループ BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「含有基準」、「添付ファイル」	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「含有基準」
IPC 1752-2 デklarレーション	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「アイテム BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「製造元部品 BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「部品グループ BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「含有基準」、「添付ファイル」	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「含有基準」
JGPSSI デklarレーション	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「アイテム BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「製造元部品 BOS	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「含

デklarेशन・タイプ	サポートしているテーブル	
	aXML ファイル・タイプ	区切り文字テキストまたは Excel ファイル・タイプ
	(サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 、「部品グループ BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「含有基準」、「添付ファイル」	有基準
サブスタンスのデklarेशन	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「アイテム BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「製造元部品 BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「部品グループ BOS (サブスタンス構成表) <sup>2</sup> 」、「含有基準」、「添付ファイル」	「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム <sup>1</sup> 」、「製造元部品」、「部品グループ」、「含有基準」
アイテム	「タイトル・ブロック」、「ページ 2」、「ページ 3」、「BOM」、「製造元」、「拠点」、「適合性」>「含有基準 <sup>3</sup> 」、「サプライヤ」、「添付ファイル」、「適合性」>「組成」、「適合性」>「BOS (サブスタンス構成表) <sup>3</sup> 」	「タイトル・ブロック」、「ページ 2」、「ページ 3」、「BOM」、「製造元」、「拠点」、「適合性」>「含有基準 <sup>4</sup> 」、「サプライヤ <sup>5</sup> 」
製造元部品	「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「適合性」>「含有基準」、「適合性」>「組成」>「BOS(含有物質明細) <sup>2</sup> 」、「サプライヤ <sup>4</sup> 」、「添付ファイル」、「適合性」>「組成」、「適合性」>「BOS(含有物質明細) <sup>3</sup> 」	「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「適合性」>「含有基準」、「サプライヤ <sup>5</sup> 」
部品グループ	「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「部品」、「適合性」>「含有基準 <sup>3</sup> 」、「サプライヤ」、「添付ファイル」	「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「部品」、「適合性 <sup>4</sup> 」>「含有基準 <sup>3</sup> 」、「サプライヤ」
含有基準	「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「サブスタンス <sup>5</sup> 」、「添付ファイル」	「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「サブスタンス <sup>2</sup> 」
サブスタンス	「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「組成」、「添付ファイル」	「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」

**注意:**

- 「アイテム」>「アイテム・リビジョン」フィールドをマップしない場合は、アイテムの最新リリース済リビジョンの最終変更済 ECO または MCO がインポートされます。リビジョンを指定した場合は、指定したリビジョンの最新のリリース済および変更済 ECO または MCO がインポートされます。アイテムに複数のリビジョンがある場合は、リビジョンのかわりに初版を使用して、そのアイテムの初版リビジョンがデklarेशनにインポートされます。アイテムがリリースされたリビジョンを持たない場合、初版リビジョンがインポートされます。
- サブスタンスは、aXML ファイルからのみ、デklarेशन、製造元部品、およびアイテム用の BOS (サブスタンス構成表) テーブルにインポートできます。この統合は Agile Product Interchange を使用している場合にサポートされ、外部コンテンツ・ソースからアイテムおよび BOS (サブスタンス構成表) 情報を検索できます。
- 含有基準は、アイテム、製造元部品、および部品グループの「適合性」テーブルにインポートできます。アイテムにインポートされた含有基準、サプライヤ、組成、および BOS (サブスタンス構成表) は変更番号に固有のものです。
- 「組成」、「BOS (サブスタンス構成表)」または「サプライヤ」(あるいはその両方)、および「含有基準」はバージョンに固有です。これらをインポートするには、ソース・ファイルに変更番号を指定する必要があります。これら 4 つのテーブルは、「BOM」、「AML」、「拠点」または「添付ファイル」テーブルと同様にはインポートできません。これらをインポートするには、最初にレッドラインする必要があります。また、インポート・ファイルに変更番号を指定することも必要です。含有基準およびサプライヤ

をアイテムにインポートするには、カンマ区切り（CSV）形式または Excel 形式を使用します。組成および BOS（サブスタンス構成表）をインポートするには、aXML 形式でインポートする必要があります。

5. 含有基準の「サブスタンス」テーブルに追加されるのは、「サブスタンス・グループ」または「サブスタンス」クラスに属するサブスタンスのみです。サブパートとマテリアルは含有基準に追加されません。含有基準に追加されるのは、サブスタンス・グループとサブスタンスのみです。

一部の Agile PG&C オブジェクト（アイテムを含む）には、「質量」フィールドがあります。データを「質量」フィールドにインポートする方法は、19 ページの「[質量をインポートする](#)」を参照してください。

インポートのためにマッピングする必要のある Agile PG&C フィールドのリストは、101 ページの「[キー・フィールドと必須フィールド](#)」を参照してください。

## aXML および PDX パッケージから添付ファイルをインポートする

CAD 図面、画像、ドキュメントなどの添付ファイルを、PDX パッケージまたは aXML ファイルからインポートできます。添付ファイルは通常バイナリ・ファイルですが、容量が非常に大きくなる場合があります。したがって、テキスト・ファイルからはインポートできません。次の表は、PDX および aXML ファイルから添付ファイルをインポートできるオブジェクトを示しています。

オブジェクト	PDX の添付ファイル	aXML の添付ファイル
アイテム	はい	はい
製造元	はい	はい
製造元部品	はい	はい
価格	はい	はい
サブスタンス		はい
デklarेशन		はい
含有基準		はい
部品グループ		はい
製品サービス依頼		はい
品質変更要求		はい

BOM または AML をインポートする場合には、関連付けられているアイテム、製造元、製造元部品に対して添付ファイルは自動的にインポートされません。添付ファイルは明示的にインポートする必要があります。

### インポート可能な添付ファイルのフィールド

次のフィールドは、「添付ファイル」タブにインポートできます。

- ファイルの説明
- ファイル名

aXML および PDX パッケージは、「添付ファイル」タブのカスタム・フィールドもサポートしています。Agile PLM 管理者が Text01、List01、Numeric01 などの「添付ファイル」フィールドを表示するように設定すると、これらのフィールドにデータをインポートできます。



## 添付ファイルの最新バージョンをインポートする

インポート・ウィザードでは、常に添付ファイルの最新バージョンがインポートされます。たとえば、あるアイテムに **リビジョン A バージョン 1**、**リビジョン A バージョン 2**、および **リビジョン B バージョン 1** という添付ファイルが付随している場合は、**リビジョン A バージョン 2** および **リビジョン B バージョン 1** がインポートされます。

アイテムには複数のリビジョンを定義することが可能で、それぞれのリビジョンに対して複数の添付ファイルを定義できます。たとえば、リビジョン A、B、C というアイテムがあったとします。各リビジョンには異なる添付ファイルと、添付ファイルの異なるリビジョンが存在できます。

次の 5 つの個別のインポート・セッションでは、各リビジョンに対して添付ファイルをインポートできます。

**セッション 1:** リビジョン A (ファイル 1 バージョン 1)

**セッション 2:** リビジョン A (ファイル 1 バージョン 2)

**セッション 3:** リビジョン B (ファイル 1 バージョン 3)

**セッション 4:** リビジョン C (ファイル 1 バージョン 4)

**セッション 5:** リビジョン C (ファイル 1 バージョン 5 およびファイル 2 バージョン 1)

5 つのインポート・セッションが完了すると、各リビジョンに表示される添付ファイルは次の表のようになります。

リビジョン	添付ファイル
リビジョン A	ファイル 1 バージョン 1、ファイル 1 バージョン 2
リビジョン B	ファイル 1 バージョン 3
リビジョン C	ファイル 1 バージョン 4、ファイル 1 バージョン 5、ファイル 2 バージョン 1

## URL 添付ファイル

実際のファイルのかわりに、Uniform Resource Locator (URL) を添付できます。URL はインターネット上のファイルのアドレスであるため、ファイルは Agile のファイル管理サーバー上でセキュアではなく、Agile アプリケーションの知識がなくても変更できます。URL 添付ファイルにはサイズが 0 バイトのファイルがあります。これらのファイルをファイル管理サーバーからチェックアウトすることはできません。URL もファイルと同様にインポートできます。

## 添付ファイルと親アイテムのロールバック

なんらかの理由で添付ファイルがインポートされなかった場合、そのファイルの親オブジェクト（アイテム、製造元、または製造元部品）はロールバックされません。

## 添付ファイルの値を変換する

変換定義ファイルを使用して、添付ファイルのファイル名を変更しないでください。このような変更を行うと、インポート・ウィザードでファイルのインポートに失敗します。

## 複数ファイル（フォルダ）を持つ添付ファイルをインポートする

PDX は複数ファイルを含む添付ファイルをサポートしています。Agile ソフトウェアの前バージョンでは、複数ファイルを含む添付ファイルはフォルダとして表示されました。PDX パッケージから添付ファイル・フォル

ダをインポートすると、インポート・ウィザードはフォルダ内の各ファイルを別々の添付ファイルとしてインポートします。

## 添付ファイル・レッドライン

Agile PLM システムでは添付ファイルのレッドラインがサポートされているため、ファイルに注釈を追加できます。添付ファイルのレッドラインはインポートできません。ただし、添付されているファイル、およびそれに関連するフィールドのみインポートできます。

## 特別なエクスポートおよびインポート・コマンドを使用してデklarレーションを完成する

デklarレーション・クラスには、特別なエクスポートおよびインポート・コマンドがあります。これらのコマンドによって、サプライヤは、データを他の Agile PLM システムと統合したり、Microsoft Excel や Adobe Reader など他のクライアントで適合性リクエスト・フォームを完成できます。次の表は、これらのエクスポートおよびインポート・コマンドを一覧表示します。

クラス	コマンド	説明
すべてのデklarレーション・クラス	AXML のエクスポート AXML のインポート	Agile PLM システムと統合するために Agile XML をエクスポートおよびインポートする。
IPC 1752-1 デklarレーション IPC 1752-2 デklarレーション	IPC XML のエクスポート IPC XML のインポート	IPC-1752-1 と IPC-1752-2 データ適合性リクエスト・フォームを完成するために使用できる XML データのエクスポートおよびインポート。
JGPSSI デklarレーション	JGPSSI のエクスポート JGPSSI のインポート	JGPSSI Excel テンプレートと統合するためにブロック形式でテキスト・ファイルをエクスポートおよびインポートする。
	Excel で開く	Microsoft Excel でデklarレーションを開く。

**注意** 前述の表内のコマンドは、デklarレーション・クラスに割り当てられたプロセス拡張によって有効になります。コマンドが使用できない場合、Agile PLM システムはカスタム設定を使用します。


これらの特別なエクスポートおよびインポート・コマンドのデータ形式は、Agile の aXML 形式、JGPSSI テンプレート、および IPC-1752-1 形式と IPC-1752-2 形式で事前定義されています。これらのコマンドの詳細は、『Product Governance & Compliance ユーザー・ガイド』を参照してください。

## Agileパッケージから添付ファイルをインポートする

Agile パッケージは、提案製品を説明するファイルおよびドキュメントが定義されているオブジェクトです。Agile パッケージは、サプライ・チェーン・パートナも含めて他の Agile ユーザーにルートできます。

Agile パッケージが承認者によってレビューおよび承認されると、プログラム管理者はそれを受諾して、Agile パッケージのデータを各社の社内手順に従って処理します。パッケージが受諾されると、その添付ファイル (PDX ファイルまたは区切り文字テキスト・ファイル) を Agile PLM システムにインポートできるようになります。

### Agileパッケージから添付ファイルをインポートするには

- Web クライアントで Agile パッケージを開きます。
- 「添付ファイル」タブをクリックします。
- 添付ファイル (PDX ファイルまたは区切り文字テキスト・ファイル) を選択します。
- 「詳細」アクション・メニュー  で、「インポート」オプションを選択します。

---

**注意**      パッケージがリリース済の場合のみ「インポート」ボタンが有効になります。デフォルトのパッケージ・ワークフローの場合、リリース済のステータスは「受諾済」と呼ばれます。

---

5.    メッセージ・ボックスが表示されたら「**OK**」をクリックします。
6.    インポート・ウィザードが表示されます。ウィザードの手順に従います。



# サプライヤおよびシステム・データを インポートする

## この章のトピック

■ サプライヤをインポートする .....	87
■ サプライヤの見積依頼回答をインポートする .....	89
■ 通貨換算テーブルをインポートする .....	94

## サプライヤをインポートする

外部のサプライヤと協力して、製品コンテンツを収集および準備できます。また、価格の交渉や見積依頼 (RFQ) への直接的な応答も行います。

サプライヤをインポートする場合は次の2つのフィールドが必須になります。

- 「サプライヤ」>「一般情報」>「名前」
- 「サプライヤ」>「一般情報」>「会社通貨」

「サプライヤ」>「一般情報」>「番号」フィールドはキー・フィールドですが、このフィールドはマップする必要はありません。

「サプライヤ」>「一般情報」>「番号」フィールドがマップされていない場合、インポート・ウィザードではサプライヤの名前を使用して既存のサプライヤを見つけます。サプライヤの名前が、既存の複数のサプライヤ名に一致する場合は、インポート・ウィザードでその行が却下されます。指定された名前のサプライヤが存在しない場合は、インポート・ウィザードで新しいサプライヤが作成され、自動採番プリファレンスによってそのサプライヤに番号が割り当てられます。詳細は、「デフォルトの自動採番ソースを設定する」を参照してください。

ソース・データでは、必ずサプライヤ・タイプを指定してください。サプライヤとして次の5種類が用意されていますが、別のサプライヤを Agile PLM システムに追加することもできます。5つのサプライヤ・タイプは次のとおりです。

- ブローカー
- 部品メーカー
- 受託製造業者
- ディストリビュータ
- メーカー代表者

「サプライヤ」>「一般情報」>「ライセンスのあるコンタクト・ユーザーの最大数」および「サプライヤ」>「一般情報」>「パワー・コンタクト・ユーザーの最大数」フィールドはそれぞれ、サプライヤ会社のコンタクト・ユーザーおよびパワー・ユーザーの最大数を表します。コンタクト・ユーザーおよびパワー・ユーザーは見積依頼に回答することが可能ですが、レポートを生成および表示できるのはパワー・ユーザーのみです。

「会社通貨」フィールドの通貨値は、3文字のコードを使用して指定します。詳細は、「通貨の値をインポートする」を参照してください。

## サプライヤ製造元および部品分類提示をインポートする

サプライヤの製造元提示では、サプライヤがどの製造元の製品を販売しているかを定義します。たとえば、ACME という名前のサプライヤが Motorola と Kemet の製品を販売している場合があります。製造元提示をインポートする場合、その製造元の名前が PLM システムの既存の製造元名に存在するかどうかインポート・ウィザードで検証されます。該当する製造元が存在しない場合は、インポート・ウィザードで提示が却下されます。

サプライヤの製造元提示をインポートするには、次のフィールドが必須です。

- 「サプライヤ」 > 「一般情報」 > 「名前」
- 「サプライヤ」 > 「一般情報」 > 「会社通貨」
- 「サプライヤ」 > 「製造元」 > 「製造元名」

「サプライヤ」 > 「一般情報」 > 「番号」 フィールドはキー・フィールドですが、このフィールドはマップする必要はありません。「番号」フィールドがマップされていない場合、インポート・ウィザードは自動採番プリファレンスを使用して新しいサプライヤに番号を割り当てます。詳細は、「デフォルトの自動採番ソースを設定する」を参照してください。

サプライヤの部品分類提示には、そのサプライヤが販売する製品分類が定義されます。たとえば、ACME という名前のサプライヤが、ヒューズ、IC、レジスタなどの商品を販売している場合があります。サプライヤの部品分類提示をインポートする場合、部品分類の名前が PLM システムの既存の部品分類名に存在するかどうかインポート・ウィザードで検証されます。該当する部品分類が存在しない場合は、インポート・ウィザードで提示が却下されます。

サプライヤの部品分類提示をインポートする場合には、次のフィールドが必須です。

- 「サプライヤ」 > 「一般情報」 > 「名前」
- 「サプライヤ」 > 「一般情報」 > 「会社通貨」
- 「サプライヤ」 > 「部品分類」 > 「部品分類」

この場合も「サプライヤ」 > 「一般情報」 > 「番号」 フィールドはキー・フィールドですが、マップする必要はありません。「番号」フィールドがマップされていない場合、インポート・ウィザードは自動採番プリファレンスを使用して新しいサプライヤに番号を割り当てます。

各提示について、「出荷先」の場所、または地理的な場所を表す値（各提示の「大陸」、「国」、および「都道府県」フィールド）のいずれかをインポートできます。

「出荷先」の場所については有効なもののみを指定できます。存在しない場合、提示は無視されます。「出荷先」の値には、区切られた複数の場所（「Milwaukee, Nagoya, Taipei」など）を指定できます。複数の「出荷先」は、特定の行で指定します。ファイルをインポートする際に、複数の提示が作成されます。

<b>注意</b>	PLM 管理者は、Java クライアントにログインし「管理」>「システム設定」>「Product Cost Management」>「出荷先の場所」の順に選択することによって、有効な「出荷先」の場所を定義できます。
-----------	---

提示には、それぞれの「出荷先」の場所に対する格付を与えることができます。この格付により、パイヤーとサプライヤおよび特定の提示との関係を表現できます。サプライヤは PLM システムに一定の制限付きでアクセスできますが、割り当てられている格付を表示する権限はありません。

デフォルトでは、「格付」フィールドとして次の 4 つの値が有効です。

- 承認済
- 未承認（提示可）
- 提供 - 無効
- 推奨

**注意** PLM 管理者は、Java クライアントにログインして「管理」>「データとワークフローの設定」>「リスト」>「サプライヤ提示格付」の順に選択することによって、「格付」フィールドの有効な値を設定できます。

## 1 回の操作で提示と格付をインポートする

サプライヤの提示と格付を 1 回の操作でインポートするには、提示に対する「出荷先」の場所、または地理的な値のいずれかを指定する必要があります。この場合も、有効な「出荷先」の場所のみを指定できます。

ソース・データの行に「出荷先」の値が含まれており、それが有効であるもののまだサプライヤに関連付けられていない「出荷先」の場所に対応している場合、インポート・ウィザードで「出荷先」の値と「格付」の値（提示されている場合）を使用して新しい提示が作成されます。指定された「出荷先」の場所がすでにサプライヤに関連付けられている場合は、インポート・ウィザードで「格付」フィールド（提示されている場合）が更新されます。指定された「出荷先」の場所が有効ではない場合は、行全体が却下されます。

ソース・データの行に「出荷先」の値が含まれておらず、地理的な値（「大陸」、「国」、および「都道府県」フィールド）が含まれている場合は、インポート・ウィザードで提示が作成され、適切な「出荷先」の場所が自動的に関連付けられます。ただし、この場合には次のルールが適用されます。

- 「大陸」の値は必須です。「国」または「都道府県」フィールドの値が空白か不明の場合、デフォルト値の「すべて」が使用されて広義の提示が行われます。
- 地理的な値のそれぞれに対しては、1 つの値しかインポートできません。「Arizona, California, Texas」のように、区切られた複数の値はサポートしていません。

**注意** 提示を作成する場合は、そのときに指定する地理データが、同じ製造元または部品分類に対する既存の提示の地理データよりも狭く指定されていないことを確認してください。たとえば、既存の提示の「都道府県」フィールドが「すべて」に設定されている場合、「都道府県」フィールドに「カリフォルニア」を設定して同じ製造元または部品分類に対する新しい提示は作成できません。これは、既存の提示でカバーする地域の方が広いからです。

## サプライヤの見積依頼回答をインポートする

見積依頼に記載されたアイテムの見積を行う際は、アイテムをエクスポートして回答を作成できます。アイテムをエクスポートすると、Agile PLM システムによってカンマ区切りのテキスト・ファイルが生成されます。エクスポートされたサプライヤの回答ファイルには、*RFQNumber.csv* という名前が付けられています。サプライヤは、Microsoft Excel などのスプレッドシート・プログラムを使用してファイルを編集できます。また、見積ツールを使用して回答をオフラインで完了することもできます。回答ファイルのフィールドへの記入が終了すると、サプライヤはそのファイルを Agile PLM システムに再インポートし、回答をソーシング・マネージャに送信できます。

インポート可能なその他のタイプのオブジェクトとは異なり、サプライヤの回答の場合はインポート・フィールドを Agile PLM フィールドにマッピングする必要はありません。回答はエクスポートされたテキスト・ファイルの変更済バージョンであるため、マッピングは自動的に行われます。

### サプライヤの回答をインポートするには

1. 見積依頼を選択します。
2. 「回答」タブをクリックします。
3. 「回答」>「インポート」の順に選択します。インポート・ウィザードが表示されます。
4. 「参照」をクリックしてファイルを選択し、「開く」をクリックします。
5. 「インポート」をクリックします。

## Webサプライヤ以外のサプライヤの回答をインポートする

サプライヤが Agile PLM クライアントに Web 経由でアクセスできない場合、ソーシング・マネージャは、サプライヤからの回答ファイルをインポートできます。回答はエクスポートされたテキスト・ファイルの変更済バージョンであるため、回答フィールドのマッピングはインポート・ウィザードによって自動的に行われます。

### Webサプライヤ以外のサプライヤからの見積依頼回答をインポートするには

1. 見積依頼を選択します。
2. 「回答ステータス」タブをクリックします。
3. Web サプライヤ以外のサプライヤを選択します。

---

**注意** Web サプライヤ以外のサプライヤは、アイコンで示されます。

---

4. 「インポート」をクリックします。インポート・ウィザードが表示されます。
5. 「参照」をクリックしてファイルを選択し、「開く」をクリックします。
6. 「インポート」をクリックします。

## サプライヤの回答フィールドを編集する際のガイドライン

サプライヤからの回答テキスト・ファイルのインポートを正常に行うには、編集する際に次のガイドラインに従ってください。

- 列見出しの順序は変更できますが、見出しの編集や見出しへのデータの追加は行わないでください。列見出しを変更すると、ファイルをインポートできません。
- 新規データ列は追加しないでください。
- 「製造中止日」と「有効期限」以外の日付フィールドは変更しないでください。
- 「入力しない」というコメントがあるフィールドには、値を入力しないでください。これらのフィールドは、データを格納するように意図されていません。「入力しない」というコメントは、フィールドが編集されないように表示してあります。コンポーネント部品の場合は、「その他費用」フィールドにデータを入力しないでください。アセンブリ・アイテムの場合は、「材料価格」フィールドにデータを入力しないでください。



- 必須フィールドには、列見出しの右側にアスタリスク (\*) が付いています。次の図に表示されている列は、すべて必須フィールドです。

	AM	AN	AO	AP	AQ	AR	AS
22	Min *	Mult *	Lead Time (days) *	Inventory *	Terms of Sale *	Country of Origin *	NCNR *
23	4	6	27	97	CFR - COST AND FREIGHT	United States	No
24		6	7	29	CFR - COST AND FREIGHT	United States	No
25	7	5	38	24	CFR - COST AND FREIGHT	United States	No
26	9	2	57	39	CFR - COST AND FREIGHT	United States	No
27	4	8	39	31	CFR - COST AND FREIGHT	United States	No
28	3	9	66	61	CFR - COST AND FREIGHT	United States	No
29	8	2	63	57	CFR - COST AND FREIGHT	United States	No
30	1	7	86	29	CFR - COST AND FREIGHT	United States	No

一部の必須フィールドが記入されていない場合でも、ファイルのインポートは正しく実行できます。ただし、その回答をソーシング・マネージャには送信できません。必須フィールドおよび依頼フィールドは、プロジェクトを設定するソーシング・マネージャによって指定されます。

- 空のフィールドはインポートされません。また、そのフィールドが **0** とみなされることもありません。数値フィールドまたは価格フィールドを **0** に設定するには、明示的に値 **0** を入力する必要があります。
- ファイルの先頭にある <HEADER> セクションはインポートされないため、必要であれば削除できます。このセクションを削除する場合は、必ず <HEADER> タグの行、</HEADER> タグの行、およびその 2 つのタグに挟まれているすべての行を削除してください。
- サプライヤからの回答ファイルをインポートすると、既存の回答フィールドのデータはインポートしたデータで置換されます。

サプライヤからの回答ファイルを編集する場合には、編集が許可されているフィールドのみを編集するように注意してください。通常、これは「**入札参加意思**」フィールドとこの右側のフィールドが編集可能です。その他のフィールドは表示専用となります。

サプライヤからの回答ファイルは、繰返しインポートできます。ファイルをインポートするたびに、編集可能フィールドのみがインポートされ、以前の値が置換されます。サプライヤからの回答ファイルに表示されるフィールドは、そのフィールドをソーシング・マネージャが依頼フィールドまたは必須フィールドのどちらに指定しているかによって異なります。

Agile PLM システムでは、様々な価格算出ケースをサポートしています。このため、見積依頼のフィールドは、プロジェクトに対して指定された価格期間や数量割引によって異なります。価格は、複数の数量割引（最大 6 種類まで）または複数の価格期間に基づき、1 つの価格期間に 1 つまたは複数の数量を規定できます。次の表に、編集可能および編集不可のサプライヤからの回答フィールドをすべて示します。

フィールド	編集可
計算 1	はい
入札参加意思	はい
原産国	はい
製造中止日	はい
有効期限 2	はい
在庫	はい
アイテム番号	

フィールド	編集可
アイテムまたは製造元部品説明	
リード・タイム	はい
マテリアル・コスト	はい
最小	はい
発注ロット・サイズ	はい
製造元名	
製造元部品番号	
返品・キャンセル不可	はい
その他費用 1	はい
初期設計費用	はい
対象期間開始日数量割引 1...6 - 数量 2	
対象期間開始日数量割引 1...6 - 目標価格 3	はい
数量割引 1...63	
回答ユーザー設定フィールド 1、3	はい
見積依頼番号	
リビジョン	
販売条件	はい
UOM	

**注意:**

1. このフィールドは、ソーシング・マネージャで設定できます。このため、別の表示名となっている可能性があります。
2. このフィールドを使用できるかどうかは、プロジェクトに対して選択されている価格算出ケースによります。
3. Agile PLM システムで設定し有効にできる回答ユーザー設定フィールドは 25 箇所あります。具体的には、5 個の日付フィールド、10 個のテキスト・フィールド、5 個の数値フィールド、および 5 個の通貨フィールドです。

## 提示された代替部品を回答ファイルに追加する

サプライヤに対して送られた見積依頼の部品が、なんらかの理由で供給できないこともあります。たとえば、部品が旧式になっている場合、割当て済みの場合、製造中止状態の場合などには供給できません。また、その部品が不必要に高価だったり、要求されたリードタイムでは必要な数量を揃えられなかったりする場合もあります。こうした問題には、見積依頼回答で代替部品を提示して対処できます。

代替部品を提示する場合、その部品の新しい製造元を（ソーシング・マネージャが検討しなかった製造元も含めて）提示することもできます。

**提示された代替部品を見積依頼回答に追加するには**

1. エクスポートされた回答ファイルを（Microsoft Excel などの）スプレッドシート・プログラム、またはカンマ区切りファイルをサポートしている他のアプリケーションで開きます。
2. 置き換える部品に対して 1 行挿入します。
3. 「製造元部品番号」、「製造元名」、および「アイテムまたは製造元部品説明」フィールドに適切な値を入力します。「アイテム番号」フィールドの値は置き換える部品と同じにします。「入札参加意思」フィールドで、「入札 - 代替部品」を入力します。「リビジョン」および「単位」フィールドは空白のままにします。これらのフィールドの内容は親アイテムから継承されます。他のフィールドには適切な値を入力します。

追加の行を挿入して、さらに代替部品を提案できます。

4. ファイルをカンマ区切り（CSV）フォーマットで保存します。

**回答を価格算出ケースにインポートする**

サプライヤの回答ファイルには、価格算出ケースが横方向に表示されます。このため、サプライヤは各コンポーネント部品に対するすべての回答情報を 1 行で記入できます。

それぞれの価格算出ケースは、1 つの数量割引か、または価格期間当たりの 1 つの数量を表します。次の表に、いくつかの異なるアイテムの特定の期間について入力された、数量割引と目標価格を示します。

アイテム番号	Q 4 2002 年 12 月 30 日 数量割引 1 - 数量	Q 4 2002 年 12 月 30 日 数量割引 1 - 目標価格
10-007	1	0.04
10-008	10	12.80
10-009	1	0.04
10-010	10	16.60
10-011	1	0.04
10-012	1	0.09
10-013	5	2.95
10-014	100	122.00

インポート・ウィザードでは、空白のフィールドは無視されます。価格の値を **0** に設定するには、明示的に 0 を入力する必要があります。

エクスポートされたサプライヤからの回答ファイルの価格値は、ユーザーの通貨設定に基づいてフォーマットされます。Web クライアントで Agile ユーザー・プリファレンスを変更するには、「個人設定」>「ユーザー・プロファイル」>「プリファレンス」>「編集」の順にクリックします。

**サプライヤからの回答フィールドの有効な値**

サプライヤからの回答フィールドの中には、特定の値を正確に入力する必要があるフィールドもあります。フィールドに無効な値を入力した場合は、インポートされません。次の表に、サプライヤからの回答フィールドの中で、特定の値を必要とするフィールドに対する有効な値を示します。

**注意** これらのフィールドの値はサプライヤからの回答ファイルのヘッダにも記載されています。

フィールド	有効な値	コメント
入札参加意思	オプションは、「入札」、「入札 - 代替部品」、「入札しない - 該当部品なし」、「入札しない - 破棄部品」、「入札しない - 割当」、「入札しない - その他」、「入札しない - 未知の部品」、「未回答」です。	
原産国		有効な国名を入力します。スペルが正しいことを確認してください。
返品・キャンセル不可	はい/いいえ	
販売条件	CFR	運賃込み渡し
	CIF	運賃保険料込み渡し
	CIP	輸送費、保険料込渡し
	CPT	輸送費込み渡し
	DAF	国境持込み渡し
	DDP	引渡関税支払済
	DDU	引渡関税未払
	DEQ	埠頭持込渡し（関税支払済）
	DES	本船持込渡し
	EXW	工場渡し
	FAS	船側渡し
	FCA	運送人渡し
	FOB	本船渡し

**販売条件**の入力については、3文字の略語に加えて、**販売条件**の完全な語句も使用できます。たとえば、「CFR - コスト、運送料」や「CIF - コスト、保険料、運送料」も可能です。英字の値は、すべて大文字で入力します。

## 通貨換算テーブルをインポートする

Agile では、最新の通貨換算レートを保持しており、このレートによって、選択された会社の通貨に通貨値を変換します。インポート・ウィザードを使用して、Agile PLM システムで有効なすべての通貨に対する変換レートを更新できます。通貨換算テーブルをインポートするには、管理者の役割を割り当てられたユーザーとしてログインします。

インポートする通貨換算テーブルは、次の要件を満たしている必要があります。

- Microsoft Excel ファイル、または区切り文字テキスト・ファイルのいずれかであること。
- 通貨コードと換算係数が含まれている 2 つのカラムがファイルに定義されていること。

- ソース・ファイルで指定された各通貨が、Agile PLM システムで使用できること。使用できる通貨を確認するには、Java クライアントに管理者としてログインし、「管理」>「システム設定」>「Product Cost Management」>「通貨換算レート」の順に選択します。
- 通貨は必ず 3 文字のコードを使用して指定します。たとえば、EUR および USD はそれぞれユーロと US ドルを表します。通貨コードのリストについては、「通貨の値をインポートする」を参照してください。

次の Agile フィールドを必ずマップします。

- 「通貨換算」>「通貨換算レート」>「通貨コード」
- 「通貨換算」>「通貨換算レート」>「換算係数」

次の図は、通貨換算テーブルの例を示しています。

	A	B
1	<b>Currency Code</b>	<b>Conversion Factor</b>
2	GBP	0.71
3	FRF	0.82
4	RUR	160.1
5	SGD	2.2
6	INR	47.17
7	JPY	78.05

#### 通貨換算テーブルをインポートするには

1. Microsoft Excel ファイルまたは区切り文字テキスト・ファイルを使用して、ソース・ファイルを適切にフォーマットします。
2. インポート・ウィザードを開始します。
3. インポート・ウィザードの最初の手順で、「区切り文字テキスト・ファイル」または「Excel ワークブック」を選択します。
4. ファイルのパスを入力するか、「参照」をクリックしてファイルを選択します。
5. 「次へ」をクリックします。
6. 「通貨換算」を選択します。「次へ」をクリックします。
7. マッピング・ファイルを選択するか、または新しいフィールド・マッピングを作成します。
8. 「インポート」をクリックしてインポート処理を開始します。



# ソーシング・プロジェクトヘデータを インポートする

## この章のトピック

■ ソーシング・プロジェクトについて.....	97
■ ソーシング・プロジェクトからインポート・ウィザードを開始する .....	97
■ ロールアップ数量を計算する .....	99
■ プロジェクトにインポートできるデータ・タイプ .....	99
■ プロジェクトからアイテム・マスターへAMLを公表する .....	99
■ 数量割引と目標コストをマッピングおよびインポートする .....	99
■ プロジェクトでのリビジョンの処理方法.....	100

## ソーシング・プロジェクトについて

プロジェクトには、製品ソーシング活動中に収集されるデータが保存されます。バイヤーはプロジェクトを使用して情報収集を行い、見積依頼の準備、サプライヤの割当て、回答の追跡と分析、また最終価格の交渉などを行うことができます。また、バイヤーはプロジェクト内の AML をクリーンアップしてアイテム・マスターに公表することもできます。AML がアイテム・マスターに公表されると、今後のあらゆるプロジェクトで利用できるようになります。

次の価格算出ケースのいずれかを使用して、プロジェクトを作成できます。

- **数量割引** - 価格は複数の数量割引に基づいて、製品に対して最適なサプライヤとコンポーネントを判断します。
- **有効期間** - 価格は複数の有効期間（期間単位で複数の数量を定義）に基づいて、製品のライフサイクルを通じて継続したコストを管理します。この価格算出ケースでは、製品コストに関する将来的な見通しを提示して、コストの低減や目標の達成を支援します。

## ソーシング・プロジェクトからインポート・ウィザードを開始する

プロジェクトのオブジェクト（アイテム、BOM、AML など）は、アイテム・マスターのオブジェクトとは異なります。プロジェクトのオブジェクトには、様々なフィールドのセットがあるため、アイテム・マスターのオブジェクトに比べて多数のフィールド・マッピングがあります。アイテムをプロジェクトにインポートしても、アイテムはアイテム・マスターには自動的にインポートされません。

**注意** BOMをプロジェクトへインポートした後で、BOMコンポーネントに対する数量を再計算する必要がある場合があります。詳細は、99ページの「[ロールアップ数量を計算する](#)」を参照してください。

### アイテムとBOMを既存のソーシング・プロジェクトへインポートするには

1. ソーシング・プロジェクトをオープンします。
2. 「アイテム」タブをクリックします。
3. 「詳細」>「インポート」の順に選択します。インポート・ウィザードが表示されます。ウィザードの指示に従います。

**注意** インポートするアイテムに BOM と AML の両方がある場合、これらは同時にインポートできます。

### アイテムとAMLを既存のソーシング・プロジェクトへインポートするには

1. ソーシング・プロジェクトをオープンします。
2. 「AML」タブをクリックします。
3. 「詳細」>「インポート」の順に選択します。インポート・ウィザードが表示されます。ウィザードの指示に従います。

インポート・ウィザードの手順の一覧は、6ページの「[インポート・ウィザードの手順](#)」を参照してください。

## レベル・テンプレートおよび親-子テンプレートをソーシング・プロジェクトにインポートする

レベル・テンプレートまたは親-子テンプレートは、次のようにソーシング・プロジェクトにインポートできます。

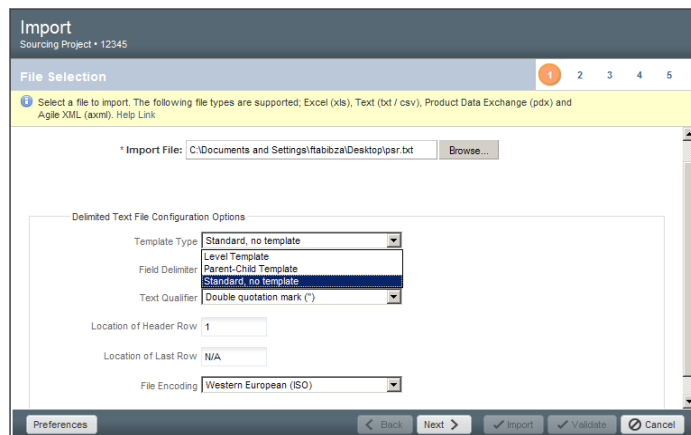
- ウィザードを使用してソーシング・プロジェクトを作成し、目的のテンプレートをインポートします。
- 既存のソーシング・プロジェクトを検索し、レベル・テンプレートまたは親-子テンプレートをそのソーシング・プロジェクトにインポートします。
- 外部ファイルからアイテムをインポートします。

### レベル・テンプレートまたは親-子テンプレートをソーシング・プロジェクトにインポートするには

1. ソーシング・プロジェクトをオープンします。
  2. 「アイテム」タブをクリックします。
  3. 「詳細」>「インポート」の順に選択します。
- インポート・ウィザードのダイアログが表示されます。


**注意** レベル・テンプレートまたは親-子テンプレートは、区切り文字テキスト・ファイルです。

4. 「参照」ボタンを使用して、インポートするファイルを検索して選択します。
5. 「区切り文字テキスト・ファイル設定オプション」で、「テンプレート・タイプ」フィールドのドロップダウン矢印をクリックしてテンプレートを表示し、テンプレート・タイプを選択します。





## ロールアップ数量を計算する

データをプロジェクトへインポートした後で、BOM コンポーネントに対する数量を計算する必要があります。プロジェクトの「アイテム」と「AML」タブのトップで、最後に数量が計算された日付と時刻を表示します。計算された日付と時刻が赤い場合は、をクリックして数量を再計算する必要があります。

ソーシング・プロジェクトでは、BOM コンポーネントではなく、トップ・レベルのアセンブリに対して数量を指定します。BOM コンポーネントについては、アセンブリごとの数量 (QPA) を指定します。

プロジェクトにおける各価格算出ケースについて、コンポーネント・レベルの数量は、アセンブリの数量と QPA に基づいています。数量を計算する際、プロジェクトは共通アイテムのアセンブリを通して数量を集約します。パートナ分割が指定されている場合、プロジェクトは計算された数量にも分割を適用します。

## プロジェクトにインポートできるデータ・タイプ

プロジェクトにインポートできるオブジェクト・タイプは次のとおりです。

- プロジェクト・アイテム
- プロジェクトの部品構成表 (BOM)
- プロジェクトの承認済製造元リスト (AML)
- プロジェクト・アイテムの添付ファイル

アセンブリ・アイテムは、BOM が定義されているアイテムです。BOM が定義されているプロジェクト・アイテムに AML も定義できます。BOM と AML は同じプロジェクト・アイテムにインポートできます。

## プロジェクトからアイテム・マスターへAMLを公表する

プロダクト・コンテンツをアイテム・マスターからプロジェクトにはインポートできますが、アイテムや BOM をプロジェクトからアイテム・マスターにはコピーできません。ただし、承認済製造元リスト (AML) は異なります。プロジェクトの AML をアイテム・マスターとの比較により確認できます。また、プロジェクトの AML をクリーンアップすることもできます。AML のクリーンアップが完了したら、AML の変更をアイテム・マスターに公表できます。

## 数量割引と目標コストをマッピングおよびインポートする

プロジェクトに特有の価格算出ケースによっては、1つのアイテムにつき複数の数量割引をインポートすることも、1つのアイテムにつき複数の有効期間 (期間単位で複数の数量を定義) をインポートすることもできます。これは、トップレベル・アセンブリのそれぞれの価格期間について、数量割引または数量をインポートできることを意味しています。また、選択した価格算出ケースによっては、数量割引ごとに目標コストをインポートすることも、価格期間ごとに目標コストをインポートすることも可能です。

プロジェクトの価格算出ケースが数量割引に基づいている場合は、最大 6 つの数量割引を選択できます。「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウでは、プロジェクトの数量割引の数に対して「カバー・ページ」>「数量割引」フィールドをマッピングできます。

プロジェクトの価格算出ケースが複数の有効期間に基づいている場合は、指定された期間に対して、「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウを使用して数量割引および目標コストをマッピングできます。

## プロジェクトでのリビジョンの処理方法

プロジェクトには、アイテムの複数リビジョンは保持されません。したがって、プロジェクトにインポート可能なアイテムのリビジョンはプレリナリ、保留、リリース済のリビジョンのいずれかです。アイテムを再インポートすると、プロジェクトの以前のアイテムがそのアイテムによって置換されます。そのため、プレリナリ・アイテムだけではなく元のリビジョン、現在のリビジョン、または保留中のリビジョンをインポートすることにより、プロジェクト内のリリース済または未リリースのリビジョンを置換できます。

**重要** アイテムをプロジェクトに再インポートする場合、オリジナル・アイテムのすべてのデータ（BOM や AML）は新しいデータがインポートされる前に削除されます。このため、データを更新する前に、常にすべての BOM と AML をエクスポートしてからデータを再インポートしてください。また、アイテムをインポートする際は、「タイトル・ブロック」>「リビジョン」フィールドを必ずマッピングしてください。これを怠ると、アイテムは初版リビジョンとしてインポートされます。

# インポート・フィールドを Agile フィールド にマッピングする

## この章のトピック

■ マッピング・ファイルについて.....	101
■ キー・フィールドと必須フィールド.....	101
■ 変更指示とマッピング・ファイルを選択する.....	106
■ 新規マッピング・ファイルを作成する.....	107
■ マッピング・ファイルを再利用する.....	109
■ マッピング・ファイルを編集する.....	110
■ PDXおよびaXMLパッケージをマッピングする.....	111

## マッピング・ファイルについて

データを PLM システムにインポートする場合には、データの配置場所を指定する必要があります。データの配置場所は、インポート・ウィザードでソース・データのフィールドを Agile のフィールドにマッピングして指定します。この場合、マッピングされたフィールドのみインポートされます。インポート・ウィザードでは、マッピングされていないソース・フィールドはすべて無視されます。

マッピング・ファイルは XML ファイルで、その後のインポート・セッションのためにデータをマッピングする場合に再利用できます。ファイルはローカルまたはネットワーク・ドライブに保存できます。マッピング・ファイルは PLM システムには保存できません。

**注意** インポート・ウィザードは、Agile Product Cost Management または Agile Product Collaboration の以前のリリースで作成されたマッピング・ファイルはサポートしていません。

## キー・フィールドと必須フィールド

キー・フィールドでは PLM システムのオブジェクトが一意に識別されるため、新規または既存にかかわらず、すべてのオブジェクトをインポートする必要があります。キー・フィールドの例は、部品の「**タイトル・ブロック**」>「**番号**」フィールドです。実際、ほとんどの Agile PLM オブジェクトのキー・フィールドは、オブジェクトの一意の番号を設定するために使用されます。インポートのためにフィールドをマップする際、「マッピング・ファイルを編集」キー・フィールドは**青い太字**で表示されます。

下表はインポート・ウィザードでサポートされているすべてのオブジェクトのキー・フィールドを示しています。これらのフィールドをマップする必要があります。

オブジェクト	タブ	キー・フィールド
通貨換算	通貨換算	通貨コード
顧客	一般情報	顧客名
		顧客番号 1
デクラレーション	添付ファイル	ファイル ID、ファイル名

オブジェクト	タブ	キー・フィールド
	カバー・ページ	名前、サプライヤ
	アイテム組成	アイテム番号、アイテム・リビジョン
		サブスタンス名
		サブスタンス・タイプ
	アイテム	アイテム番号、リビジョン番号
	製造元部品	製造元名
		製造元部品番号
	製造元部品の組成	製造元名
		製造元部品番号
		サブスタンス名
		サブスタンス・タイプ
	部品グループの組成	名前
		サブスタンス名
		サブスタンス・タイプ
	部品グループ	名前
	含有基準	含有基準
アイテム	添付ファイル	ファイル ID
		ファイル名
	BOM	アイテム番号
	適合性	含有基準
	製造元	製造元名
		製造元部品番号
	拠点	拠点名
	サプライヤ	サプライヤ、変更番号
	タイトル・ブロック	番号
	組成	組成タイプ、変更番号
	サブスタンス	サブスタンス名、サブスタンス・タイプ
製造元	添付ファイル	ファイル ID
		ファイル名
製造元部品	一般情報	名前
		ファイル ID
		ファイル名
	適合性	含有基準

オブジェクト	タブ	キー・フィールド
	組成	組成タイプ 2
	一般情報	製造元名
		製造元部品番号
	サブスタンス	サブスタンス名
	サプライヤ	サプライヤ
部品グループ	添付ファイル	ファイル ID
		ファイル名
	適合性	含有基準
	一般情報	名前
	部品	部品番号
	サプライヤ	サプライヤ
	カバー・ページ	番号 1
プロジェクト・アイテム	AML	製造元名
		製造元部品番号
	添付ファイル	ファイル ID
		ファイル名
	BOM	コンポーネント部品番号
	アイテム	番号
公表価格	添付ファイル	ファイル ID
		ファイル名
	一般情報	顧客
		アイテム番号
		アイテム・リビジョン
		製造拠点
		製造元名
		製造元部品番号
		番号 1
		価格タイプ
		プログラム
		サプライヤ
	公表価格ライン	価格有効開始日
		価格有効終了日

オブジェクト	タブ	キー・フィールド
		数量
		出荷元
		出荷先
見積履歴	一般情報	顧客
		アイテム番号
		アイテム・リビジョン
		製造拠点
		製造元名
		製造元部品番号
		番号 1
		価格タイプ
		プログラム
		サプライヤ
	公表価格ライン	価格有効開始日
		価格有効終了日
		数量
		出荷元
		出荷先
含有基準	添付ファイル	ファイル ID
		ファイル名
	一般情報	名前
	サブスタンス	名前、サブスタンス・タイプ
サブスタンス	添付ファイル	ファイル ID
		ファイル名、サブスタンス・タイプ
	組成	名前
	一般情報	名前
サプライヤ	部品分類	部品分類
		大陸
		出荷先
	一般情報	名前
		番号 1
	製造元	大陸
		製造元名

オブジェクト	タブ	キー・フィールド
		出荷先
プロジェクト	一般情報	名前
		番号
	アクション・アイテム	割当て先
	ディスカッション	件名
ユーザー	一般情報	一般情報のユーザーID
	ユーザー・グループ	ユーザー・グループのグループ名
ユーザー・グループ	一般情報	一般情報の名前
	ユーザー	グループ内のユーザーのユーザー名

**注意:**

- 「番号」フィールドをマップしない場合、またはソース・ファイルでデータが提供されていない場合、インポート・ウィザードは自動採番ソースを使用して、作成された新規オブジェクトに番号を割り当てます。インポート・ウィザードで使用するデフォルトの自動採番ソースを設定できます。詳細は、「デフォルトの自動採番ソースを設定する」を参照してください。
- 組成タイプによって、組成にインポートできるサブスタンスのタイプが決まります。
  - サブスタンス組成** - サブスタンスとサブスタンス・グループをインポートできます。
  - 均質材組成** - サブパート、マテリアル、サブスタンス・グループ、およびサブスタンスをインポートできます。
  - 部品組成** - サブスタンスはインポートできません。

キー・フィールドに加え、Agile PLM には必須フィールドもあります。PLM 管理者は、オブジェクトの「ページ 1」（「**タイトル・ブロック**」、「**カバー・ページ**」、または「**一般情報**」）、「ページ 2」、「ページ 3」のフィールドを必須フィールドとして設定できます。Agile PLM で新規オブジェクトをインポートするには、必須フィールドすべてを完成させる必要があります。ただし、既存のオブジェクトにデータをインポートする場合は、必須フィールドをマップする必要はありません。インポートのためにフィールドをマップする際、「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウのすべての必須フィールドは**緑の太字**で表示されます。

Agile PLM 必須フィールドのリストは、Web クライアントから Agile クラス・レポートで印刷できます。

Agile PLM オブジェクトによっては、特別なマッピング要件があります。詳細は、以降のセクションを参照してください。

## BOMのマッピング要件

「**タイトル・ブロック**」>「**番号**」および「**BOM**」>「**アイテム番号**」が必須フィールドです。ただし、「**BOM**」>「**見出し番号**」および「**BOM**」>「**数量**」はオプションのキー・フィールドです。「**BOM**」>「**見出し番号**」フィールドをマップしない場合は、インポートされるすべてのアイテムの見出し番号として、「**BOM**」タブに 0 が表示されます。「**BOM**」>「**数量**」フィールドをマッピングしない場合は、「**BOM**」タブのすべての数量において、Agile PLM 管理者が設定したデフォルトの数量が使用されます。

## 見積履歴および公表価格のマッピング要件

見積履歴および公表価格には、インポートで利用できる複数の必須およびオプションのキー・フィールドがあるため、特別なマッピング要件があります。見積履歴、公表価格および公表価格ラインの最小限必要なフィールドの詳細は、70ページの「[見積履歴、公表価格、および公表価格ラインをインポートする](#)」を参照してください。

## マッピング・クラスとサブクラス

アイテム、BOM、および AML のインポートでは、2つのターゲット・クラスがあります。これらのクラスは、ソース・ファイルに含まれている内容によって、マッピングが必要な場合があります。ソース・ファイルに部品とドキュメントの両方が含まれている場合は、マッピングが同じであっても部品クラスとドキュメント・クラスの両方をマッピングする必要があります。

オブジェクトに対して「**タイプ**」フィールドをマッピングしない場合、または特定行の「**タイプ**」コラムが空白の場合は、オブジェクトが存在しているかどうかに関係なく、オブジェクトのデフォルト・タイプが使用されます。たとえば、インポート・ファイルにドキュメントが含まれていて、「**タイプ**」フィールドがマップされていない場合は、インポート・プリファレンスでデフォルトのアイテム・タイプが選択されていると、ドキュメントが部品としてインポートされることがあります。ターゲット・システム内にすでに存在しているインポート・ファイルのアイテムでは、インポートで前提とされているデフォルトのタイプがターゲット・システム内の既存のオブジェクトと一致しない場合は、タイプの不一致による却下エラーが発生します。

インポート・セッションでデフォルト・タイプを指定する方法の詳細は、56ページの「[デフォルト・タイプを設定する](#)」を参照してください。

## 変更指示とマッピング・ファイルを選択する

インポート・ウィザードで「変更指示とマッピング・ファイルを選択してください」というページが表示されたら、次のオプションを使用し変更指示を指定して、マッピング・ファイルを選択できます。

- 「**変更指示**」 - (デフォルトの) レッドライン・モードでインポートしている場合は、「**詳細**」をクリックして変更指示を選択してください。新規作成モードを使用する場合は、変更指示を指定できません。レッドラインの詳細は、76ページの「[レッドラインまたは新規作成モードを使用する](#)」を参照してください。

<b>注意</b>	レッドライン・モードから新規作成モードに変更するには、「 <b>プリファレンス</b> 」をクリックして「 <b>ビジネス・ルール・オプション</b> 」を選択し、「 <b>変更モード</b> 」フィールドの値を変更します。
-----------	--

- 「**既存のマッピング・ファイルを使用する**」 - このオプションを選択したら、マッピング・ファイルのパスを入力するか、「**参照**」をクリックしてファイルを選択します。マッピング・ファイルは、ローカル・システムまたはネットワーク・コンピュータ上に保存されています。マッピング・ファイルを、PLM サーバーには保存できません。
- 「**新規マッピングを作成する**」 - このオプションを選択した場合、ウィザードのステップ 4 でマッピング属性を編集します。
- 「**現在定義されているマッピング定義を使用**」 - このインポート・セッション中に選択したマッピング定義を使用します。マッピング・ファイルをまだ指定していない場合には、このオプションは表示されません。
- 「**デフォルトのマッピング定義を使用**」 - 指定されたファイル・タイプについて、デフォルトのフィールド・マッピングを使用します。このオプションは、定義済のテンプレート・フォーマットを使用していない Excel ファイルおよび区切り文字テキスト・ファイルでは使用できません。



マッピング定義を選択または作成すると、インポート・ウィザードによって、その定義が現在のインポート・セッション用としてメモリー内に保存されます。この後、「インポート」をクリックしてインポート・プロセスを開始するか、「次へ」をクリックして他のオプションを選択します。

## 新規マッピング・ファイルを作成する

新規ソースからデータをインポートする場合は、マッピング・ファイルを作成する必要があります。マッピング・ファイルを作成するには、インポート・データからフィールドを選択し、それらのフィールドを Agile フィールドにマッピングします。


### 新規マッピング・ファイルを作成するには

1. インポート・ウィザードで、「変更指示とマッピング・ファイルを選択してください」のページへ進みます。
2. 「次のステップで属性マッピングを定義」オプションを選択し、「次」をクリックします。
3. 「インポート・フィールド」リストのフィールドをクリックします。


---

**注意** 「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウでは、一度に 1 つのフィールドしか選択できません。ただし、インポート・フィールドは複数の Agile PLM フィールドにマッピングできます。また、「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウにフィールドが表示されない場合は、ソース・ファイルが不正である可能性があります。ソース・ファイルが区切り文字テキスト・ファイルの場合は、ヘッダ行のフィールドに改行またはラインフィールド文字を含めないようにします。

---

4. 「Agile フィールド」リストの対応するフィールドに移動します。マッピングするフィールドをクリックすると、フィールドの横に矢印とマッピング先のインポート・フィールドの名前が表示されます。
5. マッピングするフィールドのすべてについて、手順 3 と手順 4 を繰り返します。
6. すべてのフィールドのマッピングが完了したら、「名前を付けて保存」をクリックします。「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。
7. 「このファイルをディスクに保存する」を選択します。「OK」をクリックします。
8. ファイルの名前を入力し、「保存」をクリックします。

### 「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウでフィールドのマッピングを解除するには

マッピング・フィールドの右のをクリックします。

### 「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウですべてのフィールドを表示するには

「すべて展開」をクリックします。

## 「ページ 2」と「ページ 3」フィールドをマッピングする

「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウでは、表示が有効になっている Agile フィールドのみマッピングできます。ソース・フィールドを「ページ 2」または「ページ 3」フィールドへマッピングするには、Agile PLM 管理者は、これらのフィールドの表示を有効に設定する必要があります。

## 「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウでのフィールドの並び替え

データを PDX パッケージからインポートする場合は、「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウには、インポート・フィールドがパッケージの各ノード内でアルファベット順に表示されます。次の図は、PDX パッケージのフィールドで、アイテム・サブクラスがどのように並び替えられるかを示しています。



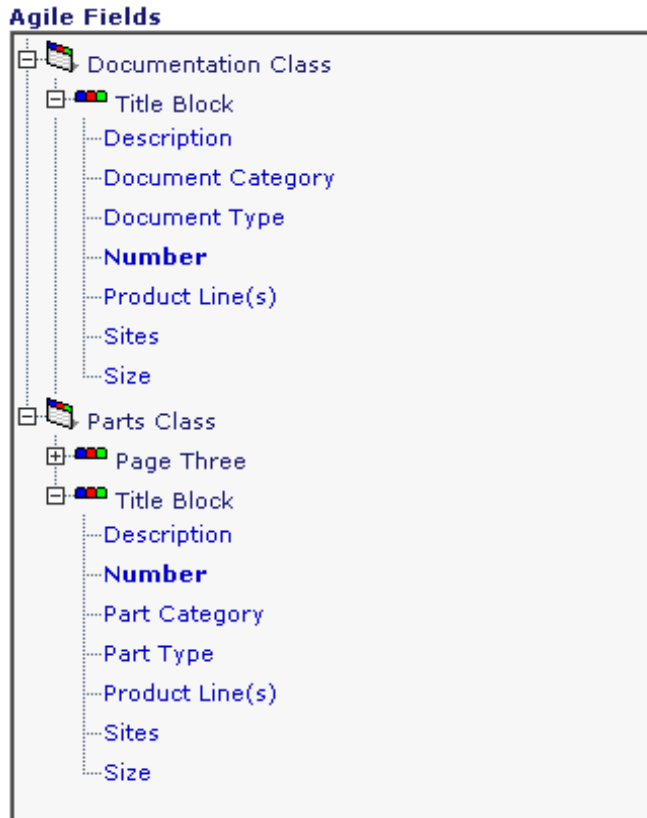
データを区切り文字テキスト・ファイルからインポートする場合には、「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウのインポート・フィールドは並び替えられません。ただし、次の図で示されているように、フィールドはテキスト・ファイルで表示される順番どおりに表示されます。

### Import Fields



テキスト・ファイルでフィールドをマッピングしやすくするために、データのインポート前にフィールドを Excel などの別のアプリケーションで並び替えることもできます。

Agile フィールドは、次の図で示されているように、それぞれのフィールドが属するタブ別にアルファベット順に並び替えられます。



## マッピング・ファイルを再利用する

同じソースのデータ（同じソース・システムから生成される PDX パッケージなど）を定期的にインポートする場合は、ソース・フィールドを Agile フィールドへ正しくマッピングするマッピング・ファイルを保持しておくことができます。

マッピング・ファイルは柔軟性があり、その後のインポート・セッションで再利用できるように設計されています。通常、インポートするソース・データは、インポート・セッションごとに異なります。ただし、マッピング・ファイルに共通のフィールドが含まれている場合は、複数のソース・ファイルに対して同じマッピング・ファイルを再利用できます。たとえば、すべての PDX オブジェクトに対するマッピングが含まれている 1 つのマッピング・ファイルを作成すると、すべての PDX ファイル（アイテムなどの 1 つのタイプのオブジェクトのみが含まれているファイルも含めます）に対して、その特定のマッピング・ファイルを再利用することが可能です。対象フィールドがマッピングされているのに、インポート・ソース・ファイルに存在していない場合、インポート・ウィザードではそのフィールドが無視されインポートされません。

PLM システムの対象フィールドも、インポート・セッションごとに異なります。たとえば、PLM 管理者は、自身のマッピング・フィールドで使用されている可能性のあるフィールドを非表示にできます。対象フィールドがマッピングされているのに、PLM システムで表示が有効になっていない場合、インポート・ウィザードではそのフィールドが無視されインポートされません。

インポート・ソース・ファイルでカラムのヘッダ名を変更した場合は、そのソース・ファイルに対して作成したすべてのマッピング・フィールドが無効になります。データを正常にインポートするには、名前を変更したすべてのフィールドを再度マッピングする必要があります。インポート・ウィザードでは、マッピングされているフィールドであっても、ソース・フィールドで見つからないものはすべて無視されます。

PLM 管理者がマッピング・ファイルで使用されているクラスまたは属性の名前を変更した場合は、インポート・ウィザードでは、内部 ID を参照して対象フィールドを解決します。したがって、名前が変更されたフィールドを参照しているマッピング・ファイルもそのまま有効になります。「マッピング・ファイルをデバッグ」ウィンドウには、インポート・ウィザードが別の名前として解決したすべてのフィールドについて、警告のメッセージが表示されます。

### 既存のマッピング・ファイルを使用するには

1. インポート・ウィザードで、「変更指示とマッピング・ファイルを選択してください」のページに進みます。
2. 「既存のマッピング・ファイルを使用する」を選択します。
3. マッピング・ファイルのパスを指定するか、「参照」をクリックしてファイルを選択します。

---

<b>注意</b>	ファイルを選択したら、次に「選択したマッピングの変更」をクリックして、フィールドのマッピングを確認できます。
-----------	--

---

4. 「次へ」をクリックして続行します。

## マッピング・ファイルを編集する

インポート・ファイルが変更された場合（たとえば、新規データ・カラムが追加された場合）は、関連付けられているマッピング・ファイルを変更する必要があります。変更しない場合、更新されたデータに対してマッピング・ファイルが無効になる可能性があります。

### マッピング・ファイルを編集するには

1. インポート・ウィザードで、「変更指示とマッピング・ファイルを選択してください」のページに進みます。
2. 「既存のマッピング・ファイルを使用する」を選択します。
3. マッピング・ファイルのパスを指定するか、「参照」をクリックしてファイルを選択します。

---

<b>注意</b>	マッピング・ファイルのファイル拡張子は xml です。
-----------	-----------------------------

---

4. ウィザードのステップ 4 でマッピング・ファイルを編集します。

マッピング・ファイルを再利用して新規ソース・ファイルをインポートする場合は、インポート・ウィザードでは、マッピング・ファイルがソース・データと正しく一致していることが確認されます。マッピング・ファイルにエラーが生じる場合は、ウィンドウの上部に「エラー/警告」ボックスが表示されます。ボックスのエラーまたは警告をクリックすると、関連フィールドが強調表示されます。

5. マッピングを編集します。
6. 「名前を付けて保存」をクリックしてファイルを保存します。「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。
7. 「このファイルをディスクに保存する」を選択します。「OK」をクリックします。
8. ファイルの名前を入力し、「保存」をクリックします。

## PDXおよびaXMLパッケージをマッピングする

「変更指示とマッピング・ファイルを選択してください。」ページで「**デフォルトのマッピング定義を使用**」を選択すると、「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウに、Agile の主要なフィールドに対するデフォルトのマッピングが表示されます。カスタム・フィールドはデフォルトではマッピングされないため、手動でマッピングする必要があります。

デフォルトのマッピングは、ソース・ファイルに存在する PDX および aXML エlement のみに割り当てられています。たとえば、ファイルにアイテムのみが含まれ、その他のタイプのインポート・データは存在しない場合は、「マッピング・ファイルを編集」ウィンドウには、アイテム・フィールドに関するデフォルトのマッピングのみが表示されます。後に再利用するために保存されているマッピング・ファイルは、アイテムをインポートする場合にのみ使用できます。

すべてのタイプのインポート・データに対してマッピングするマッピング・ファイルを作成するには、インポート・ウィザードの「インポートするコンテンツを選択」ページですべてのオブジェクトを選択します。このようにすると、選択したソース・ファイルにすべてのオブジェクトが含まれているかどうかに関係なく、すべてのオブジェクトに対してデフォルトのマッピングが割り当てられます。



# 変換定義ファイルを作成する

## この章のトピック

■ 変換定義ファイルについて .....	113
■ 必要なカラムおよびカラム・ヘッダ .....	114
■ PREFIX、SUFFIX、またはREPLACEの操作を使用する .....	115
■ ソース・パターン・フィールドで正規表現を使用する .....	115
■ 空白フィールドをデフォルト値で置き換える .....	116
■ 変換テンプレートを作成する .....	117
■ 異なるタイプのデータを変換する .....	117
■ 変換定義ファイルを再利用する .....	119

## 変換定義ファイルについて

サプライヤやパートナーが作成したソース・データには、互換性のないデータが含まれていることがあります。そのような場合、そのデータは使用している Agile PLM システムでは無効であるか、整合性がありません。インポート先のシステムと互換性を持たせるには、データをインポートする前にいくつかのフィールドの値を変換する必要があります。

変換定義ファイルは、特に PDX や aXML パッケージのデータをインポートする際に便利です。通常、PDX や aXML パッケージは読取り専用です。また、アーカイブ・ファイルに含まれている値は変更できません。PDX や aXML パッケージにデータの不整合がある場合、変換ファイルを使用して修正する必要があります。

変換定義ファイルは、カンマ区切りのテキスト・ファイルです。オプションでファイルのテキスト文字列を二重引用符 (") を使用して修飾できます。ファイルにはインポート・データの変換に必要なフィールドを必ず含めるようにします。

インポート・ウィザードでは、変換定義ファイルはオプションです。インポート先のシステムに合わせてソース・データを修正する必要がない場合、インポート・ウィザードの「変換定義ファイルの選択」手順は省略できます。

インポート・セッションで発生するすべての変換は、インポート・ログ・ファイルに記録されます。

インポート・ウィザードでは、Agile Product Cost Management または Agile Product Collaboration の以前のリリースで作成された変換定義ファイルはサポートされません。

## 必要なカラムおよびカラム・ヘッダ

PDX パッケージから AML データをインポートする場合に変換定義ファイルを使用するときは、AML 行、製造元、および製造元部品の対応する属性が同じ値を持つように、関連オブジェクト（製造元部品番号、製造元名）のフィールドに対して同じ変換を含める必要があります。

カラム・ヘッダ	説明
オブジェクト・タイプ名	インポート先システムのクラスまたはサブクラスの名前（例：部品クラス）。
プロパティ・グループ名	プロパティが含まれているグループ（またはタブ）の名前（例：タイトル・ブロック）。
プロパティ名	対象フィールドの名前。
操作	変換の操作。有効な操作は「REPLACE」、「PREFIX」および「SUFFIX」。
ソース・パターン	ソースの値全体を指定したフィールドと一致させる文字列。正規表現を使用してテキストのパターンと一致させることができます。指定するパターンは大文字と小文字を区別します。
パラメータ値	「ソース・パターン」文字列の変換に使用する置換、接頭辞、または接尾辞のテキスト。

**注意** オプションで「コメント」カラムを追加すると、ファイルの各行をドキュメントに表示することもできます。

また、オプションで「オブジェクト・タイプ ID」、「プロパティ・グループ ID」および「プロパティ ID」の 3 つのカラムを含めることもできます。これらのカラムは変換テンプレートに自動的に表示されます。変換テンプレートはインポート・ウィザードで生成できます。これらのカラムは必須ではありませんが、「オブジェクト・タイプ名」、「プロパティ・グループ名」、および「プロパティ名」のカラムを、内部の固有な Agile ID 番号にマップします。カスタム・フィールドの名前などの Agile のフィールド名が変更された場合は、ID 列で変換定義ファイルの有効性が確認されます。

**注意** カラム・ヘッダーに表示されたカラム名は変更しないでください。指定した名前と正確に一致している必要があります。名前が一致していない場合は、変換定義テーブルは無効になります。

カラムの順序を変更しても問題はありませんが、その場合には必ずカラム・ヘッダも変更します。たとえば、カラム A を「プロパティ名」というカラムに変更できます。

ヘッダ行（カラム名を含む行）はファイルの先頭行にする必要があります。最初のデータ・カラムの左側は空白カラムにはできません。たとえば、Excel ファイルでは表は列 A から始まります。

インポートする 1 つの値について、変換を 1 回しか実行できません。たとえば、同じ値に対して、PREFIX および SUFFIX の両方の変換は使用できません。また、変換を連続させて値を繰り返し修正することもできません。

変換は、変換定義ファイルの上から下に順番に実行されます。インポートするフィールドの値に対して最初の変換のみが使用され、同じ値に対するその他の変換は無視されます。



## PREFIX、SUFFIX、またはREPLACEの操作を使用する

変換定義ファイルを使用すると、値に接頭辞や接尾辞を追加したり値を変換したりできます。

**PREFIX** 操作では、指定した文字列が値の先頭に追加されます。

操作	ソース・パターン	パラメータ値	結果
PREFIX	12345	P-	12345 -> P-12345
PREFIX	1	P-	1 -> P-1

**SUFFIX** 操作では、指定した文字列が値の末尾に追加されます。

操作	ソース・パターン	パラメータ値	結果
SUFFIX	12345	-S	12345 -> 12345-S
SUFFIX	1	-S	1 -> 1-S

**REPLACE** 操作では、値全体が置換されます。値の一部は置換できません。値を空白の文字列で変換することもできません。

操作	ソース・パターン	パラメータ値	結果
REPLACE	12345	67890	12345 -> 67890
REPLACE	1	Agile	1 -> Agile

## ソース・パターン・フィールドで正規表現を使用する

変換定義ファイルの「ソース・パターン」フィールドの値を指定する場合に、正規表現を使用してテキストのパターンと一致させることができます。正規表現では、シンボルまたは構文要素を使用して 1 つ以上の文字を表すことが可能です。

最も簡単な正規表現は、**IPN100012** などのリテラルのテキスト文字列です。「ソース・パターン」フィールドの英数字のすべての文字はソース・データの同じ文字と一致します。

特別なシンボルを使用して、ワイルドカードなどの一般化された方法でテキスト・パターンと一致させることもできます。次の表に、「ソース・パターン」フィールドで使用できる正規表現のシンボルを示します。

シンボル	説明
ピリオド (.)	任意の 1 文字
アスタリスク (*)	直前の文字の 0 回以上の繰返し
プラス (+)	直前の文字の 1 回以上の繰返し
疑問符 (?)	直前の文字が 0 回または 1 回現われる

**注意** 指定するソース・パターンはインポートする値全体と一致している必要があります。一致していない場合、値は変換されません。

正規表現により指定できる変換タイプが拡張されますが、これらのものはオプションです。便利でなければ使用する必要はありません。次の表に、正規表現のいくつかの例を示します。

ソース・パターン	一致する値
.*	すべての値（空の文字列を含む）。
.+	すべての値（空の文字列を除く）。
A.*	A で始まる値。
AGILE.*	AGILE で始まる値。
.*AGILE	AGILE で終わる値。
.*AGILE.*	AGILE を含む値。
P0012+	P0012、P00122、P001222、P0012222 など。ただし、P001 とは一致しません。
P0012*	P001、P0012、P00122、P001222、P0012222 など。
P0012?	P001 または P0012。
P00*20	P020、P0020、P00020、P000020、P0000020 など。
P00.+20	P00020、P00120、P00220、P00320、P00123456789020。ただし、P020 とは一致しません。

## 空白フィールドをデフォルト値で置き換える

変換テンプレートを使用して、マップしたソース・ファイルにデフォルトの値を指定できます。これは変換テンプレートの非常に便利な利用方法です。たとえば、ソース・データで「製品ライン」フィールドが空白の場合にも、空白フィールドをマップして、Agile PLM システムのデフォルトの製品ラインの値にインポートするように設定できます。

デフォルト値で置換する空白のフィールドは、マップする必要があることに注意してください。マップしない場合は、インポート・ウィザードで、マップされていないフィールドがスキップされます。

空白のフィールドを表すには、「ソース・パターン」の文字列で^\$（キャレットとドル記号）を使用します。フィールドに指定する「パラメータ値」は、そのフィールドで有効な値にしてください。

次の図は、ソース・ファイルの空白の「製品ライン」フィールドがデフォルト値の Ultra でどのように置換されるかを示しています。

	A	B	C	D	E	F	G
1	ObjectTypeName	PropertyGroupName	PropertyName	Operation	SourcePattern	ParameterValue	Comments
2	Parts Class	Title Block	Product Line(s)	REPLACE	^\$	Ultra	If the Product Lines field is empty, set it to Ultra

## 変換テンプレートを作成する

インポート・ウィザードでは、変換テンプレートを生成できます。変換テンプレートは、インポート先の Agile PLM システムに対する適切なフィールドが定義されているカンマ区切りのテキスト・ファイルです。

### 変換テンプレートを作成するには

1. インポート・ウィザードの「変換定義ファイルを選択」ページで、「保存された変換ファイルを使用」を選択します。
2. 「変換テンプレートのダウンロード」をクリックします。「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. ファイルをローカル・コンピュータに保存します。
4. 「変換テンプレートのダウンロード」ウィンドウのポップアップで、「OK」をクリックします。

変換テンプレートのデフォルトのファイル名は TransformTemplate.csv です。これはテキスト・エディタまたはスプレッドシート・プログラムで編集可能なカンマ区切りファイルです。

**重要** 「オブジェクト・タイプ名」、「プロパティ・グループ名」および「プロパティ名」のカラム内のデフォルト値は変更しないでください。変更すると、変換に失敗します。これらの値を変更してしまわないように、新規作成による値の入力を避け、テンプレートをダウンロードすることをお勧めします。

変換テンプレートを作成したら、次のカラムに入力します。

- 操作
- ソース・パターン
- パラメータ値

インポート・ウィザードは、操作が定義されていない変換定義ファイルの行をスキップします。ある行の操作を指定した場合は、その行のソース・パターンとパラメータの値も指定する必要があります。

「コメント」カラムはオプションで、各変換をドキュメントに表示する場合に使用します。最も右にある3つのカラム、「オブジェクト・タイプ ID」、「プロパティ・グループ ID」、および「プロパティ ID」は編集できません。これらのカラムには、各フィールドの内部使用の Agile PLM ID 番号が示されています。

## 異なるタイプのデータを変換する

変換するフィールドとデータのタイプによって、変換の考察事項は異なります。このセクションでは、アイテム番号、製造元名、および製品ラインを変換する際の問題について説明します。

次のトピックでは、変換定義ファイルを使用して異なるタイプのインポート・データを修正し、使用している Agile PLM システムで有効にする方法を説明します。

- アイテム番号を変換する
- マルチリストの値を変換する

- 製造元名を変換する
- AML データを変換する

aXML ファイルまたは PDX パッケージから添付ファイルをインポートする場合は、変換定義ファイルを使用して添付ファイルの名前は変更できません。

## アイテム番号を変換する

PLM では、「**タイトル・ブロック**」>「**番号**」フィールドによってアイテムが一意に特定されます。同様に、アセンブリのコンポーネント部品は、「**BOM**」>「**アイテム番号**」フィールドによって特定されます。これらの両方のフィールドに同じアイテム番号を使用できます。

部品構成表 (BOM) をインポートし、アイテムの「**タイトル・ブロック**」>「**番号**」の値を変換する場合は、「**BOM**」>「**アイテム番号**」フィールドに対して同じ変換を使用する必要があります。

「**パラメータ値**」に空白を指定しないでください。インポート・ウィザードでは空白フィールドはスキップされることに注意してください。

次の図に、変換定義ファイルの例を示します。この変換定義ファイルでは、「**BOM**」>「**アイテム番号**」と「**タイトル・ブロック**」>「**番号**」フィールドの両方の値について、それぞれのアイテム番号に接頭辞を追加して変更します。

	A	B	C	D	E	F
1	<b>ObjectTypeName</b>	<b>PropertyGroupName</b>	<b>PropertyName</b>	<b>Operation</b>	<b>SourcePattern</b>	<b>ParameterValue</b>
2	Parts Class	BOM	Item Number	PREFIX	.*	DE-
3	Parts Class	Title Block	Number	PREFIX	.*	DE-

## マルチリストの値を変換する

マルチリスト・フィールドの値がカンマ区切りの文字列として表示されている場合でも、PLM システムでは値の完全なリストに対して文字列を検証します。マルチリスト・フィールドの値を変換するには、値の区切り文字列全体ではなく、個別のリスト値に対してソースおよびターゲットの値を指定します。

アイテムの「**製品ライン**」フィールドは、マルチリスト・フィールドの一例です。値をマルチリスト・フィールドにインポートするには、値はカンマ区切りの文字列である必要があります (インポート・ウィザードで「**プリファレンス**」ボタンをクリックして、マルチリスト区切り文字に対してセミコロンなどの別の文字を指定できます)。たとえば、製品ラインの値は次のようになります。

「Analog, Tools, Memory」

これらの値を、「Analog & Interface Products」、「Development Tools」、および「Memory Products」にそれぞれ変更する場合について考えてみます。次の図のように、変換テンプレートでそれぞれの値に対して単純に REPLACE 操作を指定できます。

	A	B	C	D	E	F
1	<b>ObjectTypeName</b>	<b>PropertyGroupName</b>	<b>PropertyName</b>	<b>Operation</b>	<b>SourcePattern</b>	<b>ParameterValue</b>
2	Parts Class	Title Block	Product Line(s)	REPLACE	Analog	Analog & Interface Products
3	Parts Class	Title Block	Product Line(s)	REPLACE	Tools	Development Tools
4	Parts Class	Title Block	Product Line(s)	REPLACE	Memory	Memory Products

**重要** 製品ラインの値は、Agile のすべてのリストと同様に大文字/小文字が区別されます。

## 製造元名を変換する

承認済製造元リスト、製造元、または製造元部品をインポートする場合に、ソース・データの製造元名が PLM システムで使用されている製造元名と正確に一致しないことがあります。製造元名が少しでも異なる場合、変換定義ファイルを使用して修正する必要があります。無効な製造元名を変換しないと、CPQ や Compaq のように、同じ製造元を示す複数のオブジェクトが残る可能性があります。

次の図に、製造元をインポートする場合に製造元名を修正する変換定義ファイルを示します。ソース・ファイルには、CPQ、DELL、FLEX、MARSHALL、SLCTRN および TI という 6 つの異なる製造元名があります。変換定義ファイルには、これらの名前に対する 6 つの置換値が指定されています。

	A	B	C	D	E	F
1	<b>ObjectTypeName</b>	<b>PropertyGroupName</b>	<b>PropertyName</b>	<b>Operation</b>	<b>SourcePattern</b>	<b>ParameterValue</b>
2	Manufacturers Class	General Info	Name	REPLACE	CPQ	Compaq
3	Manufacturers Class	General Info	Name	REPLACE	DELL	Dell Computer Corporation
4	Manufacturers Class	General Info	Name	REPLACE	FLEX	Flextronics
5	Manufacturers Class	General Info	Name	REPLACE	MARSHALL	Marshall Industries
6	Manufacturers Class	General Info	Name	REPLACE	SLCTRN	Solectron
7	Manufacturers Class	General Info	Name	REPLACE	TI	Texas Instruments

次に、AML の製造元名を修正する類似の変換定義ファイルを示します。

	A	B	C	D	E	F
1	<b>ObjectTypeName</b>	<b>PropertyGroupName</b>	<b>PropertyName</b>	<b>Operation</b>	<b>SourcePattern</b>	<b>ParameterValue</b>
2	Parts Class	Manufacturers	Mfr. Name	REPLACE	CPQ	Compaq
3	Parts Class	Manufacturers	Mfr. Name	REPLACE	DELL	Dell Computer Corporation
4	Parts Class	Manufacturers	Mfr. Name	REPLACE	FLEX	Flextronics
5	Parts Class	Manufacturers	Mfr. Name	REPLACE	MARSHALL	Marshall Industries
6	Parts Class	Manufacturers	Mfr. Name	REPLACE	SLCTRN	Solectron
7	Parts Class	Manufacturers	Mfr. Name	REPLACE	TI	Texas Instruments

## AML データを変換する

PDX パッケージから AML データをインポートする場合に変換定義ファイルを使用するときは、AML 行、製造元、および製造元部品の対応する属性が同じ値を持つように、関連オブジェクト（製造元部品番号、製造元名）のフィールドに対して同じ変換を含める必要があります。

## 変換定義ファイルを再利用する

すべてのタイプのインポート・データについて、データを正しく修正する変換する変換定義ファイルを保持しておくことができます。製造元によって、製品データを入力するための規則が異なる可能性があるため、製造元ごとに変換定義ファイルを作成しておく便利です。

---

**注意** 変換定義ファイルにはわかりやすい名前を付けて、特定の製造元や Agile PLM システムと簡単に関連付けられるようにします。そうしないと、間違った変換定義ファイルを使用してしまい、インポート・データを不適切に修正してしまう可能性があります。

---

**既存の変換定義ファイルを使用する手順は次のとおりです。**

1. インポート・ウィザードの「変換定義ファイルを選択」ページで、「**保存された変換ファイルを使用**」を選択します。
2. 変換定義ファイルのパスを入力するか、「**参照**」をクリックしてファイルを選択します。
3. 「**次へ**」をクリックして続行します。

# データ・インポート後の推奨タスク

## この章のトピック

■ インポート・セッションのステータスを確認する .....	121
■ インポート処理をキャンセルする .....	121
■ インポート・ログを読み取る .....	122
■ トラブルシューティング .....	122

## インポート・セッションのステータスを確認する

大容量のデータをインポートしている場合は、インポート・ウィザードでデータを処理するのに多少時間がかかる場合があります。インポート・ウィザードでは、記録の処理中に、インポートまたは却下された記録の連続カウントが保持されます。また、処理される各オブジェクトに関連するメッセージも表示されます。

インポート・セッションのデータ処理がすべて終了すると、インポート・ウィザードでは警告とエラー・メッセージがログ形式にフォーマットされ、ユーザーはそのログを画面上で表示したりファイルに保存したりできます。

## インポート処理をキャンセルする

インポート・ウィザードで「インポート」をクリックすると、データのインポートが開始されます。このインポート処理はいつでもキャンセルできます。

### 実行中のインポート処理をキャンセルするには

1. 「インポート・ステータス」ページから、「キャンセル」をクリックします。
2. 「実行中のインポートをキャンセルしますか。保存されていないデータは失われます。」というメッセージが表示されます。
3. 「OK」をクリックします。「インポート要約レポート」ページが表示されます。

インポート処理をキャンセルすると、「キャンセル」をクリックした時点ですでにインポートされているデータはすべてデータベース内に保持されます。また、データはバッチでインポートされ、インポート・ウィザードは、キャンセルの結果としてインポート処理を停止する前に、対象のバッチのインポートを終了します。「インポート要約レポート」ページの「処理記録の要約」セクションには、受諾されたオブジェクトの数が表示されます。

## インポート・ログを読み取る

インポート・ウィザードで「インポート」をクリックすると、インポート・サーバーによりデータの処理が開始されます。データの処理が完了すると、ログが表示されます。ログには、次のセクションが含まれています。

- **時刻情報** - インポート・セッションの所要時間を示します。
- **処理記録の要約** - PLM システムにインポートされた記録の数と却下された記録の数を示します。
- **メッセージ要約** - 各オブジェクトに対して生成されたメッセージを示します。

### インポート・ログをXMLファイルに保存するには

1. 「インポート・ログ」ページで、「**ログを保存**」をクリックします。「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「**このファイルをディスクに保存する**」を選択します。「**OK**」をクリックします。ファイル名を入力するか、デフォルトのファイル名 (LogFile.xml) を使用して、「**保存**」をクリックします。
  - LogFile.xml は XML ファイルです。このタイプのファイルは、大部分のアプリケーションで表示用として理想的ではありません。
  - このため、独自の XML テンプレートを使用してログ・ファイルからカスタム・レポートの作成もできます。また、このステップで「別のファイルのインポート」ボタンを使用して別のファイルをインポートすることもできます。

### インポート・ログをHTMLファイルに保存するには

1. 「インポート要約レポート」ページを右クリックして「**ソースの表示**」を選択します。対象ページの HTML ソースがメモ帳で表示されます。
2. 「ファイル」>「名前を付けて保存」の順に選択し、HTML ファイルを保存します。
3. Web クライアントまたは Java クライアントに戻るには、「**完了**」をクリックします。

## トラブルシューティング

データを Agile PLM システムへインポートする際に問題がある場合は、このセクションを読んでください。

### 一般的なエラー・メッセージ

次の表は、データを PLM へインポートする際に示される一般的なエラー・メッセージに関する追加情報です。

問題の領域	エラー・メッセージ	原因
一般	インポート・データのキー・フィールドが空白であるため、レコードをインポートできませんでした。	このエラーは、次の原因によって発生します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>□ マッピング・ファイルが不正です。キー・フィールドをマップする必要があります。</li> <li>□ ソース・ファイルがタブで区切られていますが、インポート・ウィザードのフィールドの区切り文字がカンマに設定されています。</li> </ul>
一般	「テキスト」の値を適切なデータ・タイプ (java.lang.Double) に変換できませんでした。	テキストの値を数値フィールドにインポートしようとした。



問題の領域	エラー・メッセージ	原因
テキスト値	「AttributeName」フィールドで「Character Set Name(s)」の文字セットが有効になっています。	インポートしようとしているテキスト値に、フィールドの文字セットで不正とみなされた 1 つ以上の文字が含まれています。
日付の値	値「12.10.2003」を適当なデータ・タイプ (java.util.Date) に変換できませんでした。	ソース・ファイルの日付の値のフォーマットが、ユーザーのプロファイルで指定されている推奨日付フォーマットに一致していません。
数値	値 " で小数点検証を実行中にデータタイプの不一致が発生しました。正しいデータタイプは java.lang.Number ですが、実際のデータタイプは java.lang.String でした。	空白の行を数値フィールドにインポートしようとしました。
通貨値	値を適当なデータ・タイプ (通貨) に変換できませんでした。	空白の行を通貨フィールドにインポートしようとしました。
Excel ファイル	エラーが発生しました。選択されたファイルは有効な区切りテキスト・ファイルではありません。有効な DTF には、1 つのヘッダ行、および少なくとも 1 つのデータ行が含まれている必要があります。	インポート・ウィザードは、データのインポート前に Excel ファイルを区切りテキスト・ファイルへインポートするため、このメッセージでは区切り文字テキスト・ファイルについて言及しています。選択された Excel ソース・ファイルの最初の行は空白にすることはできません。必ずヘッダ行の正しい場所を指定してください。
マッピング	ルート・エレメントに先行するドキュメントのマークアップは、正しいフォーマットである必要があります。	このエラーは、正しくフォーマットされていない XML (区切り文字テキスト・ファイルなど) のマッピング・ファイルを選択した場合に表示されます。インポート・ウィザードで保存されているマッピング・ファイルを選択する必要があります。
サプライヤ	無効な大陸/国/地域名です。	大陸/国/地域の組合せで表現される地理的な場所として、不正な値を選択しました。
サプライヤ	あなたが作成中の提示は、広義の製造元提示ですすでにカバーされています。	広義の提示ですすでに対象となっている「出荷先」の場所に対して、新しいサプライヤ提示はインポートできません。
マッピング	オブジェクトのプロパティはマップされていますが、キーが完全にはマップされていません。	価格、サプライヤ、顧客などの一部のオブジェクトには、マップする必要があるキー・フィールドがあります。現在のマッピングでは、必要なすべてのキー・フィールドをマップしていません。
価格ライン	有効開始日を有効終了日より後にすることはできません。	終了日付よりも後の開始日付で、価格ラインをインポートしようとしました。
価格ライン	「価格ライン」は重複する価格ラインであるため、価格オブジェクトに対して数量割引が許可されていない場合には処理できません。	価格オブジェクトの「数量割引可」フィールドが「いいえ」に設定されているため、異なる「出荷先」、「出荷元」、「終了日」、「開始日」の値の各セットに対して、1 つの価格ラインしかインポートできません。

## 空白のフィールドをインポートする

インポート・ウィザードを使用する場合は、破壊的な操作は実行できません。既存の Agile データは必ず保持され、破損することはありません。したがって、空白の値を空白以外の Agile フィールドにはインポートできません。インポート・ウィザードでは、空白のソース・フィールドを無視します。

---

**注意**      ソース・データに対して変換を適用すると、空白の値を持つフィールドを空白以外の値を持つフィールドに変更できます。詳細および手順については、「空白フィールドをデフォルト値で置き換える」および 117 ページの「[異なるタイプのデータを変換する](#)」を参照してください。

---

## 必須フィールドすべてをマッピングする

オブジェクトに対しデータをインポートする場合、既存のオブジェクトにデータをインポートする場合でも、常に必須フィールドすべてをマッピングする必要があります。これには、「ページ 2」と「ページ 3」の必須フィールドも含まれます。アイテムの BOM テーブルを更新しようとしている場合、すでに「ページ 2」と「ページ 3」で入力されている必須フィールドは更新しないでください。このような場合、「ページ 2」と「ページ 3」の必須フィールドを、ソース・データの空のカラムにマップできます。前述のとおり、インポート・ウィザードでは、空白のソース・フィールドを無視します。

## 親子フィールドを構成する

一部のフィールドには、他の親フィールドと子の関係にあるものがあります。子フィールドには、親フィールドの値が反映されます。Agile PLM システムの管理者は、システムが正しく機能するように、親/子フィールドが必ず同じように構成されるようにします。

親-子フィールドの例として、アイテムの「**タイトル・ブロック.リビジョン**」フィールドおよび変更指示の「**対象アイテム.新規リビジョン**」フィールドがあります。Agile PLM の管理者は、これらの両方のフィールドを同じように構成する必要があります。異なる場合には、データのインポート時に問題が発生することがあります。たとえば「**タイトル・ブロック.リビジョン**」フィールドにすべての文字が含まれるように設定する場合、「**対象アイテム.新規リビジョン**」フィールドに「アルファベット（大文字）」のみが含まれるようには設定できません。このようにしないと、レッドライン・モードでアイテムをインポートする際に問題が発生します。

親-子フィールドのもうひとつの例として、アイテムの「**タイトル・ブロック.番号**」フィールドと、変更の「**対象アイテム.アイテム番号**」フィールドがあります。これらのフィールドが異なって構成されている場合は、アイテムをインポートする際に問題が発生することがあります。

## サプライヤ提示をインポートする

サプライヤ提示をインポートする場合は、インポート・ウィザードで、「**出荷先**」の場所または地理的な値のいずれかに基づいた格付が存在するかどうかを判断します。この判断は、ソース・ファイルのインポート前にサプライヤのステータスをチェックして行います。ソース・ファイルに矛盾する提示が定義されている場合は、予期しない結果になることがあります。以下に例を示します。

ACME という名前のサプライヤに部品分類提示が定義されていないとします。Agile PLM サーバーでは、「出荷先」の場所として San Jose および Milpitas が定義されています。ここで 2 つの提示を使用してソース・ファイルをインポートしてみましょう。

E	F	G	H	I	J
Commodity	Continent	Country/Area	Region	Ship-To	Rating
CPU	North America	United States	California		Approved
CPU				San Jose	Offered Active

インポート・ウィザードは、地理的な値に基づいて最初の提示を作成します。「出荷先」の場所である San Jose は最初の提示地域の California に含まれているため、2 番目の提示は却下されます。広義の提示によってすでに対象となっている場所の提示は、作成できないことに注意してください。最終的な結果として、広義の 1 つの提示と 2 つの格付が作成されます。San Jose と Milpitas の格付は、提示によって定義されている California 地域に位置付けられ、これらの 2 つの格付は「Approved」の値になります。

**対応策:** 同じ地域内に位置付けられている提示に対する異なる格付をインポートするには、提示およびその格付を 2 つの異なるインポート処理でインポートします。

## スマートルールを管理する

Agile PLM サーバーは、テーブル全体の更新後ではなく、テーブルの各行の更新後にスマートルールに違反していないかどうかをチェックします。BOM、製造元、または価格ラインのテーブルをレッドライン・モードでインポートする場合に、「複数行更新モード」プリファレンスが「すべて置換」に設定されていると、これによって問題が発生することがあります。このような場合には、検証する前にテーブル全体を更新することをお勧めします。

**対応策:** インポートでスマートルールの問題を回避するには、Agile PLM 管理者が Agile Java クライアントを使用して、次のスマートルールを「不可」から「警告」にする必要があります。

- 見出し番号の重複
- 重複アイテム番号
- 重複参照指示
- 製造元部品に複数アイテム
- 価格ライン有効期間の重複

インポート・ウィザードで、「スマート・ルール警告違反動作」プリファレンスを「オブジェクトを受諾する」に設定します。このように設定すると、スマートルール警告が表示される可能性のあるオブジェクトをインポートできます。

## 保留中またはリリース済のアイテムと価格を更新する

保留中またはリリース済のアイテムおよび価格を（レッドライン・モードではなく）新規作成モードでインポートするときに、アイテムまたは価格のみをインポートして変更管理に関するフィールドを何も更新しない場合は、変更指示（ECO または PCO）を指定しないでください。「タイトル・ブロック・ライフサイクル・フェーズ」など、変更管理に関するフィールドを更新する場合は、オブジェクトをインポートするための変更指示を指定する必要があります。

## インポート時の重複レコードの取り扱いについて

パフォーマンス上の理由により、インポート・ウィザードはレコードを 100 のバッチにグループ化し、処理のためサーバーに送信します。サーバーがバッチの処理を完了すると、クライアントは次の 100 個のバッチをサーバーへ送信します。インポート・ウィザードは、重複データが 1 つのバッチや、別のバッチに含まれていても、重複レコードを拒否しません。重複レコードが同じバッチに存在する場合、一致するレコードと組み合わせられ、1 つのオブジェクトとしてカウントされます。重複レコードが 2 つの異なるバッチに存在する場合、インポートされたレコードのカウントは 1 つずつ増えます。

# データをエクスポートする

## この章のトピック

■ エクスポート・ウィザード .....	127
■ エクスポートの権限と役割 .....	127
■ エクスポート可能なオブジェクト・クラス .....	128
■ エクスポート・ファイルのフォーマット .....	129
■ エクスポート・ウィザードを開始する .....	132
■ エクスポート・ウィザードを使用してデータをエクスポートする .....	132
■ フィルタを指定する .....	134
■ 添付ファイルのエクスポート時にフィルタを指定する .....	136
■ ヘッダーを指定する .....	138
■ ファイルをダウンロードする .....	138
■ エクスポートしたファイルを表示する .....	138

## エクスポート・ウィザード

Agile PLM には使いやすいエクスポート・ウィザードが用意されており、選択したオブジェクトからデータを抽出し、そのデータをエクスポートする際に役立ちます。エクスポート・ウィザードは、Web クライアントまたは Java クライアントから起動できます。データのエクスポートは簡単です。エクスポート・ファイルをコンピュータにダウンロードし、そのファイルを電子メールや FTP を使用してサプライチェーン・パートナーに送信したり、別のアプリケーションにインポートしたりできます。

## エクスポートの権限と役割

エクスポート・ウィザードを使用するには、エクスポート権限が必要です。エクスポート権限は、次のサポートされている役割に含まれています。

- (限定) マテリアル・プロバイダ
- 変更分析者
- 適合性管理者
- コンテンツ・マネージャ
- アイテム・コンテンツ・マネージャ
- 価格管理者
- 価格マネージャ
- 製品コンテンツ読取り専用
- ソーシング管理者

**注意** これらの役割および権限は、PLM システム管理者によって割り当てられます。エクスポート・タイプの権限があると、「適用先」フィールドまたはプロパティを使用して、添付ファイルのエクスポートを制御（有効化/無効化）できます。「適用先」フィールドで使用できるオプションは「添付ファイル」です。詳細は、添付ファイルのエクスポートに関する項を参照してください。

## エクスポート可能なオブジェクト・クラス

次の表では、エクスポート・ウィザードでエクスポートされるオブジェクトのタイプを説明します。

基本クラス	クラス
製造元	製造元
製造元部品	製造元部品
価格	見積履歴
	公表価格
変更	変更指示（ECO）
	変更要求（ECR）
	期限付き変更指示クラス
	製造元依頼（MCO）
	価格変更（PCO）
	拠点毎変更（SCO）
	出荷停止クラス
デクラレーション	均質材のデクラレーション
	部品のデクラレーション
	IPC 1752-1 デクラレーション*
	IPC 1752-2 デクラレーション*
	JGPSSI デクラレーション*
	サブスタンスのデクラレーション
	適合のサプライヤ・デクラレーション
ディスカッション	ディスカッション
部品グループ	部品分類
	部品ファミリ
プログラム	アクティビティ（ルート・プログラムの場合のみ）
プログラム・サービス依頼	不具合レポート・クラス
	PR（問題レポート）
品質変更要求	検証

	是正予防処置
含有基準	含有基準
サブスタンス	マテリアル
	サブパート
	サブスタンス・グループ
	サブスタンス
サプライヤ	サプライヤ
ユーザー	ユーザー
ユーザー・グループ	ユーザー・グループ

\* このデklarレーション・クラスでは、特別なエクスポートおよびインポート・コマンドが提供されます。これらのコマンドによって、サプライヤはデータを他のAgile PLMシステムと統合したり、適合性リクエスト・フォームをMicrosoft ExcelやAdobe Readerなどの他のクライアントで完成できます。84ページの「[特別なエクスポートおよびインポート・コマンドを使用してデklarレーションを完成する](#)」を参照してください。

## エクスポート・ファイルのフォーマット

Agile PLM データは、Microsoft Excel、カンマ区切りのテキスト・ファイル（CSV）、または PDX パッケージの各フォーマットにエクスポートできます。次の表では、各フォーマットでエクスポート可能なオブジェクトを説明します。

オブジェクト	Excel/CSV	PDX	aXML
アイテム	はい	はい	はい
製造元	はい	はい	はい
製造元部品	はい	はい	はい
変更	はい	はい	はい
価格	はい		はい
デklarレーション	はい		はい
部品グループ	はい		はい
含有基準	はい		はい
サブスタンス	はい		はい
プログラム	はい		
プログラム・サービス依頼	はい		はい
品質変更要求	はい		はい
サプライヤ	はい		はい
ディスカッション	はい		はい
ユーザー	はい		はい

オブジェクト	Excel/CSV	PDX	aXML
ユーザー・グループ	はい		はい

PDX および aXML パッケージには、テキスト・データに加え、添付ファイルとレッドラインを含めることができます。PDX パッケージは、PDX 対応のアプリケーションでのみ表示またはインポート可能です。Agile には、これらのファイルを表示する Agile eXpress という無料の PDX ビューアが用意されています。

**注意** エクスポート・ウィザードで作成された CSV ファイルには、PLM のインポート・ウィザードではインポートされない追加ヘッダー情報が含まれます。これらのファイルから Agile PLM にデータをインポートするには、インポート・ウィザードの「区切り文字テキスト・ファイル設定」ダイアログ・ボックスでヘッダー行を正しく設定する必要があります。

## Microsoft Excelファイルおよびテキスト・ファイルへのエクスポートに関するガイドライン

データを Microsoft Excel ファイルへエクスポートすると、単一のワークシートになります。データをテキスト (CSV) ファイルへエクスポートすると、カンマ区切りのデータ・ファイルになります。いずれのファイル・タイプの場合も、Microsoft Excel で開いて、データを表形式で表示できます。

Web クライアントを使用してデータを Microsoft Excel またはテキスト・ファイルへエクスポートする場合は、次のガイドラインを使用してください。

- エクスポートできるのは、単一のオブジェクトまたは複数のオブジェクトです。各オブジェクトのタブは区切りテキストとして、テキスト・ファイル内に順々に出力されます。複数のオブジェクトをエクスポートした場合は、エクスポート・ファイルにオブジェクトが順々に追加されます。
- エクスポートできるのは、含まれているオブジェクトのタブに表示されている情報のみです。たとえば、ある BOM の 1 つの部品をエクスポートすると、エクスポートされたファイルには、その部品の「BOM」タブの情報が格納されますが、実際の BOM のアイテムは格納されません。
- 次のオブジェクトは追加できません。
  - 削除されたオブジェクト
  - 必要な権限が付与されていないオブジェクト
  - エクスポート・ファイルにすでにあるオブジェクト
- 「添付ファイル」タブの情報は、テキスト・ファイルへエクスポートできますが、実際の添付ファイルはエクスポートできません。実際の添付ファイルをサポートしているのは、PDX ファイルおよび aXML ファイルのみです。
- エクスポートできるのは、アイテムの「拠点」タブ、およびアイテム、製造元、製造元部品の「使用箇所」タブです。
- アイテムをフィルタする際に「製造元タブ」を選択し、BOM のエクスポート対象レベル数を選択した場合、エクスポート・ファイルには、その BOM の選択したレベル数に関する AML 情報が格納されます。
- エクスポート・ファイルに BOM および AML の両方のデータを含めた場合、エクスポートされたファイルには、AML データと BOM データが交互に出力されます。
- アイテムは、次に示すように、BOM 階層内での位置に関係なくレベル・テンプレート・フォーマットでエクスポートできます。
  - a. Web クライアントで、アイテム（部品など）を選択します。
  - b. 「アクション」>「Microsoft Excel」>「Excel へエクスポート」（または「テンプレートのダウンロード」）の順に選択します。

タイトル・ブロック、BOM、および製造元タブ・データが格納された Excel ファイルがエクスポートされます。



## aXMLおよびPDXパッケージへのエクスポートに関するガイドライン

Agile Extensible Markup Language (aXML) 形式は、Agile PLM のビジネス・スキーマの XML 表現です。aXML には、Agile PLM で管理されているすべての製品コンテンツが含まれます。転送依頼が発行されると、aXML ファイルを含む ZIP ファイルと添付書類が作成されます。

PDX (Product Data Exchange) パッケージには、アイテムまたは変更の詳細、BOM データ、製造元情報、図面、および他の添付ファイルなどの製品コンテンツが含まれています。PDX パッケージが Agile パッケージ・オブジェクトと異なる点は、PDX 1.0 規格に準拠する XML ベースのドキュメントであることです。PDX パッケージは、XML フォーマットの構造化データをエンコードするための業界標準フォーマットに基づいています。この標準では、アプリケーションに依存せずに製品コンテンツを説明できます。

aXML および PDX パッケージを使用すると、Agile システムから他のシステムにデータを送信できます。データをコンピュータにダウンロードしたり、これらのパッケージを電子メールまたは FTP で送信することもできます。PDX パッケージの場合は、Agile eXpress などの PDX 対応アプリケーションにインポートできます。

DTDへのリンクなど、PDXについての詳細は、次のWebページを参照してください。

<http://webstds.ipc.org/2571/2571.htm>

ユーザー、Web クライアント、および Agile サーバー間で伝達されるデータは（合法な場合）暗号化されており、サプライ・チェーン・パートナーは互いのパッケージのコンテンツを表示できないため、各 aXML または PDX パッケージ内の情報は安全に保護されます。許可されていないユーザーによるパートナー情報へのアクセスを防ぐために、Agile 管理者には、ログイン権限、ディスカバリ権限、および読取り権限を設定できます。

---

**注意** Agile eXpress は、アイテムの「**拠点**」タブ、またはアイテム、製造元、製造元部品の「**使用箇所**」タブはサポートしていません。これは PDX パッケージにのみ該当します。

---

Web クライアントを使用してデータを aXML または PDX パッケージへエクスポートする場合は、次のガイドラインを使用してください。

- データを aXML または PDX パッケージへエクスポートするにはエクスポート権限が必要です。
- 削除されたオブジェクト、適切な権限のないオブジェクト、または「抽出するオブジェクト」テーブルにすでに追加されているオブジェクトは追加できません。
- Web クライアントでは、アイテムの最新リリースのリビジョンに直接アクセスできます。また、バック・リビジョンまたは保留中のリビジョンにアクセスすることもできます。
- 変更オブジェクトをエクスポートすると、カスタム・フィルタを使用して、レッドラインをエクスポートし、影響を受けたアイテムのBOMとAMLを変更できます。137ページの「[対象アイテムのレッドラインBOMとAMLをエクスポートする](#)」を参照してください。
- PDX パッケージには「**拠点**」および「**使用箇所**」タブ情報が含まれていますが、これらは <拠点> や <使用箇所> などの独自の要素なしで、追加属性としてエクスポートされます。
- PDX ファイルへのエクスポートを選択した場合、アイテムと製造元部品の「**適合性**」タブはエクスポートされません。これは PDX パッケージにのみ該当します。
- Agile eXpress は、アイテムの「**拠点**」タブ、またはアイテム、製造元、製造元部品の「**使用箇所**」タブはサポートしていません。これは PDX パッケージにのみ該当します。

---

**注意** Web クライアントでは、aXML または PDX パッケージを作成できますが、表示することはできません。

---


## エクスポート・ウィザードを開始する

エクスポート・ウィザードは、次のいずれかの方法で、Web クライアントまたは Java クライアントから開始できます。

### Java クライアント

- エクスポートするオブジェクトを開いて、「ツール」>「エクスポート」の順に選択します。

### Web クライアント

1. 「ツール」  > 「エクスポート」の順に選択します。
2. エクスポートするオブジェクトを開いて、「アクション」>「エクスポート」の順に選択します。
3. 「検索結果」ページで 1 つ以上のオブジェクトを検索および選択してから、「詳細」>「エクスポート」の順に選択します。
4. 左側のウィンドウの「私のブックマーク」および「最近訪れたところ」からオブジェクトを選択およびコピーし、「エクスポート」ダイアログに貼り付けます。

**注意** 検索結果からは任意のオブジェクトを選択できますが、エクスポート・ウィザードでは、すべてのオブジェクト・タイプがサポートされているわけではありません。

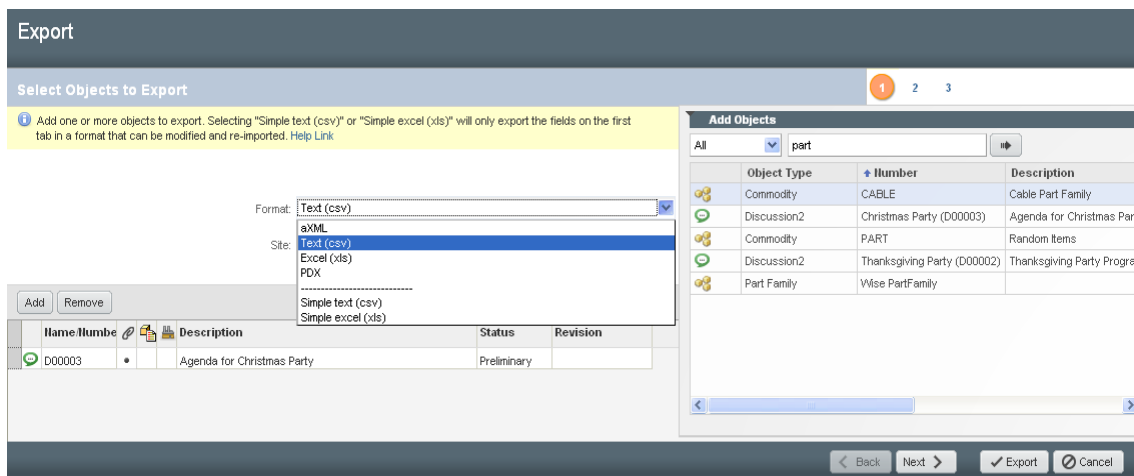
## エクスポート・ウィザードを使用してデータをエクスポートする

このセクションでは、エクスポート・ウィザードのステップについて説明します。ほとんどのステップはオプションです。残りのステップが完了していなくても、任意のステップでエクスポート・ファイルをダウンロードするよう選択できます。

### ファイルにデータをエクスポートするには

1. エクスポート・ウィザードを開始します。オプションについては、132ページの「[エクスポート・ウィザードを開始する](#)」を参照してください

「エクスポートするオブジェクトの選択」ページが表示されます。「アクション」>「エクスポート」の順に選択してエクスポート・ウィザードを開始した場合、または検索結果でオブジェクトを選択してからエクスポート・ウィザードを開始した場合、このページにはいくつかのオブジェクトがすでに表示されています。



2. 「フォーマット」フィールドのドロップダウン・リストを使用して、PDX パッケージ、aXML、Excel (XLS)、テキスト (CSV)、単純テキスト (CSV)、または単純 Excel (XLS) ファイルのいずれにエクスポートするかを指定します。
3. 「拠点」フィールドで拠点を選択します。すべての拠点のデータをエクスポートするには、「すべて」を選択します。

---

**注意** 「拠点」フィールドを使用できるのは、Agile システムに拠点のサーバー・ライセンスがある場合のみです。

---

4. リストにオブジェクトを追加する必要がない場合は、ステップ 6 へ進みます。オブジェクトを追加するには、「追加」をクリックします。  
「検索」パレットが表示されます。
5. 該当するオブジェクトを検索します。
6. 必要なオブジェクトをダブルクリックするか、「エクスポートするオブジェクトの選択」ダイアログにドラッグ・アンド・ドロップします。
7. 必要な場合は、「リビジョン」カラムの値を調整します。
8. オブジェクトを検索してすべてのオブジェクトをエクスポート・ファイルへ追加したのち、「次へ」をクリックして「フィルタ」ページを表示します。
9. フィルタ機能を使用すると、エクスポート・ファイルに追加する情報を指定できます。フィルタの詳細は、「フィルタを指定する」を参照してください。
  - あらかじめ定義されているフィルタを使用するには、「事前定義済みのフィルタ」を選択し、使用するフィルタをドロップダウン・リストから選択します。フィルタの詳細を表示するには、「詳細」をクリックします。
  - この処理に対してカスタム・フィルタを定義するには、「カスタム・フィルタの作成」を選択します。これを選択すると、この後に、ファイルの各オブジェクト・タイプについてのフィルタ定義を指定するステップが示されます。
10. 「次へ」をクリックして、フィルタの選択ステップから先に進みます。
11. 「カスタマイズ」を選択した場合は、それぞれの「フィルタ」ページで、ファイルに含める情報を選択し、「次へ」をクリックして「見出しの定義」ページへ進みます。
12. ファイル・タイプと説明を入力し、「エクスポート」をクリックします（テキスト・ファイルへエクスポートする場合は、ファイル上部にヘッダー情報が表示されます）。「要約」ページが表示されます。
13. すべてが完了したら、「エクスポート」をクリックしてエクスポート・ファイルをコンパイルおよびダウンロードします。テキスト・ファイルにエクスポートする場合は、現在のユーザーのログイン・プロファイル設定に従って、エクスポート・ファイルのエンコード・タイプが設定されます。通貨の設定は、Web クライアントまたは Java クライアントを使用して表示または変更できます。
  - Web クライアントでは、「設定」>「ユーザー・プロファイル」>「プリファレンス」>「編集」の順にクリックします。
  - Java クライアントでは、「設定」>「現在のユーザー」>「プリファレンス」の順にクリックします。
14. 「閉じる」をクリックして、「ファイル・ダウンロード」ウィンドウを閉じます。

---

**注意** オブジェクトの「アクション」メニューまたはグローバル・エクスポートからオブジェクトを aXML フォーマットでエクスポートする場合は、エクスポート・ファイルを .axml.zip 拡張子で保存できます。 .axml.zip 拡張子なしでファイルを保存するには、「名前を付けて保存」ダイアログの「名前を付けて保存」タイプ・オプションを「すべてのファイル」に変更し、「保存」をクリックします。これによって、ファイルが aXML フォーマットで保存されます。

---

15. 「キャンセル」をクリックし、エクスポート・ウィザードを閉じます。

## フィルタを指定する

フィルタ機能を使用すると、エクスポート・ファイルに追加する情報を指定できます。Web クライアントでは、Agile 管理者によって定義されている保存されたフィルタを使用することも、カスタム・フィルタを作成することもできます。Agile クライアントでは、ユーザー事前定義済みのフィルタを作成し、エクスポート中に使用できます。

## 保存されたフィルタを使用する

エクスポート・ウィザードの「コンテンツ・フィルタの選択」ステップで「事前定義済フィルタの使用」を選択した場合は、対応可能なすべてのオブジェクト・タイプに対して定義されているフィルタ・リストから選択できます。これらのフィルタは、PLM 管理者により、Java クライアントを使用して定義されます。詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』の「Agile Content Service の設定」の章を参照してください。

選択したフィルタの詳細を表示するには、対応する「詳細」ボタンをクリックします。「事前定義済フィルタの使用」オプションを選択しても、使用するフィルタを選択しない場合、エクスポート・ウィザードではデフォルトのカスタマイズ・フィルタが使用されます。135ページの「[システム・デフォルト・フィルタを使用する](#)」を参照してください。

アイテムと変更の「エクスポート」フィルタ・リストには、スーパークラス（アイテムおよび変更）のフィルタのみが含まれています。クラスに対して特別に定義されているフィルタ（部品、ドキュメント、ECO、MCO など）は、エクスポート・フィルタ・リストには含まれていません。たとえば、エクスポート・ファイルに ECO と ECR が含まれている場合には、選択した変更フィルタが両方のオブジェクトに適用されます。同様に、エクスポート・ファイルに部品とドキュメントが含まれている場合は、選択したアイテム・フィルタが両方のオブジェクトに適用されます。

## BOMフィルタを使用する

エクスポート・ファイルに BOM 情報を含める場合は、BOM 情報のレベルを次のオプションから指定する必要があります。

- 「**タブのみ**」（管理者によって設定されている保存されたフィルタ）または「**BOM タブ**」（カスタム・フィルタ） - すべてのフォーマットで、BOM タブ自体の情報、および BOM タブのアイテム（第 1 レベルのみ）に対する参照のみが含まれます。この BOM オプションのみを選択すると、BOM アイテム自体は含まれません。
- 「**タブとアイテム**」
  - 「**タブとアイテム**」、「**すべてのレベル**」（管理者によって設定されている保存されたフィルタ）または「**BOM アイテム**」、「**すべてのレベル**」（カスタム・ファイル） - PDX および aXML フォーマットの場合は、BOM のすべてのレベルのすべてのアイテムが含まれます。Excel および CSV フォーマットの場合、「BOM」タブのすべてのレベルにあるアイテムへの参照は含まれますが、アイテム自身は含まれません。
  - 「**タブとアイテム**」、「**BOM レベル**」（管理者によって設定されている保存されたフィルタ）または「**BOM アイテム**」、「**BOM レベル**」（カスタム・フィルタ） - PDX および aXML フォーマットの場合は、BOM の指定されたレベル（1、2、...最後）のアイテムが含まれます。サブアセンブリの子コンポーネントは含まれません。Excel および CSV フォーマットの場合は、BOM タブの指定されたレベルのアイテムに対する参照が含まれますが、アイテム自体は含まれません。

## カスタム・フィルタを作成する

カスタム・フィルタを作成すると、選択したオブジェクト・タイプに対するエクスポート・タブを指定できるようになります。

### カスタム・フィルタを作成するには

1. エクスポート・ウィザードの「フィルタ」ページで「**カスタム・フィルタの作成**」をクリックします。
2. 「**次へ**」をクリックします。
3. 選択されたオブジェクトの各タイプについて、ウィザードのページが順番に表示されます。オブジェクトのそれぞれのタイプについて、エクスポート・ファイルに含める情報のチェックボックスを選択し、「**次へ**」をクリックします。

**注意** デフォルトのカスタム・フィルタを使用するには、各フィルタ・ページで「**次へ**」をクリックします。

## システム・デフォルト・フィルタを使用する

システム・デフォルト・フィルタは、「**カスタマイズ**」を選択して、設定を変更せずにフィルタの各ステップを進んだ場合に使用されるフィルタと同じです。

使用するコンテンツのフィルタを指定せずにエクスポート・ファイルを作成した場合、エクスポート・ウィザードは次のガイドラインに従います。

- ウィザードのステップ 1 でエクスポート・ファイルをダウンロードすると、エクスポートされるコンテンツはシステム・デフォルト・フィルタに基づいてフィルタされます。
- ウィザードのステップ 2 でエクスポート・ファイルをダウンロードすると、ステップ 2 での選択に基づいてコンテンツがフィルタされます。この場合に、「**カスタマイズ**」を選択しても、フィルタを定義するステップへ進まないと、システム・デフォルト・フィルタが使用されます。「**事前定義済みのフィルタ**」を選択しても、使用するフィルタを選択しない場合、エクスポート・ウィザードではシステム・デフォルト・フィルタが使用されます。

システム・デフォルト・フィルタを使用すると、エクスポート・ファイルには次の情報が含まれます。

- **アイテム** - 「タイトル・ブロック」、「ページ 2」、「ページ 3」、「適合性」、「サプライヤ」、「BOM」タブ（および BOM アイテムのすべてのレベル）、「製造元」、アイテムの「価格」、「拠点」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）
- **製造元部品** - 「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）
- **製造元** - 「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）
- **変更** - 「カバー・ページ」、「ページ 2」、「ページ 3」、「対象アイテム」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）
- **価格** - 「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「価格ライン」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）
- **サブスタンス** - 「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「組成」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）
- **デクラレーション** - 「カバー・ページ」、「アイテム」、「ページ 2」、「ページ 3」、「アイテム BOS(含有物質明細)」、「製造元部品」、「製造元部品 BOS(含有物質明細)」、「部品グループ」、「部品グループ BOS(含有物質明細)」、「適合性」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）

- **含有基準** - 「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「サブスタンス」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）
- **部品グループ** - 「一般情報」タブ、「ページ 2」、「ページ 3」、「部品」、「適合性」、「サプライヤ」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）
- **プログラム** - 「一般情報」、「依存関係の依存対象」、「チーム」、「依存関係の必須対象」、「ディスカッション」、「アクション・アイテム」、「ページ 2」、「スケジュール」、「ページ 3」
- **製品サービス依頼** - 「関係」、「対象アイテム」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）、「関連 PSR」、「ページ 3」、「カバー・ページ」、「ページ 2」
- **品質変更要求** - 「PSR アイテム」、「関係」、「カバー・ページ」、「対象アイテム」、「ページ 2」、「添付ファイル」（およびエクスポート・フォーマットが PDX または aXML の場合は添付ファイル）、「ページ 3」
- **ディスカッション** - 「ディスカッション」、「ページ 2」、「ページ 3」
- **ユーザー** - 「一般情報」タブ、「ページ 2」、「プリファレンス」、「ユーザー・グループ」
- **ユーザー・グループ** - 「一般情報」タブ、「ページ 2」、「ユーザー」、「ページ 3」

## 添付ファイルのエクスポート時にフィルタを指定する

aXML および PDX の場合、選択したタブ・リストに「添付ファイル」タブがある場合は、「添付ファイル・オプション」を選択できるため、「タブのみ」または「タブとファイル」を選択できます。「タブとファイル」を選択した場合は、エクスポート出力ファイルに含めるファイル拡張子のカンマ区切りリストを指定できます。エクスポートの対象をファイル・タイプでフィルタすると、BOM タイプ・データをサプライヤにエクスポートするときに、CAD 図などの特定のファイルを除外するオプションが提供されます。

## PLMオブジェクトをエクスポートする

次の各セクションでは、これらのオブジェクトに対してサポートされている各ファイル形式のエクスポートについて説明します。

### PSR、QCR、およびサプライヤ・オブジェクトをエクスポートする

オブジェクト・タイプを選択した後は、選択した PLM オブジェクトをエクスポートする手順とオプションは基本的に同じです。サポートされているテーブルとコンポーネントは、次のとおりです。

- **製品サービス依頼** - 「カバー・ページ（ページ 1）」、「ページ 2」、「ページ 3」、「対象アイテム」、「関連 PSR」、「関係」、「添付ファイル」、および「履歴」。サポートされているファイル形式は、CSV/Excel と aXML です。
- **品質変更要求** - 「カバー・ページ（ページ 1）」、「ページ 2」、「ページ 3」、「対象アイテム」、「関係」、「添付ファイル」、および「履歴」。サポートされているファイル形式は、CSV/Excel と aXML です。
- **サプライヤ** - 「一般情報」、「ページ 2」、「ページ 3」、「コンタクト・ユーザー」、「RFX ルーティング」、「製造元」、「部品分類」、「PSR」、「関係」、「添付ファイル」、および「履歴」。サポートされている形式は、CSV/Excel と aXML です。

### PSR、QCR、またはサプライヤ・オブジェクトをエクスポートするには

1. ターゲット・オブジェクト（PSR、QCR、またはサプライヤ）を選択して開きます。
2. ターゲット・オブジェクトに対して「アクション」>「エクスポート」の順に選択します。
3. 「エクスポート先:」（「aXML」、「テキスト（CSV）」または「Excel」）>「次へ」の順に選択し、適用可能なファイル・タイプを選択します。
4. 「フィルタ」で、適用可能なフィルタを選択します。「次へ」をクリックします。
5. 「エクスポート・プロパティの指定」ステップで、「タイプ」を指定し、適切な説明を入力します。これは必須ではありません。
6. 「エクスポート」をクリックしてプロセスを完了します。

## 対象アイテムのレッドラインBOMとAMLをエクスポートする

PDX または aXML エクスポート形式を選択した場合は、変更オブジェクトのエクスポート時に「**レッドライン変更のみ**」という追加のフィルタ・オプションを使用できます。このオプションは、変更された BOM 要素のみが変更対象アイテムのレッドライン・セクションに含まれることを示します。未変更の要素は除外されます。この後、エクスポートされた PDX または aXML ファイルは、BOM と AML 変更のサプライ・チェーン・パートナへの通信に使用されます。

この機能は、デルタ処理のために設計された ERP アダプタを対象としています。エクスポートした PDX または aXML ファイルの ERP アダプタへの送信には、Agile Content Service (ACS) を使用できます。

### レッドラインBOMおよびAMLをインポートするには

1. 変更オブジェクト（ECO など）を開きます。
2. 「アクション」>「エクスポート」を選択します。
3. エクスポート形式として「PDX」を選択します。「次へ」をクリックします。
4. エクスポート・ウィザードの「フィルタ」ページで「カスタム・フィルタの作成」をクリックします。「次へ」をクリックします。
5. 「フィルタ変更」ページで、「対象アイテム・タブ」>「対象アイテム」および「レッドライン変更のみ」のボックスがチェックされていることを確認してください。

---

**注意** 「レッドライン変更のみ」ボックスが選択され、「対象アイテム」ボックスが選択されていない場合、対象アイテムとレッドライン・テーブルはエクスポートされません。

---

6. 「次へ」をクリックして、その他の設定を設定します。
7. 「エクスポート」をクリックして、プロセスを完了します。

## オブジェクトの関係テーブルをエクスポートする

「アイテム」、「変更」、「製造元」、「製造元部品」、および「部品グループ」オブジェクトが CSV/Excel または aXML ファイルとして含まれている関係テーブルをエクスポートできます。aXML ファイル形式の場合は、**ControlObjStatus** および **EffectObjStatus** という 2 つの追加タグがあります。これらは関係ルールを表します。エクスポートした aXML ファイルは、同一または別のシステムにインポートできます。

関係テーブルの詳細は、『Agile PLMスタート・ガイド』を参照してください。手順については、132ページの「[エクスポート・ウィザードを使用してデータをエクスポートする](#)」を参照してください。

## 同じアイテムの複数のリビジョンをエクスポートする

エクスポートでは、同じアイテムの複数リビジョンが各リビジョン・リリース日の順序で出力されます。保留中のリビジョンは、出力ファイルの最初に表示されます。その後、初期のリリースから最近のリリースまで、リリースされたリビジョンが続きます。

## ヘッダーを指定する

エクスポート・ウィザードの「見出しの定義」ページでは、エクスポート・ファイルを説明するオプションの見出し情報を指定できます。「タイプ」および「説明」フィールドに値を入力します。「作成者」フィールドには、自動的に現在のユーザー名が表示されます。

## ファイルをダウンロードする

エクスポート・ウィザードの残りのステップが完了していなくても、任意のステップでエクスポート・ファイルをダウンロードできます。エクスポート・ファイルをダウンロードする前にフィルタ情報を指定しなかった場合、使用されるデフォルト・フィルタについては、135ページの「[システム・デフォルト・フィルタを使用する](#)」のシステム・デフォルト・フィルタに関する説明を参照してください。

### エクスポート・ファイルをダウンロードするには

1. エクスポート・ウィザードで「エクスポート」をクリックします。
2. 「保存」をクリックして、コンピュータにファイルを保存します。

ブラウザの「保存」ダイアログが表示されます。

## エクスポートしたファイルを表示する

テキスト・ファイルをエクスポートした場合は、Microsoft Excel などのスプレッドシート・プログラムや任意のテキスト・エディタで表示できます。PDX パッケージをエクスポートした場合は、Agile eXpress または他の PDX 対応アプリケーションを使用して表示できます。

Agile eXpressビューアは、次のWebサイトから無料でダウンロードできます。

<http://www.myagile.com/eservices/express/>



# FileLoad を使用する


## この章のトピック

■ 概要 .....	139
■ 作業を開始する前に .....	141
■ プロセスの概要 .....	144
■ インデックス・ファイルを準備する .....	145
■ 添付ファイルの処理 .....	152
■ 結果を評価する .....	154
■ 却下された添付ファイルを修正して再ロードする .....	155
■ エラー・メッセージ .....	156

## 概要

FileLoad は、ソース・システムから Agile ファイル・マネージャにレガシー添付ファイルを直接ロードする際に使用するユーティリティです。ロード先では、レガシー添付ファイルが適切な Agile PLM オブジェクトに添付されます。ファイルはほとんどの Agile PLM オブジェクトに添付できます。

FileLoad をアクティブにするには次のように選択します。

- Java クライアントのメニュー・バーで「ツール」>「Fileload」
- Web クライアントで「ツールおよび設定」アイコン  >「Fileload」

## FileLoadクライアントを選択する

Web クライアントと Java クライアントにはいずれも FileLoad ユーティリティがあります。2 つはよく似ていますが、性能、提供するオプションが多少異なります。

機能	Java クライアント	Web クライアント
ファイルのロード	はい	はい
リファレンスを URL にロード (Web の場所)	はい	はい
リファレンスを「カスタム」(読取り専用) ファイル格納庫 (INPLACE 添付ファイル) のファイルにロード	はい	
最大 40 GB のファイルをサポート	はい	はい
複数の専用スレッドをサポート	はい	

機能	Java クライアント	Web クライアント
ファイルのリモート・アップロードをサポート	はい	はい
ローカル・コンピュータのファイルを検出 (ネットワークの場所が指定されている場合を除く)	はい	
Web プロキシサーバのファイルを検出(ネットワークの場所が指定されている場合を除く)		はい
データを添付ファイル設定フィールドにロード可能	はい	はい
複数ファイルを1つのファイル・フォルダにロード可能	はい	はい
指定されたバージョンが見つからない場合、最新バージョンにファイルを添付可能	はい	はい
確定アイテムにファイルを添付可能	はい	はい
指定された場所にログ・ファイルを生成	はい	
サーバーにログ・ファイルを生成。ファイルをローカル・コンピュータにダウンロード可能		はい

## パフォーマンス

FileLoad は Java クライアントでより速く稼働しますが、パフォーマンスはクライアントとサーバー・コンピュータの性能により異なります。クライアントとサーバー・コンピュータがマルチプロセッサ・タイプの場合は、Java クライアント使用時における FileLoad のパフォーマンスが大幅に向上します。

## FileLoadによるファイル検出方法

ファイルのネットワークの場所を指定した場合を除き、Java クライアント FileLoad ユーティリティはローカル・コンピュータのファイルを検出します。一方、Web クライアント FileLoad ユーティリティは Web プロキシ・サーバー（アプリケーション・サーバーと同じコンピュータである場合があります）でファイルを検出します。

どちらのAgile PLMクライアントのFileLoadユーティリティも、ネットワーク・パスを通してリモートからファイルにアクセスできます。詳細は、142ページの「[リモートからファイルをアップロードする](#)」を参照してください。

## ファイルにリファレンスをロードする

Java クライアントの FileLoad ユーティリティは追加の添付ファイル・タイプ **INPLACE** をサポートしています。INPLACE 添付ファイル・タイプを使用し、カスタム・ファイル格納庫にあるファイルにリファレンスをアップロードできます。ファイルへのリファレンスは Agile PLM データベースに保存されますが、実際の物理ファイルはカスタム格納庫に保存されます。このカスタム格納庫は読取り専用です。カスタム格納庫に格納されているファイルはチェックアウトできますが、再びチェックインした場合は、その格納庫のプライマリ読取り/書込み場所にコピーされます。リファレンスをファイルに読み込もうとする前に、カスタム格納庫がセットアップされていることを確認してください。143 ページの「[カスタム・ファイル格納庫の設定](#)」を参照してください。

**注意** Web クライアント FileLoad ユーティリティは **INPLACE** 添付ファイル・タイプをサポートしていません。

## FileLoad のオプション

FileLoad のユーザー・インタフェースは、ご利用の Agile PLM クライアントにより異なります。FileLoad オプションのリストについては、152 ページの「[添付ファイルの処理](#)」にある表を参照してください。

## 作業を開始する前に

FileLoad を使い始める前に、使用環境を整え、このセクションで説明されている適切な権限があることを確認してください。

## ファイル・サイズとバッチ制限

FileLoad は最大 40 GB のファイルをサポートしています。また、1 回のバッチで多数のファイルを処理できます。1 回のバッチ処理につき、15,000 ファイルを超えないことをお勧めします。

## 全文検索インデックスの同期を無効にする

FileLoad を使用する前に、ファイルの全文検索インデックスの同期を無効にしてください。全文検索インデックスの同期が有効に設定されていると、FileLoad は進行状況を報告せず、長時間のアップロード時にブラウザがタイムアウトになり、ファイルのローディングがきわめて遅くなります。FileLoad の使用が終わったら、ファイルの全文検索インデックスの同期を再度有効にできます。

**全文検索インデックスの同期を無効にする手順は次のとおりです。**

1. Agile Java クライアントを起動し、管理者としてログインします。
2. 「管理」タブをクリックします。
3. 「設定」>「システム設定」>「全文検索」を選択します。  
「全文検索」のウィンドウが表示されます。
4. 「インデックス」リストをクリックし、「手動」または「スケジュール済」を選択します。
5. 「スケジュール済」を選択した場合、「周期」フィールドをクリックし、ファイル・ロードが完了した後インデックスを開始するスケジュールを決めてください。
6. 「保存」をクリックします。

Agile PLM での全文検索インデックス設定の変更方法の詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

## ウィルスソフトを無効にする

ウィルス駆除ツールを使用している場合、FileLoad を使用する前に無効にしてください。ウィルス駆除ツールは新たにアップロードされたファイルをスキャンするため、ロード・プロセスが遅くなります。

## 必要とされるAgile PLM権限

FileLoad を使用して Agile PLM オブジェクトに添付ファイルをロードするには、Agile PLM クライアントでこれらのオブジェクトを変更する際と同じ権限を持っている必要があります。つまり、ファイルに添付するすべてのオブジェクトに対して修正権限を持っていることが必要になります。

さらに、必要な FileLoad 権限も持っていなければなりません。

Agile PLM の役割と権限を変更するには、Agile PLM 管理者にお問い合わせください。

## ローカル・ドライブからファイルをアップロードする

ローカル・ドライブからファイルをアップロードすることをお勧めします。これは、ネットワークに保存されたファイル、特に大きなもの場合は、FileLoad が中断されてしまい、ロード・プロセスが一部不完全なままになってしまう恐れがあるためです。

## リモートからファイルをアップロードする

ローカル・ドライブからのファイル・アップロードをお勧めしていますが、リモートからファイルをアップロードすることも可能です。リモート・コンピュータからファイルをアップロードする前に、次の点に留意してください。

- 添付ファイルを保存する共有フォルダがあること。
- Agile Web クライアントを使用している場合、Agile Application Server (System for Windows や Root for Solaris など) を実行している OS ユーザーは、参照されたファイルへの読取り権限が必要。
- Agile Java クライアントを使用している場合、クライアント・コンピュータにログインしている OS ユーザーは、参照されたファイルへの読取り権限が必要。
- インデックス・ファイルにネットワーク・パスが含まれていること。例:

```
ITEM,P00001,,\computer\sharedfolder\file.txt,FILE,description
```

これらの基準を満たしていない場合、ファイルをリモートからアップロードしようとすると、次のようなエラー・メッセージが表示されます。

「添付するファイルが見つかりません。」

## LinuxまたはSolarisサーバー上のPLMにファイルをアップロードする

PLM が Linux または Solaris サーバー上で動作している場合に PLM クライアントからファイルをアップロードする際のルールは次のとおりです。

### WindowsベースのPLM Webクライアントからファイルをアップロードするには

- アップロードするファイルが、アプリケーション・サーバーを実行しているプラットフォームと同じプラットフォーム上に存在することを確認します。
- Linux または Solaris プラットフォームにロードするファイルのパスをインデックス・ファイルで指定します。  
例: ITEM,P00001,,/slot/ems4741/appmgr/customvault/file.txt,FILE,description


### WindowsベースのPLM Javaクライアントからファイルをアップロードするには

- アップロードするファイルが、Java クライアントが起動された Windows プラットフォームと同じプラットフォーム上に存在することを確認します。
- Linux または Solaris プラットフォームにロードするファイルのパスをインデックス・ファイルで指定します。  
例: ITEM,P00001,,H:/customvault/file.txt,FILE,description

## カスタム・ファイル格納庫の設定

Java クライアントを使用して、リファレンスをカスタム・ファイル格納庫に保存されたファイルへアップロードする場合、PLM 管理者はまず格納庫を設定する必要があります。Agile ファイル・マネージャの管理の詳細は、『Agile PLM 管理者ガイド』を参照してください。

**カスタム・ファイル格納庫を設定する手順は次のとおりです。**

1. Java クライアントを起動し、管理者としてログインします。
2. 「管理」タブをクリックします。
3. 「サーバー設定」>「サーバーの場所」の順に選択します。「サーバーの場所」ウィンドウが表示されます。
4. 「ファイル・マネージャ」タブをクリックして前面に表示します。
5. エントリをダブルクリックし、「ファイル・マネージャ」のダイアログ・ボックスを表示します。
6.  ボタンをクリックし、新規格納庫を追加します。
7. 「格納庫タイプ」のフィールドで、「カスタム」を選択します。
8. 「説明」フィールドで、格納庫の説明を入力します。
9. 「ベース・ストレージのディレクトリ」フィールドで、ファイルが保存される主な場所を入力します。このディレクトリの下に、ファイルを含むサブディレクトリを含むこともできます。
10. 「OK」をクリックします。
11. ファイル・マネージャを再起動します。

---

**注意** カスタム格納庫を設定した後に Agile ファイル・マネージャを再起動しないと、FileLoad ユーティリティは格納庫を認識できません。

---

## プロセスの概要

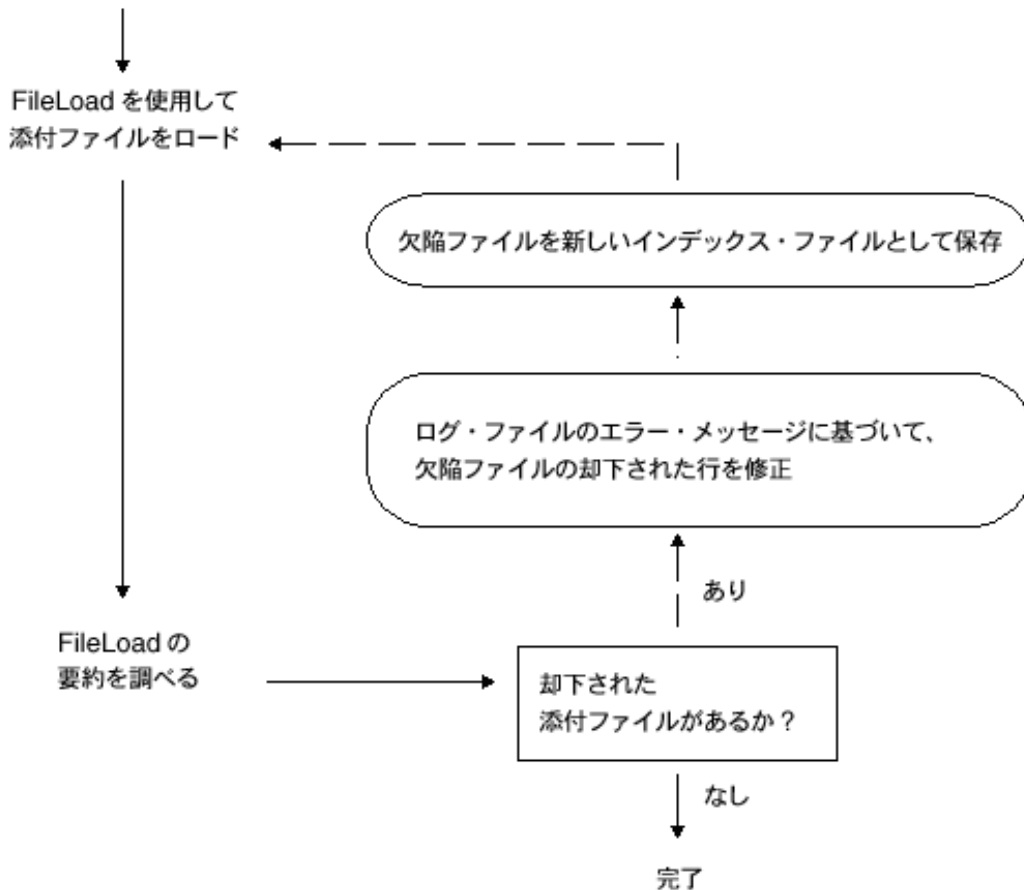
FileLoad プロセスには次のような段階があります。各段階については、次の項で詳細に説明します。

- **第1段階: インデックス・ファイルを準備する** (145ページの「[インデックス・ファイルを準備する](#)」を参照してください) - 添付インデックス・ファイルを準備します。
- **第2段階: 添付ファイル进行处理する** (152ページの「[添付ファイルの処理](#)」を参照してください) - FileLoad とインデックス・ファイルを使用して、添付ファイル进行处理します。
- **第3段階: 結果を評価する** (「[結果を評価する](#)」を参照してください) - 結果を評価します。添付ファイルが却下された場合は、FileLoad のログ・ファイルを開き、エラー・メッセージを確認します。
- **第4段階: 却下された添付ファイルを修正し、再ロードする** (155ページの「[却下された添付ファイルを修正して再ロードする](#)」を参照してください) - 却下された添付ファイル行を欠陥ファイル内で修正します。欠陥ファイルを新しいインデックス・ファイルとして保存し、ロードします。

添付ファイルが正しくロードされるまで、第3段階と第4段階を繰り返します。

次の図に、FileLoad プロセスの概要を示します。

### インデックス・ファイルの準備



**重要** 1回の変更でロードするアイテムの数は、200 ～ 300個にすることをお勧めします。1回の変更で対象とするアイテムの数が多くなると、FileLoadではファイルをロードするのに時間がかかり、その変更で対象とするアイテムのリビジョンを提示するのにも時間がかかります。

## インデックス・ファイルを準備する

FileLoad を使用して添付ファイルをバッチ単位でロードするための手順として、最初に添付インデックス・ファイルを準備します。インデックス・ファイルはテキスト・ファイルです。各行は Agile PLM 添付ファイルとしてロードする 1 つのファイルを表します。

更新された行には、カンマなどで区切られたエントリが少なくとも 6 つ含まれている必要があります。ユーザー設定フィールドへの情報のアップロードをサポートするために、追加の属性値ペアを指定できます。

## インデックス・ファイルの構造

インデックス・ファイルの各行は次のような構造になっています。

オブジェクト・タイプ、プライマリ・キー、セカンダリ・キー、パス/ファイル名、添付ファイル・タイプ、説明  
[,属性1=値1,属性2=値2,...属性n=値n]<改行>

詳細は次のとおりです。

- オブジェクト・タイプ** = オブジェクト・タイプを定義するキーワードです。
- プライマリ・キー** = 指定されたオブジェクト・タイプのプライマリ・キー・フィールドの値です。ほとんどのオブジェクトでは、プライマリ・キーはオブジェクト番号です。指定するオブジェクトはすでに存在する必要があります。FileLoad はオブジェクトを作成できません。
- セカンダリ・キー** = 指定されたオブジェクト・タイプのセカンダリ・キー・フィールドの値です。オブジェクトがセカンダリ・キーを必要としない場合、このフィールドは空白にしておきます。
- パス/ファイル名** = URL または完全なパスとファイル名です。
- URL を指定する場合は、正しく記入してください。FileLoad は URL を検証できません。
- INPLACE 添付ファイル（下記参照）については、指定するパスがカスタム・ファイル格納庫のベース・ストレージ・ディレクトリと関連している必要があります。たとえば、ベース・ストレージのディレクトリが d:/files の場合、ロードするファイルが d:/files/cad/0021c.dwg に保存されている場合、cad/0021c.dwg のように相対パスを入力します。ファイル・マネージャは、一致する最初のファイルが見つかるまで、すべての格納庫（標準格納庫とカスタム格納庫の両方）を反復します。
- 注意:** Windows は円記号 (¥) のパスに対応していますが、Solaris とその他の UNIX OS はこれに対応していません。このため、この章のパスの例では、スラッシュが使用されています。
- 添付ファイル・タイプ** = 次のいずれかの値（大文字小文字を区別します）を入力してください。
- **FILE** - ファイルを標準ファイル格納庫にアップロードします。
  - **URL** - オブジェクトにURL添付ファイルを追加します。URLは、<http://www.agile.com> などのWebの場所です。FTPサイトなど、HTTPのURLではないものも指定できます。
  - **INPLACE** - カスタム・ファイル格納庫に保存されたファイルにリファレンスをアップロードします。読取り専用です。
- 注意:** INPLACE 添付ファイル・タイプは、PLM 管理者によりカスタム格納庫が設定されている場合にかぎり、Java クライアントでのみサポートされています。
- 説明** = オプションのファイル説明です。
- [,属性 1=値 1,属性 2=値 2,...属性 n=値 n] = データをユーザー設定フィールドにロードする際に使用する、任意の属性名と属性値の組み合わせです。属性名と値のデフォルトの区切り文字はイコール記号 (=) ですが、他の文字も指定できます。各属性/値の組み合わせを、カンマなどの属性区切り文字で区切ってください。

次に示すのは、インデックス・ファイルの行の例です。

```
ITEM,P00010,,C:/temp/logo_color.bmp,FILE,Description="Fileload,Test",Date01=12/12/00,List01=Select1,Text01="Test_Fileload",Text02=DFSF<CR>
```



この行が正しく読み取られるためには、「説明」属性の値が「Fileload, Test」である必要があります。カンマがエントリの区切り文字として解釈されないように、カンマを含むテキストは引用符で囲まれています。

**プライマリ・キー**と**セカンダリ・キー**のフィールド内容の要求条件は、添付ファイルのオブジェクト・タイプによって異なります。各オブジェクト・タイプに対する特定必要条件は、148ページの「[プライマリおよびセカンダリ・キー](#)」で説明されています。

以下にインデックス・ファイルの構造についての基本的な情報を示します。

- すべての添付ファイルのユーザー設定フィールドは、Java クライアントの「管理」タブで有効に設定されている必要があります。インデックス・ファイルで使用されており、有効に設定されていないユーザー設定フィールドは、FileLoad によるエラー報告を招きます。

---

**注意**      管理者権限が割り当てられていない場合は、管理者の機能にはアクセスできません。詳細は、Agile PLM 管理者へ問い合わせてください。

---

- 各フィールドは、カンマなどの区切り文字で分離します。インデックス・ファイル全体で同じ区切り文字を使用します。インデックス・ファイルで使用されている区切り文字は、FileLoadユーティリティで選択する「**属性区切り文字**」と一致する必要があります。区切り文字オプションの詳細は、152ページの「[添付ファイルの処理](#)」にある表を参照してください。
- ユーザー設定フィールドの属性と値は、他のインデックス行で使用されている区切り文字とは別の区切り文字で分離する必要があります。
- 区切り文字が 2 つ続く場合、フィールドが空白であることを示します。カンマ区切りファイルでは、空白フィールドは「,,」のように 2 つのカンマで表現されます。カンマの間にスペースはありません。
- 各行には、最低 6 つの区切りフィールドが含まれている必要があります。
- 1 つの添付ファイルを示す各行の行末には改行が必要です。
- 100 ～ 200 行の比較的小さいインデックス・ファイルは、動作の監視や問題の迅速な解決に役立ちます。
- Agile PLM では、ターゲット・オブジェクトの確定日は変更されません。
- 一時ファイルに対応するため、FileLoad では、1 つのインデックス・ファイルでロードされる添付ファイルのサイズの 2 倍のディスク容量が必要です。すべての添付ファイルを同時にロードするだけの十分な容量がない場合、添付ファイルの合計サイズが小さいインデックス・ファイルを多数作成して、それぞれに要する容量を削減します。一時ファイルは、ロード・プロセスが終了すると自動的に削除されます。
- ファイルが正常に添付されると、オブジェクトの「**履歴**」タブに記録されます。
- 文字の最大数は次のようになります。
  - ファイル名 - 255 文字または「**ファイル・フォルダ**」>「**ファイル**」>「**ファイル名**」フィールドの「MaxLength」（**最大文字数**）のプロパティで指定した文字数の、どちらか少ない方です。
  - 「説明」フィールド - 100 文字または「**ファイル・フォルダ**」>「**ファイル**」>「**ファイルの説明**」フィールドの「MaxLength」（**最大文字数**）のプロパティで指定した文字数の、どちらか少ない方です。

## オブジェクト・タイプ・キーワード

下表には、FileLoad がサポートする各基本クラスのオブジェクト・タイプ・キーワードを表示しています。インデックス・ファイルの「オブジェクト・タイプ」フィールドでこれらのキーワードを使用します。

オブジェクト・タイプ	キーワード
変更	CHANGE
デklarレーション	DECLARATION
ファイル・フォルダ	FILEFOLDER
アイテム	ITEM
製造元	MFR
製造元部品	MFR_PART
部品グループ	COMMODITY
価格	PRICE
製品サービス依頼	PSR
プログラム	ACTIVITY
品質変更要求	QCR
見積依頼	RFQ
見積依頼回答	RESPONSE
ソーシング・プロジェクト	PROJECT
含有基準	SPECIFICATION
サブスタンス	SUBSTANCE
サプライヤ	SUPPLIER

## プライマリおよびセカンダリ・キー

下表には、FileLoad がサポートする各オブジェクト・タイプで必要とされるプライマリおよびセカンダリ・キーを表示しています。オブジェクトがセカンダリ・キーを必要としない場合、インデックス・ファイルのこのフィールドは白紙のままにしておきます。

オブジェクト・タイプ	プライマリ・キー	セカンダリ・キー
変更	変更番号	[空白]
デklarレーション	デklarレーション番号（「カバー・ページ」>「名前」フィールドと同等）	[空白]
ファイル・フォルダ	ファイル・フォルダ番号	バージョン（オプション）  151ページの「 <a href="#">ファイル・フォルダ・サブクラスまたはデザイン・サブクラスにファイルをロードする</a> 」を参照してください。

オブジェクト・タイプ	プライマリ・キー	セカンダリ・キー
アイテム	アイテム番号	リビジョン (オプション) 149ページの「 <a href="#">アイテム・リビジョン</a> 」を参照してください。
製造元	製造元名	[空白]
製造元部品	製造元部品番号	製造元名
部品グループ	部品グループ番号	[空白]
価格	価格番号	[空白]
製品サービス依頼	製品サービス依頼番号	[空白]
プログラム	プログラム番号	[空白]
品質変更要求	品質変更要求番号	[空白]
見積依頼	見積依頼番号	[空白]
見積依頼回答	見積依頼番号	サプライヤ番号
ソーシング・プロジェクト	プロジェクト番号	[空白]
含有基準	含有基準番号	[空白]
サブスタンス	サブスタンス番号	[空白]
サプライヤ	サプライヤ番号	[空白]

## アイテム・リビジョン

アイテムのファイルをロードしている場合、「セカンダリ・キー」フィールドでオプションのリビジョン識別子を指定できます。有効なリビジョン識別子を使用してください。たとえば、あなたの会社は A、B、C、D などの文字を使用してリビジョンを識別できます。次の例では、リビジョン A のファイルをロードします。

**ITEM,P00561,A,D:/dwg/00561a.dwg,FILE,Torque Widget**

**重要** 「リビジョン」フィールドには「?」を指定しないでください。使用されている場合、FileLoad ユーティリティはエラーとなります。

初版リビジョン（新規作成され、まだ繰り返されていないもの）を指定する場合、次の例のように、「セカンダリ・キー」フィールドは空白にします。

**ITEM,P00545,,D:/dwg/00545.dwg,FILE,Battery Cover**

保留中リビジョン（変更指示がまだリリースされていないもの）を指定する場合、次の例のように、リビジョンを括弧で囲みます。

**ITEM,P00561,(B),D:/dwg/00561b.dwg,FILE,Torque Widget**

**注意** インデックス・ファイルでリビジョンが誤って指定されると、FileLoad ユーティリティでは「指定したリビジョンが見つからない場合、最新のリビジョンに添付」という名前のオプションがこれら进行处理します。

## インデックス・ファイルの例

このセクションでは、カンマで区切られたインデックス・ファイルがどのような構造になっているかを例で示します。これらの例では、異なるインデックス・ファイルでFILE、INPLACE、URL 添付ファイル・タイプなどの使用を示していますが、これらを同じファイルで指定することもできます。

### ファイルのアップロードに使用されるインデックス・ファイルの例

次の行は、FILE 添付ファイル・タイプを使用する、カンマ区切りのインデックス・ファイルから取ったものです。オブジェクト・タイプはアルファベット順に配置されています。

```
ACTIVITY,PG0278,,D:/myprograms/phasecost.doc,FILE,Phase Cost Report
ITEM,P00545,,D:/dwg/00545.dwg,FILE,Battery Cover
ITEM,P00561,A,D:/dwg/00561a.dwg,FILE,Torque Widget
ITEM,P00561,(B),D:/dwg/00561b.dwg,FILE,Torque Widget
CHANGE,25000,,D:/dwg/00561b.dwg,FILE,Torque Widget
COMMODITY,PG0278,,D:/groups/guidelines.doc,FILE,Part Group Guidelines
DECLARATION,MD00007,,D:/docs/DecInstr.doc,FILE,Instructions
FILEFOLDER,DESIGN00011,1,D:/docs/Design.doc,FILE,Design Document
FILEFOLDER,FOLDER00042,,D:/specs/92master.doc,FILE,9.2 Master Spec
MFR,Manutech,,D:/dwg/0021c.dwg,FILE,Torque Widget
MFR_PART,WE10023-45,Manutech,D:/dwg/0021c.dwg,FILE,Torque Widget
PRICE,CONTRACT00001,,D:/pricing/price_sheet.xls,FILE,Price Sheet
PROJECT,PRJ00046,,D:/projects/dell/resources.xls,FILE,Resource Spreadsheet
PSR,PR00004,,D:/pr/sn00241.doc,FILE,Support Notes
QCR,CAPA00001,,D:/capa/details.doc,FILE,Problem Details
RESPONSE,RFQ00001,SUP00067,D:/rfq/notes.doc,FILE,Notes
RFQ,RFQ00001,,D:/quotes/guidelines.doc,FILE,Price Quote Guidelines
SPECIFICATION,SPEC0023,,D:/specs/rohs.doc,FILE,ROHS Guidelines
SUBSTANCE,SUB0104,,D:/subs/cas_numbers.doc,FILE,CAS Numbers
SUPPLIER,DISTRIBUTOR00001,,D:/suppliers/wextronics.doc,FILE,Wextronics Profile
```

### ファイルにリファレンスをアップロードする際に使用されるインデックス・ファイルの例

次の行は、INPLACE 添付ファイル・タイプを使用する、カンマ区切りのインデックス・ファイルから取ったものです。

**重要** INPLACE 添付ファイル・タイプは、Java クライアントで FileLoad ユーティリティを使用しており、Agile PLM 管理者がカスタム (読取り専用) ファイル格納庫を設定している場合のみ対応可能です。143 ページの「[カスタム・ファイル格納庫の設定](#)」を参照してください。Web クライアントの FileLoad ユーティリティは INPLACE 添付ファイルをサポートしていません。

```
ITEM,P00240,A,dwg/00240a.dwg,INPLACE,CAD Drawing
ITEM,P00262,B,dwg/00262b.dwg,INPLACE,CAD Drawing
ITEM,P00262,(C),dwg/00262c.dwg,INPLACE,CAD Drawing
ITEM,P00310,A,dwg/00310a.dwg,INPLACE,CAD Drawing
ITEM,P00337,A,dwg/00337a.dwg,INPLACE,CAD Drawing
FILEFOLDER,DESIGN00011,1,Design.doc,INPLACE,Design Document
```

## URLのアップロードに使用されるインデックス・ファイルの例

次の行は、URL 添付ファイル・タイプを使用する、カンマ区切りのインデックス・ファイルから取ったものです。

```
FILEFOLDER,FOLDER00010,,http://www.yourcompany.com,URL,Home Site
FILEFOLDER,FOLDER00010,,http://www.yourcompany.com/Mfg/,URL,Manufacturin
g Services Site
FILEFOLDER,FOLDER00010,,http://www.google.com,URL,Google
```

## 複数のファイルを同じファイル・フォルダにロードする

インデックス・ファイルの連続した行に同じプライマリ・キー値がある（つまり、同じオブジェクトを参照している）場合、FileLoad は各ファイルに対し個別のファイル・フォルダを作成するか、またはファイルを 1 つのフォルダにまとめることができます。たとえば、1 つのインデックス・ファイルから取った次の行は、同じアイテム 76-2063 を参照しています。

```
ITEM,76-2063,D,C:/load/fileload/2063P1.tif,FILE,AMP Specifications
ITEM,76-2063,D,C:/load/fileload/2063P2.tif,FILE,
```

「各ファイルに対する個別フォルダの作成」という名前のボックスのチェックを解除すると、同じ説明が両方のファイルに対して使用され、同じファイル・フォルダに追加されます。「各ファイルに対する個別フォルダの作成」のボックスがチェックされている場合、個別のファイル説明で、別々のファイル・フォルダが作成されます。

同じプライマリ・キー値を持つ連続した行に対して、個別のファイル・フォルダとファイル説明を作成するもう 1 つの方法は、行と行の間に改行で空の行を追加することです。これは、「各ファイルに対する個別フォルダの作成」ボックスがチェックされているいらないにかかわらず、機能します。ただし、同じプライマリ・キー値を持つ連続した行は、同じ添付ファイル・タイプを持たなければなりません。FILE と URL 添付ファイルは、同じファイル・フォルダに追加できません。

## ファイル・フォルダ・サブクラスまたはデザイン・サブクラスにファイルをロードする

ファイル・フォルダ・サブクラスまたはデザイン・サブクラスにファイルをロードする方法は次のとおりです。

- インデックス・ファイルに空白のバージョン（セカンダリ・キー）値を指定する - この場合、ファイル・フォルダ・オブジェクトはチェックアウトされ、新しいバージョンが作成されます。ファイル・ロードにより、インデックス・ファイルで指定したファイルが追加され、オブジェクトがチェックインされます。  
または
- インデックス・ファイルのバージョン（セカンダリ・キー）値フィールドにバージョン番号を指定する - セカンダリ・キー・フィールドにバージョンを指定すると、FileLoad ツールにより、指定したバージョンにファイルがロードされます。

**重要**      チェックアウトされたバージョンにファイルをロードすることはできません。

## ファイル・マネージャによるINPLACEファイル検出方法

ファイルを検出するために、ファイル・マネージャは、一致する最初のファイルが見つかるまで、すべての格納庫（標準格納庫とカスタム格納庫の両方）を反復します。異なる格納庫に重複した名前のファイルが複数ある場合は、間違った INPLACE ファイルにリファレンスをアップロードする可能性があります。ファイル格納庫にある INPLACE ファイルを一意に識別するためには、ファイル名が一意でない場合でも、そのパスは一意である必要があります。

**注意** ファイル・マネージャ情報は、サーバーの起動時にダウンロードされ、キャッシュされます。新規のカスタム（読取り専用）格納庫を追加するために Java クライアントを使用する場合は、必ずファイル・マネージャを再起動してください。再起動しない場合、ファイル・マネージャは新規の格納庫を見つけることができません。

## 添付ファイルの処理

添付インデックス・ファイルを作成したら、FileLoad を起動して添付ファイル进行处理します。

**注意** 他のユーザーが、他のファイル格納庫へファイルをロードする権限を持っている可能性があることに注意してください。様々なユーザー（日中、夜勤など）について多数のファイルのロードを管理している場合は、処理で使用しているコンピュータでのログイン・ユーザーの影響に注意してください。

FileLoadを開始する手順は次のとおりです。

1. 「ツール」>「Fileload」（Java クライアントの場合）または「ツールおよび設定」>「Fileload」（Web クライアントの場合）の順に選択します。
2. インデックス・ファイルと他の FileLoad オプションを指定します。オプションの一覧については、次の表を参照してください。
3. 「OK」（Java クライアントの場合）をクリックするか「ロード」（Web クライアントの場合）を選択して、ファイルのロードを開始します。

次の表は、FileLoad オプションの一覧とその説明です。

オプション	説明
インデックス・ファイル	「参照」をクリックして添付ファイル・インデックス・ファイルを検索し、選択してください。添付インデックス・ファイルのパスとファイル名が表示されます。 <b>注意:</b> インデックス・ファイルでは、.LOG および.BAD をファイル名の拡張子として使用しないことをお薦めします。インデックス・ファイルの内容が ASCII エンコードであれば、インデックス・ファイルの拡張子として任意のものを使用できますが、混乱しないような拡張子を選択してください。
属性区切り文字	インデックス・ファイルで使用する区切り文字を選択します。「タブ」または「その他」を選択して、フィールドに他の区切り文字を入力できます。「その他」区切り文字には、次の文字を指定できます。 <スペース> ,   ; ' [ ] ' < > ? " { } ~ ! @ # \$ % ^ & * ( ) _ + - = ALT キーとキーパッドの文字を同時に押して作成する文字は、使用できません。英数字は使用しないでください。 <b>注意:</b> 「属性区切り文字」、「属性名と値の分離文字」、「テキスト修飾語句」、「マルチリスト区切り文字」のフィールドでは、コロン (:)、ピリオド (.)、スラッシュ (/)、円記号 (¥) を使用しないでください。これらの文字は、ファイル名やパスとして使用される場合があります。
属性名と値の分離文字	インデックス・ファイルで使用する区切り文字を選択します。この区切り文字についても、属性の区切り文字で説明したルールに従いますが、他の区切り文字と重複することはできません。
テキスト修飾語句	インデックス行内のテキスト文字列を指定するための区切り文字です。有効な区切り文字であれば指定できますが、引用符の使用をお薦めします。この区切り文字についても、属性の区切り文字で説明したルールに従いますが、他の区切り文字と重複することはできません。

オプション	説明
マルチリスト区切り文字	<p>この区切り文字は、マルチリスト・フィールドのエントリを区切るために使用します。デフォルトはセミコロンですが、有効な区切り文字であれば指定できます。この区切り文字についても、属性の区切り文字で説明したルールに従いますが、他の区切り文字と重複することはできません。</p> <p><b>注意:</b> 「添付ファイル」タブには「マルチリスト」のユーザー設定フィールドがありませんが、「ファイル・フォルダ」オブジェクトの「ファイル」タブにはこのフィールドがあります。このため、「マルチリスト区切り文字」は、ファイル・フォルダにファイルをロードする際にのみ使用します。</p>
専用スレッドの数 (Java クライアント)	<p>1~100 の値を入力し、FileLoad プロセスの専用スレッド数を指定します。特にクライアントとサーバーがマルチ・プロセッサ搭載のコンピュータの場合、専用スレッド数を増加すると、FileLoad のパフォーマンスも向上します。</p>
指定したリビジョンが見つからない場合、最新のリビジョンに添付	<p>Agile PLM データベースに存在しないリビジョン値を含むアイテムのファイルを、Agile PLM のオブジェクトの最新リリース・リビジョンに追加したい場合に、このオプションを選択します。リリースされているリビジョンがない場合は、Fileload によってファイルが初版リビジョンに追加されます。(インデックス・ファイルの「セカンダリ・キー」フィールドにはアイテムのリビジョン値があります。)</p> <p>次の状況では添付ファイルは却下され、欠陥ファイルとログ・ファイルに書き込まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このオプションを選択しない場合、Agile PLM データベースに存在しないリビジョン値を含んでいるアイテムのインデックス・ファイルの添付ファイル行が却下され、後でトラブルシューティングできるように、欠陥ファイルとログ・ファイルに書き込まれます。</li> <li>「最新のリビジョンに添付」をチェックすると、ファイルはオブジェクトの最新リリース・リビジョンに添付されます。オブジェクトが「プレリナリ」ステータスの場合は、初版リビジョンに添付されます。</li> <li>インデックス・ファイルの「セカンダリ・キー」フィールドが空白になっている場合、ファイルはアイテムの初版リビジョンに添付されます。インデックス・ファイルの NULL のリビジョンとは、初版リビジョンのことです。</li> <li>保留中リビジョンにファイルをアップロードするには、インデックス・ファイルのリビジョン値を、(A)や(1.0)など、括弧で囲う必要があります。</li> </ul>
確定アイテムにファイルを添付	<p>確定アイテムに添付ファイルを追加する場合は、このボックスをチェックします（ただし適切な権限があることを前提とします）。このボックスがチェックされておらず、FileLoad が確定アイテムにファイルを添付しようとした場合、「オブジェクト&lt;オブジェクト番号&gt;は確定済であるため、この操作を実行できません」というメッセージが表示されます。</p> <p><b>注意:</b> インデックス・ファイルのアイテムがすでに確定している場合、「確定アイテムにファイルを添付」がチェックされていることを確認してください。</p>
各ファイルに個別フォルダを作成します	<p>このボックスがチェックされている場合、FileLoad はファイルを別々のフォルダにロードします。</p> <p>チェックされていない場合、FileLoad は同じプライマリ・キー値を持つ連続した行を別々に処理します。FileLoad は両方のファイルに同じファイル説明を使用し、両方のファイルを同じファイル・フォルダに追加します。</p>
ログ・ファイルのディレクトリ (Java クライアント)	<p>ログ・ファイルを作成する場所を指定します。</p>
OK (Java クライアント) ロード (Web クライアント)	<p>インデックス・ファイルの読出しと添付ファイルの処理が開始されます。</p>

オプション	説明
閉じる	FileLoad ウィンドウまたはページを閉じます。 <b>注意:</b> 「閉じる」 ボタンは、ロード・プロセスを開始すると無効になります。

**重要** FileLoadが完了メッセージを表示せずに終了した場合は、重大なネットワーク障害が発生してロードが完了しなかった可能性があります。このような場合は、「ロード」の最後のファイルがターゲット・データベース内にあることを確認してください。このようなファイルがターゲット・データベース内になく、欠陥ファイルに示されていない場合は、FileLoadが停止した場所を特定し、残りのファイルをロードします。

## 結果を評価する

このセクションでは、Java クライアントと Web クライアントで FileLoad 結果を評価する方法を説明します。

### JavaクライアントでFileLoad結果を評価する

Agile Java クライアントでは、FileLoad の要約が FileLoad ウィンドウの拡張部分に表示されます。

Total 10	Processed 10
Bad 4	loaded 6
Start Time 10/28/2005 1:54:38	End Time 10/28/2005 1:55:6

FileLoad ログ・ファイルは指定されたログ・ファイルのディレクトリに保存されます。ログ・ファイルはテキスト・エディタなどで開くことができます。各セッションで、FileLoad は次のようなログ・ファイルを作成します。

- インデックス・ファイル.日付.時刻\_BAD - FileLoad プロセス中に却下されたインデックス・ファイルの行が含まれます。
- インデックス・ファイル.日付.時刻\_LOADED - FileLoad プロセス中に正常にロードされたインデックス・ファイルで却下された行が含まれます。
- インデックス・ファイル.日付.時刻\_LOG - FileLoad プロセス中に却下されたインデックス・ファイルの各行が、エラー・メッセージとともに含まれます。
- インデックス・ファイル.日付.時刻\_SUMMARY - FileLoad の要約情報が含まれます。

**注意** ログ・ファイルの名前を変更し、.TXT という拡張子を付けると、自動的にテキスト・エディタと関連付けられます。

### WebクライアントでFileLoad結果を評価する

Agile Web クライアントでは、FileLoad がインデックス・ファイルの添付処理を終了すると、「FileLoad の要約」が表示されます。

添付ファイルのロード結果が「FileLoad の要約」ページに表示されます。

「欠陥ファイルの表示」をクリックし、欠陥記録のログ (LogFile.BAD) を開くか、保存します。このログには、



FileLoad プロセス中に却下されたインデックス・ファイルの行が含まれます。

「ログ・ファイルの表示」をクリックし、ログ・ファイル (LogFile.LOG) を表示または保存します。このログには、FileLoad プロセス中に却下されたインデックス・ファイルの各行と、エラー・メッセージが含まれます。

**注意** ログ・ファイルはまずディスクに保存してから表示することをお勧めします。ログ・ファイルを保存する際は、ファイルが自動的にテキスト・エディタに関連付けられるように、拡張子 **.TXT** を追加してください。

「FileLoad」ページを閉じるには、「完了」をクリックします。

## ログ・ファイル出力の例

欠陥ファイル内の拒絶されたインデックス・ファイル行は、原因を説明するエラー・メッセージとともにログ・ファイルに書き込まれます。

**CHANGE,23450,,D:/dwg/0021c.dwg,FILE,Torque Widget**  
< 添付するファイルが見つかりません。 >

**ITEMBAD,1000-02,666,D:/dwg/0021c.dwg,FILE,Torque Widget**  
< オブジェクト・タイプが無効です。 >

**MFR,MFR\_TEST1,,D:/dwg/0031e.dwg,FILE,Cap Widget**  
< オブジェクトが見つかりません。 >

## 却下された添付ファイルを修正して再ロードする

却下されたインデックス・ファイルの各行は、欠陥ファイルとログ・ファイルに書き込まれます。

- 欠陥ファイルには、インデックス・ファイルから却下された行のみが含まれます。
- ログ・ファイルは、却下された添付ファイル行に対して原因を説明するエラー・メッセージが付加される点を除いては、欠陥ファイルと同じです。

ログ・ファイルのエラー・メッセージを参考にして、欠陥ファイル内の却下された行を修正します。

**重要** ロードイン・ファイルがソース・ファイルの正確なコピーであることが確認できるまでは、ロードイン・ファイルを使用してコミットしないでください。ロード処理で問題が発生して1つまたは複数のファイルが必要になる可能性が少しでも残っている場合は、すべてのソース・ファイルを保持しておく必要があります。

**ログ・ファイルと欠陥ファイルを使用する手順は次のとおりです。**

1. 欠陥ファイルとログ・ファイルを特定し、それぞれをテキスト・エディタで開きます。
2. ログ・ファイルのエラー・メッセージを使用して、欠陥ファイル内の却下された添付ファイル行を修正します。
3. 修正した欠陥ファイルを新規インデックス・ファイルとして保存し、ファイル名に数字を加えます。例：IndexBAD1.txt。これにより、元のインデックス・ファイルが上書きされず、処理されたインデックス・ファイルのアーカイブが保持されます。
4. 新規のログ・ファイルを選択して処理します。152ページの「[添付ファイルの処理](#)」を参照してください。
5. 「FileLoad の要約」に欠陥レコードが表示されなくなるまで、このリビジョンと再ロードを繰り返します。

**注意**     すでにロードされているIndexファイルに対して再実行すると、FileLoadは、指定されたすべてのファイルをもう一度割り当てます。複数のインデックス・ファイルを使用している場合は、どのファイルが正常にロードされたかを必ず追跡するようにします。重複した添付ファイルを特定して削除するのは、困難で時間のかかる作業になります。

## エラー・メッセージ

このセクションでは、表示される FileLoad エラー・メッセージについて適宜説明します。

### 「添付ファイル」タブが非表示です

ファイルを追加するオブジェクトの「添付ファイル」タブが、管理者でアクティブになっていません。「添付ファイル」タブは、Agile PLM 管理者により、Java クライアントで表示状態にしておく必要があります。

### 添付するファイルが見つかりません

インデックス・ファイルのエントリで、添付ファイルのパスとファイル名の綴りを修正します。URL を添付した場合、サポートされるプロトコルはFTP、HTTP、ファイル、およびHTTPSです。アドレスは確認されません。

### オブジェクト <プライマリ・キー> が見つかりません

添付ファイルを受け取るターゲット・オブジェクトがデータベースで見つかりません。行の最初の3つのフィールド（オブジェクト・タイプ、プライマリ・キー、セカンダリ・キー）を組み合わせたオブジェクトです。欠陥ファイルでこれらのフィールドに正しい値が入力されていること、およびその名前のオブジェクトがデータベースに存在していることを確認します。必要に応じて、オブジェクトを追加するか、インデックス・ファイルを変更します。

### 指定されたリビジョンが見つかりません

インデックス・ファイルのアイテムのリビジョン識別子がデータベースに存在しません。また、「FileLoad のオプション」で「[最新のリビジョンに添付](#)」が選択されていません。152ページの「[添付ファイルの処理](#)」を参照してください。

### インデックス・ファイルが見つからない、もしくは空です

インデックス・ファイルのパスが間違っている（インデックス・ファイルのパスを手動で入力した場合）か、指定したインデックス・ファイルが空です。

### リストの値が見つかりません

ユーザー設定の「リスト」または「マルチリスト」フィールドのリスト値が、すべてまたは部分的に不正です。

### 添付ファイルがチェックアウトされているため、この操作を実行できません

指定された添付ファイルのファイル・フォルダがチェックアウトされているため、ファイルはアップロードされません。ファイル・フォルダがチェックインされていることを確認した上で、再度 FileLoad を使用してファイルをアップロードしてください。

### オブジェクト<オブジェクト番号>は確定済であるため、この操作を実行できません

アイテムはECOにより確定されているため、添付ファイル・テーブルは読取り専用です。確定アイテムに添付ファイルを追加するには、「FileLoad のオプション」ダイアログ・ボックスで必ず「**確定アイテムにファイルを添付**」をチェックします。

### ファイルの添付に失敗しました

却下の原因が不明であるか、複数のエラーが発生した場合のエラーです。データベースにオブジェクトが

存在することを確認し、インデックス・ファイルのエントリを確認した後に再試行します。作成者の役割が必要です。

空のファイルは追加できません。

添付するファイルのサイズが 0（ゼロ）です。

ファイル・サーバーがダウンしている可能性があります。ファイル・サーバーの設定を確認してください

Agile ファイル・マネージャ・サーバーがダウンしています。ファイル・マネージャがインストールされているコンピュータで、ファイル・マネージャを起動してください。Windows では、Apache Tomcat サービスを開始する必要があります。

日付フォーマットが無効です

ユーザー設定の「日付」フィールドがユーザー・プロファイルの日付/時刻フォーマットに準拠していません。

無効な数字です

ユーザー設定の「数値」フィールドが数値になっていません（文字列が含まれている可能性があります）。

無効なオブジェクト・タイプです

インデックス・ファイルの行が有効なオブジェクト・タイプ・キーワードで開始されていることを確認してください。148ページの「[オブジェクト・タイプ・キーワード](#)」を参照してください。

非表示の属性フィールド

指定されたユーザー設定フィールドの表示が有効になっていません。ユーザー設定フィールドは管理者の機能で有効（表示状態）にしておく必要があります。

有効な添付ファイル・タイプではありません。FILE、URL、または INPLACE である必要があります。

Web クライアントで FileLoad を使用している場合、「添付ファイル・タイプ」フィールドは FILE または URL である必要があります。Java クライアントで FileLoad を使用している場合、第 3 の添付ファイル・タイプ INPLACE がサポートされます。

フィールド数が最小限必要な数に達していません。

インデックス・ファイルの各行には、少なくとも 6 つの区切りフィールドが含まれている必要があります。空白フィールドは区切り文字 2 つで表します。

---

**注意**      タブを区切り文字として使用している場合、各行の最後のフィールドの後にタブがないことを確認します。

---

プライマリ・キー（2 つ目）のフィールドが空です。

2 番目の「プライマリ・キー」フィールドは必須フィールドです。基本クラスに基づき、常に有効なオブジェクト番号または名前が必要です。148ページの「[プライマリおよびセカンダリ・キー](#)」を参照してください。

「添付ファイル」タブでは、属性のフィールド名は見つかりませんでした。

このメッセージは、指定されたユーザー設定フィールドの名前が見つからないことを示します。ユーザー設定フィールドは管理者の機能で有効（表示状態）にしておく必要があります。また、インデックス・ファイル内の「**属性名と値**」の分離文字が不正な場合は、フィールド名を正しく特定できません。

文字の長さが最大長を超えています。

ユーザー設定の「数値」フィールドの文字長が管理者で定義した最大長を超えています。

数値が最小値と最大値の範囲ではありません。

ユーザー設定の「数値」フィールドの値が管理者で定義した最小値と最大値の範囲を超えています。

文字列の長さが 0 と最大値の範囲ではありません。

ユーザー設定の「テキスト」フィールドの文字長が管理者で定義した最大長を超えています。

ユーザー権限が不十分です。

オブジェクトに添付されたファイルに対して、ユーザー権限が十分ではありません。

Agile Application Server に接続できません。

Application Server が起動しており、チェックイン権限を使用してログインしていることを確認してください。

# データ・エクスポート用のAgile aXML スキーマ

## この章のトピック

■ 変更履歴 .....	159
■ 変更履歴 9.3.0.1 .....	160
■ 概要 .....	160
■ オブジェクト参照 .....	160
■ Null値 .....	161
■ 属性名 .....	161
■ 日付 .....	162
■ マルチリスト・フィールド .....	162
■ ユーザーによって定義されたユーザー設定フィールド .....	162

## 変更履歴

次の表は、各リリースで発生した主なスキーマの変更を要約したものです。

リリース番号	スキーマの場所 (URL)	変更
9.3	<a href="http://www.oracle.com/technology/products/applications/xml/plm/2009/06/aXML.xsd">http://www.oracle.com/technology/products/applications/xml/plm/2009/06/aXML.xsd</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ リリース 9.3 で新規フィールドを追加: Redline TitleBlock をサポートするために RedlinedItemAttributes ノードが ChangeOrders と AffectedItems に追加されました</li> <li>□ ItemMultitext41 から 45 に対する対象アイテム参照のエラーを修正しました (ItemMultitext51 から 55 と誤表示されていました)</li> </ul>

## 変更履歴 9.3.0.1

次の表は、各リリースで発生した主なスキーマの変更を要約したものです。

リリース番号	スキーマの場所 (URL)	変更
9.3.0.1	<a href="http://www.oracle.com/technology/products/applications/xml/plm/2009/06/aXML.xsd">http://www.oracle.com/technology/products/applications/xml/plm/2009/06/aXML.xsd</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リリース 9.3 で新規フィールドを追加: Redline TitleBlock をサポートするために RedlinedItemAttributes ノードが ChangeOrders と AffectedItems に追加されました</li> <li>ItemMultitext41 から 45 に対する対象アイテム参照のエラーを修正しました (ItemMultitext51 から 55 と誤表示されていました)</li> </ul>

## 概要

Agile aXML スキーマには、aXML 構造用の XML スキーマ定義 (XSD) が用意されています。この付録では、aXML スキーマの主なコンポーネントを記載して説明します。このファイルには <http://www.oracle.com/technology/products/applications/xml/plm/2009/06/aXML.xsd> からアクセスできます。

Agile オブジェクトを aXML ファイルにエクスポートすると、エクスポートされたデータは ZIP ファイルになります。この ZIP ファイルには、抽出データを持つ agile.xml ファイル、および抽出に含まれるあらゆるファイル添付が格納されます。

## オブジェクト参照

aXML パッケージ内では、関連オブジェクトが ID によって相互参照されます。この要件をサポートするため、すべてのオブジェクトには識別を目的とする独自の固有 ID 属性が与えられ、対応するノードで referentId 属性によって参照されます。

たとえば、ある変更とその対象アイテムをエクスポートする場合、ChangeOrders ノードに埋め込まれる AffectedItems ノードには、同じ aXML パッケージにある Parts ノードの uniqueId 属性に対応する referentId 属性が付けられます。

具体的には、aXML パッケージのデータは次のようになります。

```
<ChangeOrders uniqueId="6000:6119455">
  ...
  <AffectedItems referentId="10000:6119451:6119455">
    ...
  </AffectedItems>
  ...
</ChangeOrders>
<Parts uniqueId="10000:6119451:6119455">
  ...
</Parts>
```

同様の参照は、たとえば BOM アイテムとその対応する部品の間でも見られます。

## Null値

あるオブジェクトの属性に値がない場合、そのオブジェクトの aXML 抽出の結果には、対応する属性に対するノードが含まれません。たとえば、「ページ 2.テキスト 01」が有効になった部品があり、P1 というオブジェクトに対して「テキスト 01」フィールドに値がない場合、aXML 抽出内にこの情報は表示されません。

この例で、「ページ 2.テキスト 02」も有効で、P1 に対して value という値がある場合、aXML パッケージは次のようになります。

```
<Parts uniqueId="10000:6119451:6119455">
  <TitleBlock>
    <Number>P1</Number>
    ...
  </TitleBlock>
  <PageTwo>
    <Text02>value</Text02>
  </PageTwo>
</Parts>
```

P1 が後で編集され、「テキスト 01」に値セットが与えられると、aXML は次のようになります。

```
<Parts uniqueId="10000:6119451:6119455">
  <TitleBlock>
    <Number>P1</Number>
    ...
  </TitleBlock>
  <PageTwo>
    <Text01>new value</Text01>
    <Text02>value</Text02>
  </PageTwo>
</Parts>
```

## 属性名

aXML スキーマでは固定スキーマが使用されます。つまり、オブジェクト属性の属性名は静的です。たとえば、「部品」の「ページ 2」の Text01 属性の名前を「My Field」に変更しても、抽出された aXML データでは、そのフィールドのノード名として引き続き「Text01」が使用されます。前のセクションで示した例では、このフィールドに割り当てた名前にかかわらず、Text01 ノードは引き続き Text01 として抽出されます。

## 日付

aXMLパッケージでは、エクスポートが実行されると、日付フィールドは常にGMTゾーンで表示されます。たとえば、変更がリリースされた日付などのフィールドが、ユーザー・インタフェースではローカル・タイム・ゾーンで表示される場合でも、aXML抽出プロセスではデータは常にGMTタイム・ゾーンで抽出されます。日付形式は、タイム・ゾーン・インジケータを含め、W3C規格に準拠しています（詳細は、<http://www.w3.org/TR/NOTE-datetime>を参照してください）。

## マルチリスト・フィールド

マルチリスト・フィールドがaXMLに抽出されると、フィールドに対する異なる値が別個の値ノードに抽出されます。たとえば、ある部品の「ページ2」の「マルチリスト01」フィールドが抽出された場合、結果は次のようになります。

```
<PageTwo>
  <Multilist01>
    <Value>List Value 1</Value>
    <Value>List Value 2</Value>
  </Multilist01>
</PageTwo>
```

## ユーザーによって定義されたユーザー設定フィールド

ユーザーによって定義されたユーザー設定フィールドでは、抽出によってFlexAttributeノードが生成されます。各ノードには名前と値のサブノードが付いています。値ノードには、タイプを示す属性が付けられます。

FlexAttributeノード（「ページ2」または「ページ3」に対するもの）はすべてFlexAttributesノード内に含まれています。xxxxはユーザー設定フィールド属性の属性IDです。

```
<FlexAttributes>
  <FlexAttribute Id="xxxx">
    <name>name</name>
    <value xsd:type="xsd:string">value</value>
  </FlexAttributes>
</FlexAttributes>
```

様々なユーザー設定フィールド・タイプでのサンプル出力を次の例で示します。



## 日付

```
<FlexAttribute Id="2623172">
  <name>Date Field</name>
  <value xsd:type="xsd:string">2008-01-01T00:00:00Z</value>
</FlexAttribute>
```

## リスト

```
<FlexAttribute Id="2623173">
  <name>List Field</name>
  <value xsd:type="xsd:string">List Value 1</value>
</FlexAttribute>
```

## 通貨

```
<FlexAttribute Id="2623174">
  <name>Money Field</name>
  <value xsd:type="MoneyType" Currency="USD">100.00</value>
</FlexAttribute>
```

## マルチリスト

```
<FlexAttribute Id="2623175">
  <name>MultiList Field</name>
  <value xsd:type="MultiListType">
    <Value>List Value 1</Value>
    <Value>List Value 2</Value>
  </value>
</FlexAttribute>
```

## マルチテキスト

```
<FlexAttribute Id="2623176">
  <name>MultiText Field</name>
  <value xsd:type="xsd:string">abcdefg</value>
</FlexAttribute>
```

## 数値

```
<FlexAttribute Id="2623177">
  <name>Numeric Field</name>
  <value xsd:type="xsd:string">1234</value>
</FlexAttribute>
```

## テキスト

```
<FlexAttribute Id="2623178">
  <name>Text Field</name>
  <value xsd:type="xsd:string">abc</value>
</FlexAttribute>
```